

●国際連合大学 2015-2016 年国際教育交流事業●

韓国教職員招へいプログラム

## 実施報告書

東京都・千葉県・東京都狛江市・埼玉県さいたま市・長野県・千葉県成田市

2016年2月16日(火) — 2月22日(月)

国 際 連 合 大 学 (UNU)  
公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター (ACCU)

●国際連合大学 2015-2016 年国際教育交流事業●

韓国教職員招へいプログラム

# 実施報告書

東京都・千葉県・東京都狛江市・埼玉県さいたま市・長野県・千葉県成田市

2016年2月16日(火) — 2月22日(月)

国際連合大学 (UNU)  
公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター (ACCU)



## はじめに

国際連合大学(United Nations University)は、持続可能な人類の安全保障、気候変動、開発、平和構築など、国連とその加盟国が直面している、喫緊の地球規模の諸問題の解決への取り組みに、研究、教育、能力開発、知識の普及を通じて寄与することを目的とする国連機関です。

国際連合大学は、2002年に主にアジア太平洋地域の教職員や教育分野の専門家等の資質の向上と相互理解の促進を目的とし、日本政府からの拠出金をもとに「日本国際教育交流プロジェクト」を開始しました。2000年に設立された「ユネスコ青年交流信託基金」で実施されていた「韓国教職員招へいプログラム」は、同年より本事業のもとで開催されることとなり、同大学からの委託を受けて公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター(ACCU)が実施を担当し、昨年まで15回にわたり、1,766名の韓国の教職員を日本に招へいしてきました。

今回の国際連合大学国際教育交流事業・韓国教職員招へいプログラムは、2016年2月16日(火)から2月22日(月)までの7日間にわたり、韓国の初等中等教育に携わる教職員等111名を我が国に招へいしました。このプログラムは学校およびその他の教育・文化施設を訪問・見学することにより、日本の教育制度およびその現状についての理解を深め、ひいては、両国の相互理解と友好を促進することを目的としています。

実施にあたりましては、文部科学省、韓国ユネスコ国内委員会、韓国教育部、および東京都狛江市・埼玉県さいたま市・長野県の各教育委員会、訪問先の学校、その他の教育・文化施設等、多数の方々の多大なるご支援とご協力をいただきました。ここにあらためて関係の皆様方に厚く御礼申し上げます。

2016年3月

国際連合大学

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター





# 目次

## 第I章 実施内容

1. 全体プログラム(東京都・千葉県) ..... 5
2. グループ・プログラム(各県・市) .....10
3. 全体プログラム(千葉県成田市) .....26

## 第II章 コメントと提案

1. 韓国教職員 .....35
2. 受入れ教育委員会 .....50
3. 受入れ校 .....52
4. 日韓夕食交流会 参加日本教職員 .....58

## 付録

1. 実施要項 .....62
2. プログラム日程 .....64
3. 参加者リスト .....67
4. 関係機関リスト .....73
5. 文部科学省講義資料 .....77
6. 過去のプログラム実績 .....82



# 第1章 実施内容

1. 全体プログラム(東京都・千葉県)
2. グループ・プログラム(各市・県)
3. 全体プログラム(千葉県成田市)



## 1.全体プログラム （東京都・千葉県）

### 1.来日、オリエンテーション（第1日）

「韓国教職員招へいプログラム」の参加者111名は、2016年2月16日（火）に来日した。同日、サンシャインシティ5階コンファレンスルーム「Room15」にて、オリエンテーションが行われた。

はじめに、公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）人物交流部部長の進藤由美が、「ようこそ日本にお越しいただきしました。心よりご歓迎申し上げます。皆様がそれぞれの目的を達成されることを心からお祈り申し上げます」と参加者に歓迎のあいさつを述べた。続いて、各グループへの随行者を含むACCU職員や通訳者の紹介があった。また、ACCU職員より韓国語でプログラム日程の説明や滞在ガイダンスなどが行われた。

### 2.開会式（第1日）

オリエンテーションに続いて、同会場にて開会式が行われた。はじめに訪問団を歓迎して、文部科学省国際統括官の山脇良雄氏より、「皆さまを日本にお迎えできて非常にうれしく思います。日本の教職員や児童生徒との交流を通して、日韓の違いや類似点、それぞれの良い部分などをお互いに学びあう機会にしていただければと思います」と歓迎のあいさつがあった。

続いて本事業主催者である、国際連合大学サステイナビリティ高等研究所所長の竹本和彦氏より、「16回目を迎えるこのプロ

グラムは、日韓友好の象徴です。参加者が帰国後に日韓友好の架け橋の役割を担ってくださることを期待しております」と述べた。

次に本事業の実施団体を代表し ACCU 理事の老川祥一より、「“百聞は一見にしかず”という言葉がありますが、日本の姿をしっかりとご覧になって、日本を感じていただければと思います」とのあいさつがあった。

続いて駐日本国大韓民国大使館参事官の崔成有（チェ・ソンユ）氏のあいさつでは歓迎の言葉とともに、「今回、日本の教育や文化を体験した先生が、帰国後にそれを子どもたちに伝えればそのような教育を受けた子どもたちが今後の両国の繁栄を担うグローバルリーダーに成長するであろう」と教職員への期待が述べられた。

最後に韓国教職員訪問団の団長である朴興淳（パク・フンスン）氏よりあいさつがあり、招へいに対するお礼の言葉とともに「子どもの未来を担う教職員の交流は世界の発展のためにも有益であると考えます。日本の教育現場を見て、日本の教育の良いところを学び、韓国に持ち帰ることができればと思います」と決意が述べられた。



団長の朴興淳氏(開会式)

### 3.講義（第1日）

#### 「日本の初等中等教育の概要」

文部科学省 初等中等教育局

初等中等教育企画課

企画係長 時枝 正和

開会式に続いて、同会場にて文部科学省による「日本の初等中等教育の概要」と題した講義が行われた。講師は文部科学省初等中等教育局初等中等教育企画課の企画係長である時枝正和氏であった。講義の概要は以下の通りである。

#### I) 日本の基本的な初等中等教育制度

- ① 学校体系
- ② 学校数、生徒、教員数
- ③ 在籍者数、就園率・就学率の経年変化
- ④ 義務教育制度の概要
- ⑤ 義務教育費国庫負担制度の概要
- ⑥ 教科書無償給与制度
- ⑦ 教員養成・免許制度の概要
- ⑧ 教育行政制度の概要  
(国・都道府県・市町村の役割)
- ⑨ 学習指導要領とは
- ⑩ 学習指導要領改訂の視点

#### II) 日本の教育政策の一部の紹介

##### i) チーム学校

- ① 学校現場を取り巻く状況の複雑化・多様化
- ② 我が国の教員の現状と課題
- ③ 教員の仕事の時間配分について
- ④ 専門スタッフの割合の国際比較
- ⑤ 「チームとしての学校」像
- ⑥ 「チーム学校」の実現による学校の教職員等の役割分担の転換

##### ii) 全国学力・学習状況調査

- ① 全国的な学力調査
- ② 問題例
- ③ 不利な環境を克服している児童生徒の特徴
- ④ 教育効果の高い学校

質疑応答では、「韓国では受験が過度に重要視され問題になることがあるが、日本ではそういった問題にどのように向き合っているか」、「いわゆる“ゆとり教育”の影響について」などといった質問があがった。



熱心に耳を傾ける教職員（講義）

## 4. 東京近郊校訪問（第 2 日）

### A グループ

#### 千葉県立流山おおたかの森高等学校

プログラム第 2 日の 2 月 17 日（水）、A グループ一行は千葉県立流山おおたかの森高等学校を訪問した。普通科と国際コミュニケーション科がある同校は、2008 年に開校し、2012 年にユネスコスクールに加盟した。「夢・情熱・挑戦」を校訓に掲げた教育活動を推進しており、国際理解教育を中心としたグローバル人材の育成を目標とした授業・行事に取り組んでいる。

一行が到着すると、校長の吉田富昇氏より、「本校は国際理解教育に尽力しており、その中で韓国から先生方をお迎えでき非常にうれしく思います」と歓迎のあいさつがあった。続いて、訪問団を代表して順天八馬（スンチョン・パルマ）高等学校校長の許順行（ホ・スンヘン）氏が答礼で、「貴校を訪問できて光栄です。積極的に日本や日本の教育について学びたいです」と述べた。また、両氏による記念品交換が行われた。

学校紹介映像を鑑賞したのち、国際部長の海老原正昭氏より学校説明が行われた。学校行事、カリキュラム、2 年次から始まる第二外国語などが紹介された。また、同校教頭の和田哲也氏より韓国語でのあいさつがあり、学校周辺の自然、学校名の由来、英語教育指定校・ユネスコスクールとしての活動などが紹介された。質疑応答では、国際コミュニケーション科の選抜基準、国際コミュニケーション科から普通科への編入可否、学校のマスコットキャラクターの作成過程などについて質問があがった。

次に、2 グループでの授業参観が行われ、数学、英語、保健体育などの授業、また調理室や図書室などの設備を見学した。

昼食をはさみ、国際交流コミュニケーション科生徒との交流会が行われた。まず、合唱部による歓迎公演があり、「千葉県立おおたかの森高等学校校歌」、「怪獣のバラード」、「ふるさと」の 3 曲を鑑賞した。続いて、3 年生が韓国語でスピーチを行い、韓国語を学び始めた理由や韓国への想いを熱く語った。スピーチが終わると、少人数のグループに分かれて 2～3 年生との交流時間が持たれた。休憩をはさみ、同校教職員との意見交換会が行われた。異文化教育推進のための行政からの支援、外国籍の生徒の有無およびそれらの生徒へのサポート、PTA の果たす役割、小中学校との連携などが話題にあがり、盛んに意見交換が行われた。最後に記念写真を撮影し、一行は同校をあとにした。



国際コミュニケーション科生徒との交流会  
（千葉県立流山おおたかの森高等学校）

### B グループ

#### トキワ松学園中学校高等学校

金聖烈（キム・ソンヨル）氏をグループ長とする B グループ一行は、2 月 17 日（水）、



東京都目黒区にあるトキワ松学園中学校高等学校を訪問した。同校は「鋼に一輪のすみれの花を添えて」を校訓に、「鋼鉄の強さ」と「すみれ」のやさしさを備え、世界に貢献できる生徒を育成する女子校である。

一行が到着するとはじめに校長の金谷三枝子氏より歓迎のあいさつがあり、同校は現在ユネスコスクールの一員として、世界を視野に協働して問題解決できる女性の育成を掲げていること、同校の教職員並びに生徒も、韓国教職員の訪問を楽しみにしていたことが述べられた。続いて訪問団を代表して清州新興（チョンジュ・シヌン）高等学校の校長である郭泳文（クァク・ヨンムン）氏が、同校の校訓がとても印象的だった、協働学習に取り組み生徒が学び合いながら探求心を育てる教育方法について学びたい、と述べ記念品を贈呈した。

次に、同校の本プログラム担当である岩谷奈美氏より学校概要説明があった。説明では同校の特徴的な教育である「探求女子」を育てる実践方法について画像を用いて詳しく説明があり、続いて高校 1 年の GS（Global Studies）の授業参観と図書館見学、中学 3 年の PA（Project Adventure）の授業参観と体育館地下のプール見学があった。GS とは、世界の諸問題を英語で学び、プレゼンテーションや論文をまとめる授業である。PA とは、冒険教育を利用して人間形成や人間関係の構築を目指すプログラムであり、同校が日本で初めて学校教育に導入した。次に防犯訓練があり、不審者が校内に侵入し、取り押さえられるまでの生徒や教職員の動きを見学した。訪問団員からは、韓国の学校でも是非取り入れたいとの声が上がった。

昼食や生徒との交流時間をはさみ、訪問団員による韓国文化の授業があった。高校 1 年生 2 クラスで行われた授業では、韓国の中学生の生活や韓国の伝統衣装である韓服の紹介などがあった。日本の生徒を前に初めて授業をした訪問団員からは、同年代の生徒は韓国も日本も同じだと感じたなどの感想が聞かれた。

同校訪問の最後に行われた教職員の意見交換では、学校運営に係る予算やスマートフォンについての質問があがり、活発に意見交換がなされた。最後に記念撮影があり、生徒や教職員に見送られながら訪問を終えた。



「韓服」について授業を行う訪問団員  
（トキワ松学園中学校高等学校）

## C グループ

### 昭和女子大学附属昭和中学校・高等学校

プログラム第 2 日の 2 月 17 日（水）、C グループは昭和女子大学附属昭和中学校・高等学校を訪問した。同校は創立 95 周年を迎えた伝統ある女子校で、「世の光となるう」を学園目標としている。2012 年ユネスコスクールに加盟、また 2014 年に文部科学省によるスーパーグローバルハイスクール（SGH）に指定された。

一行が到着すると、会議室にて校長の大泉章子氏より歓迎のあいさつがあり、訪問団からはグループ長で清州（チョンジュ）外国語高等学校校長の金阡培（キム・ギョンベ）氏が「日韓の交流を通じた持続可能な発展を望んでいる。両国の教育について理解を深めたい」とあいさつを述べた。続いて、同校副校長の會川恵志氏より学校概要について説明があった。ユネスコスクールとして国際理解・他者理解・環境教育に力点を置いて ESD に取り組んでいることなどが、実践例を交えて紹介された。その後、6 つのグループに分かれ、茶道体験と授業見学を行った。同校の配慮から、訪問団の担当教科や関心に沿った少人数グループを構成し、通訳のいないグループは同校職員が英語や韓国語で案内した。茶道体験ではおいしいお茶とお菓子で心のこもったおもてなしを受けた。授業見学後、会議室に戻った一行は、同校教職員とともに昼食を取りながら会話を楽しみ、続いて「教科、カリキュラム」「いじめ、暴力」「進路」「ユネスコスクール」のテーマ別に、4 グループに分かれて意見交換を行った。どのグループも活発な議論が交わされ、両国の教職員とも収穫を得られた様子であった。

次に、再度 6 グループに分かれて生徒との交流の時間が設けられた。生徒らは写真を用いて学校生活を紹介したり、韓国への家族旅行の思い出を語ったりして、話に花を咲かせていた。その後、生徒の案内でキャンパスツアーが行われ、同校の特色のひとつであり、中高の生徒が学年を超えた縦割りグループで清掃などの活動をする「朋友班活動」の見学や、こども園から大学院まで備えた広い敷地の散策を楽しんだ。最

後は各グループの生徒が訪問団をバスまで案内し、出発まで手を振って見送ってくれた。



日韓教職員の意見交換  
（昭和女子大学附属昭和中学校・高等学校）

## 5. 日韓夕食交流会（第 2 日）

同日午後 6 時半より、日韓夕食交流会が行われた。これは参加者のうち希望者のみが参加し、日本教職員と夕食をともにする交流会で、韓国側からは 12 名、日本側からは 13 名が参加した。参加者は各自の興味・関心に応じ、「英語」、「日韓交流」、「ESD・ユネスコスクール」の 3 つのグループに分かれ、グループのテーマはもちろん各国での教員生活や学校の様子、両国の文化の違いや食事マナーなどさまざまな話題があり、両国の教職員は楽しいひとときを過ごした。

## 2. グループ・プログラム (各県・市)

### A グループ：東京都狛江市

盤浦(パンポ)高等学校校長の金東湜(キム・ドンシク)氏をグループ長とするAグループは、2月18日(木)から20日(土)までの3日間、東京都狛江市を訪問した。同市教育委員会の協力により、小学校3校、中学校1校のほか、中央図書館、狛江市ペン・缶リサイクルセンター、狛江市立古民家園、泉龍寺を訪問した。

#### ◆ 狛江市教育庁表敬訪問

プログラム第3日の2月18日(木)午前、一行は、狛江市教育委員会への表敬訪問を行った。狛江市役所4階の特別会議室に到着すると、まず同市教育委員会教育長の有馬守一氏より歓迎のあいさつがあった。有馬氏は、「ようこそ狛江市にお越しくできました。この訪問を機に、両国の友好がさらに深まることを祈念いたします」と述べ、一行を歓迎した。続いて、訪問団を代表してグループ長の金東湜氏より、「訪問を受けていただきありがとうございます。両国の教職員がお互いにさまざまなことを学ぶことのできる有意義な訪問となることと思います」と答礼を述べた。次に狛江市からの出席者が紹介された。最後に両氏による記念品交換が行われた。

続いて、同会場にて狛江市のオリエンテーションが行われた。同市教育委員会教育部社会教育課文化財担当係長の宇佐美哲也氏より同市の歴史についての説明があり、続いて教育部指導室統括指導主事の細谷俊太郎氏より同市の教育についての説明があ

った。教育活動の展開として「知」、「徳」、「体」についての説明があり、また個々の児童生徒への支援、子どもの安全確保、学校運営支援と教員育成などにおける取り組みが紹介された。



金東湜氏(左)と教育長の有馬氏(右)(狛江市庁)

#### ◆ 狛江市立狛江第六小学校

同日午後、一行は狛江市立狛江第六小学校を訪問した。1971年に開校した同校は、隣接する多摩川で、総合的な学習の時間を中心に環境教育を行っている。また、平成26年度東京都オリンピック教育推進校、平成27年度東京都オリンピック・パラリンピック教育推進校として、健康教育(運動・保健・食育)を中心に研究実践を進めている。

一行が校門に到着すると、待ち構えていた大勢の児童が列をつくり、「アンニョンハセヨ」と元気なあいさつをするなど、熱烈な歓迎を受けた。集会室に案内され、副校長の鷲見真太郎氏の司会進行で歓迎式が行われた。はじめに校長の川崎貴志氏が、「韓国教職員の皆様の訪問を心より歓迎致します。私は昨年8月に韓国を訪問しましたが、どの学校でも大変温かいおもてなしを受けたため、本日は精一杯お返しをしたいと思います

います」と歓迎のあいさつを述べた。続いて、訪問団を代表をして、ポルマル小学校の校長である李鐘美（イ・ジョンミ）氏が、「このように温かく迎え入れてくださりありがとうございます。本日は韓国教職員による授業が予定されておりますが、韓国教職員と日本児童の心が通じ合い、児童たちにとって良い思い出となることを願っています」と答礼を述べた。続いて、同校の合唱団が、「アリラン」、「気球に乗ってどこまでも」、「ふるさと」の合唱で一行を歓迎した。

休憩をはさみ、授業見学が行われた。「はてなルーム」という教室では、パラリンピックについての調べ学習の発表の様子を見学した。また、道徳の授業では、「日韓両国の良いところ」というテーマで授業が行われていた。ほかにも、体育、音楽、理科、社会、外国語、国語、算数、生活などさまざまな授業を見学した。

続いて、訪問団員による同校児童への授業が行われた。伝統的な遊びや踊り、韓国の学校で行う体操、韓国美術など12学級でそれぞれ授業が行われた。

授業後、集会室に再集合し、同校の教育について、また多摩川での学習について、それぞれ説明があった。その後、8つの小グループに分かれてのディスカッションがあり、それぞれのグループで盛んに意見が交わされた。あるグループでは漢字教育が話題にあがり、訪問団員は特に日本の漢字教育に高い関心を示していた。

最後に記念品交換を行い、一行は同校をあとにした。



訪問団員による授業（狛江市立狛江第六小学校）

#### ◆ 中央図書館

同日午後4時40分より一行は中央図書館を訪問した。中央図書館では、図書館長の加藤清巳氏より、狛江市立図書館の学校図書館教育支援を中心に説明を受けた。公立図書館と学校図書館間の協力貸出や情報交換、また学校間の相互貸借といった制度が紹介された。また、学年別に本を推薦する「読書のみちしるべ」という冊子や、中学生の職業体験、障がい者のためのサービスなどについても説明があった。

質疑応答では、「学校図書館への司書の配置について」、「学校図書館の書籍購入の財源」、「司書の給与体系」などといった質問があがった。

#### ◆ 歓迎レセプション

同日午後6時より、エコルマ6階にて狛江市主催の歓迎レセプションが開かれた。狛江市教育委員会教育部指導室指導主事の坂本尚毅氏の司会進行で行われたこの歓迎レセプションには、狛江市長の高橋都彦氏教育長の有馬守一氏をはじめとし、教育委員会の職員、訪問校を含む各校の教職員などが出席した。はじめに高橋氏が韓国語であいさつをすると、訪問団員から拍手があ

がった。続いて、高橋氏は、「狛江市は東京で一番小さい市ですが、それを強みとして行政効率を高め、顔と顔の見える関係を深め、それが教育などにも良い影響を及ぼしています。今回の訪問を通して、そうした狛江市の魅力を感じていただければと思います」と同市を紹介するとともに、歓迎のことばを述べた。続いてグループ長の金東湜氏が答礼で、「このように両国の教育者が交流することでお互いの文化を理解し、互いに尊重し合うことにつながればと思います」と述べた。続いて、高橋氏と韓国ユネスコ国内委員会 (KNCU) の洪輔江 (ホン・ボガン) 氏の記念品交換が行われた。記念品交換が終わると有馬氏が乾杯の音頭をとり、両国教職員の歓談が始まった。歓迎交流会が終盤に差し掛かると訪問団員は「アリラン」を扇子などの演出付きで合唱し、また狛江市教職員は同市の歌である「水と緑のまち」を披露し、「音楽の街」と称される同市にふさわしく音楽を通じて両国の教職員が心を通わせた。最後に狛江市立狛江第六小学校校長の川崎貴志氏が締め音頭をとり、終始和やかな雰囲気の中、歓迎レセプションは終了した。



KNCU 洪輔江氏 (左) と狛江市長の高橋氏 (右)  
(歓迎レセプション)

#### ◆ 狛江市ビン・缶リサイクルセンター

プログラム第4日の2月19日(金)午前、一行は狛江市ビン・缶リサイクルセンターを訪問した。1994年10月に竣工した同施設は狛江市内から出されたビン・缶・ペットボトルを再利用するための工場に運びやすくする中間処理施設である。同施設に到着すると、リサイクルしたビンを活用したモニュメントの前で、清掃課主任の熊澤志津夫氏、同課の遠藤智氏に迎えられた。熊澤氏のあいさつのあと、計量器を見学した。続いて、同施設内で実際にビン、缶、ペットボトルなどを選別する様子を見学した。見学後、質疑応答の時間が持たれ、竣工にあたっての住民との合意過程、各家庭からのゴミの回収方法などについて質問があがった。

#### ◆ 狛江市立古民家園

同日午前、一行は狛江市立古民家園を訪問した。同施設は、むいから民家園との愛称で地域住民から親しまれており、狛江市域に残された江戸時代の数少ない建物として、昔の農家の生活についての体験学習や能や生け花、伝統的な遊びの体験の場として活用されている。

同施設に到着すると、狛江市教育委員会学校教育課主事の松下祐三氏より、江戸時代後期の農家の面影を残す旧荒井家住宅主屋や旧高木家長屋門などについての説明があつた。

説明が終わるころに、狛江市立和泉小学校3年1組の児童が同施設に到着した。児童代表が、「韓国の先生方に会えるのを楽しみにしていました」とあいさつを述べたあと、5つのグループに分かれた児童がそれ

ぞれ、けん玉・こま・お手玉・紙ずもう・あやとりのデモンストレーションをした。その後、児童が訪問団員にそれらの昔遊びを教えるという形式で交流の時間が持たれた。この交流時間には、「狛江伝承遊びの会」の協力もあり、訪問団員が児童・地域住民と交流を深めながら、日本の昔遊びに触れる意義深い時間となった。



訪問団員にお手玉を教える児童 (狛江市立古民家園)

#### ◆ 狛江市立和泉小学校

狛江市立古民家園での交流を終えた一行は、児童の案内のもと徒歩で狛江市立和泉小学校へと移動した。2000年に、狛江市立第八小学校と狛江市立第四小学校の統合により開校した同校は、校地にある畑や近くの多摩川などを活用した学習を行っているほか、年間を通して縦割り班活動を行い、異学年の児童が掃除や給食の時間をともに過ごしている。平成25年度には、東京都教育委員会体力向上推進優秀校として表彰を受けた。また、平成21年度には東京都人権尊重教育推進校として研究を行い、研究発表を行った。

到着後、パソコン室に案内され、校長の伊藤栄司氏より歓迎のあいさつがあった。伊藤氏は韓国語で、「本校への訪問を心より歓迎します」と述べた。また、訪問団を代

表してソウル特別市教育庁の金再煥（キム・ジェファン）氏が、「あたたかく迎えてくださりありがとうございます。まるで久しぶりに故郷に帰ってきたような気持ちになりました」と答礼を述べた。その後、栄養教師の稲田明氏より同校の食育の取り組みについての説明があった。食育の説明を受けたのち、一行は児童の案内で各教室に移動し、児童と交流をしながら同校自慢の給食を味わった。給食時には、訪問団員が写真で韓国の給食を児童に紹介する時間も設けられた。給食終了後、ふたたびパソコン室に集合した一行は児童との楽しいひとときについて感想を述べ合った。最後に伊藤氏より、「日韓両国の架け橋になれるよう努力していきたい」との言葉が贈られ、一行は同校をあとにした。



児童との給食交流 (狛江市立和泉小学校)

#### ◆ 狛江市立狛江第一中学校

同日午後、一行は狛江市立狛江第一中学校を訪問した。1947年、当時の狛江村唯一の中学校として創立した同校は、部活動が盛んであり、都大会、全国大会に出場するなど素晴らしい成果をあげている。また、学年・学級・保護者・地域が一丸となって体育祭、合唱祭、多摩川ロードレースを実

施している。3年前より人権教育の基盤である生徒の自尊感情の向上の取り組みを行っている。

同校到着後、全校歓迎集会があった。一行が会場である体育館に入場すると全校生徒から拍手で迎えられた。訪問団員による国家斉唱、同校全校生徒による校歌斉唱に続き、生徒会会長より、「韓国の中学校とは異なる部分もあるかもしれませんが、本校の良さを少しでも知っていただきたいです」とのあいさつがあった。続いて、訪問団を代表して木一（モギル）中学校校長の崔承愛（チェ・スンエ）氏が、「このような歓迎に心より感謝申し上げます。地理的にも近い両国の発展を願っています」とあいさつをした。続いて、同校生徒会より同校の紹介があった。体育祭、合唱祭、そして多摩川サイクリングコースを走るというロードレースなどの学校行事が紹介された。学校紹介が終わると、最後に自国の歌を贈りあった。一行は感謝の気持ちを込めて「アリラン」を合唱し、同校生徒からはおかしに「ふるさと」を合唱した。

歓迎集会終了後、授業参観が行われた。同校校長の樋口豊隆氏、副校長の植村多岐氏の案内のもと、2グループに分かれて、英語、地理、美術、体育、数学などの授業を参観した。また、ホームルームや清掃の様子も見学し、日本の学校生活についての理解を深めた。

授業参観終了後、大会議室に戻ると樋口氏より流暢な韓国語で、「皆様の訪問を心より歓迎致します」とのあいさつがあった。また、グループ長の金東湜氏が、「お招きいただいたことに心より感謝申し上げます」と返礼した。また、韓国語を学習している

生徒2名が韓国語でスピーチを行った。続いて、生徒会役員による発表があり、同校が推進するいじめ防止のためのホワイトリボン運動が紹介された。いじめ防止のために生徒会がつくった歌「ともに」の作成過程なども併せて紹介され、生徒会役員が実際にその歌を披露した。生徒会との質疑応答の時間には、「生徒会はどのような学年構成なのか」、「このように生徒会活動を活発に行うことは日本では一般的なのか」などの質問があがるとともに、「韓国の学校で校長をしているが、ぜひ生徒会交流を実現させたい」との提案もあがった。続いて、2015年8月に「韓国政府日本教職員招へいプログラム」に参加した樋口氏より、訪韓時の様子が伝えられるとともに、プログラム期間中に日本教職員が韓国語で合唱した「美しい世の中」を、ウクレレの弾き語りで披露した。韓国語でスピーチを行った生徒や、訪問団員も一緒に歌い、会場にいる両国の教職員および生徒が音楽を通して1つになった。最後に樋口氏、金東湜氏による記念品交換が行われ、一行は同校を後にした。会場を出る際に多くの訪問団員がホワイトリボン運動への共感を示し、署名を行った。



韓国教職員による「アリラン」合唱  
(狛江市立狛江第一中学校)

## ◆ 狛江市立緑野小学校

プログラム第5日の2月20日(土)午前、訪問団一行は、狛江市立緑野小学校を訪問した。2005年に開校した同校は、平成23・24年度、東京都人権尊重教育推進校として研究した成果を継続・発展させている。

学校到着後、同校校長の大場一輝氏より学校説明があり、どのクラスも週1回は利用するという図書館、探求的な学習(問題解決型学習)の推進、併設されている特別支援学級などが紹介された。続いて、大場氏の案内のもと、学校の施設見学を行った。4階では、富士山が見えるというロビーや、壁が可動式でオープンスペースとなっている5年生の教室、風車と太陽光発電を行っている屋上を、3階では、低学年用、高学年用の2つの音楽室を、1階では1万5000冊の蔵書数を誇る図書室やタブレットを使用する際に使うICTルームを見学した。施設見学を終え、ランチルームに戻ると質疑応答の時間が持たれた。「防災について」、「校舎デザインの予算について」、「地域との連携について」、「清掃活動について」など多くの質問があがった。質疑応答後に第6学年全員によるプラスバンド活動の映像を鑑賞した。最後に訪問団を代表して金東湜氏より大場氏に記念品が贈呈された。



図書室見学(狛江市立緑野小学校)

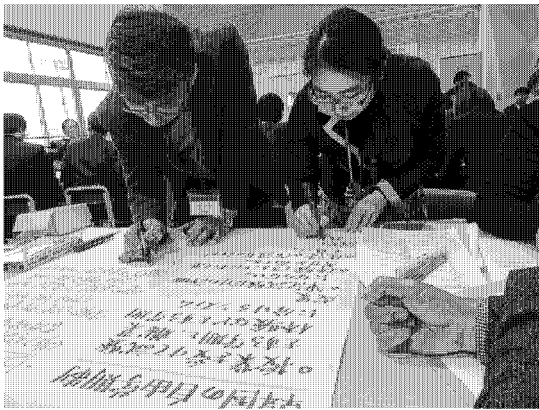
## ◆ 日韓教育交流会

同日10時より、狛江市立緑野小学校2階ランチルームにて日韓教育交流会が行われた。狛江市の9つの小中学校から計30名が参加し、訪問団員と①いじめ・不登校、②外国語活動・英語教育、③教科横断型授業、④健康教育、⑤特別支援教育の5つのテーマでグループディスカッションを行った。

まずは、それぞれのテーマが2つのグループにわかれ、5~6人の小グループでディスカッションを行った。各自が用意してきたシートをもとに英語で自己紹介・学校自慢をし、アイスブレイクをしてからディスカッションに入った。45分間のディスカッションを終えると、15分間で①現状/成果および課題、②解決に向けて、③相手国の取り入れたい点を中心にディスカッションの成果を模造紙にまとめた。

休憩をはさみ、同じテーマのグループ同士での情報共有の時間を持ったあと、最後に他のグループの成果物を自由に見てまわる時間が設けられた。各グループの担当者が模造紙の近くに残り成果についての説明を行った。交流会の最後にグループ長の金東湜氏より、「このようにたくさんの日本の先生と交流を持てたことで旅の疲れがすべて吹き飛びました。このような場を持てたことをうれしく思います」とのあいさつがあった。交流会終了後も両国の教職員は同会場で一緒に昼食をとるなど親睦を深めた。食事を終えるころに、狛江市立狛江第一中学校校長の樋口豊隆氏より「中学生の自尊心や自己肯定感をどのように高めるか」についての発表があり、両国の教職員は熱心に耳を傾けた。





成果を模造紙にまとめる両国の教職員  
(日韓教育交流会)



同じテーマ同士での情報共有 (日韓教育交流会)

本文化に触れるだけでなく、今回のホストファミリーは狛江市立狛江第六小学校、狛江市立和泉小学校、狛江市立第一中学校の児童生徒の家庭であったため、家庭や保護者の視点からこれらの訪問校について学ぶ良い機会となった。ホームビジット終了の20時になると、どの参加者も笑顔で公民館に戻り、「素晴らしい思い出ができた」、「あたたかいおもてなしに感動した」と熱く語った。



本堂を見学する一行 (泉龍寺)

#### ◆ 泉龍寺・情報共有会・ホームビジット

同日、13時30分より一行は泉龍寺を訪問した。弁財天池を見学したのち、鐘楼門を通り、狛江市内最古の建造物である泉龍寺本堂を見学した。また、仏教文庫についても説明を受けた。

泉龍寺訪問を終えた一行は、公民館へと移動した。公民館では、猪方はやし保存会によるお囃子の演奏を鑑賞した。続いて、同会場で情報共有会が行われた。翌日の報告会に向けて、グループ全員で意見を述べ合い、今回の訪日を通して得られた成果や学んだことについて振り返った。情報共有会が終わると、同会場にてホームビジットの対面式が行われ、2人1組で各家庭を訪問した。日本の一般家庭訪問を通して、日

## B グループ：埼玉県さいたま市

順天旺之（スンチョン・ワンジ）小学校校長の金聖烈（キム・ソンヨル）氏をグループ長とする B グループは、2月18日（木）から20日（土）までの3日間、埼玉県さいたま市を訪問した。同市教育委員会の協力により、小学校1校、中学校1校、特別支援学校1校に加え、さいたま市大宮盆栽美術館を訪問した。

### ◆ さいたま市教育委員会表敬訪問

2月18日（木）午前、さいたま市立教育研究所にてさいたま市教育長の稲葉康久氏と教育委員会を表敬訪問した。まず、稲葉氏が「国際社会をたくましく豊かに生きる児童生徒の育成」を目指し、新しい英語教育「グローバル・スタディ科」を実施していることを紹介し、この訪問を良い機会に韓国と日本の友好が更に深まることを願っている、と述べた。次に訪問団を代表してグループ長の金聖烈氏が、今回の受入れに感謝の意を述べ、同市の素晴らしい教育政策とESDの成果についての情報交換を楽しみにしている、とあいさつした。続いて記念品交換とさいたま市の出席者紹介があり、表敬訪問を終えた。

休憩をはさみ、同市のオリエンテーションがあった。オリエンテーションでは、はじめにさいたま市の学校教育について説明があり、教育委員会の組織、学校・児童生徒数、基本構想や施策が説明された。次に教育研究所所長の竹居秀子氏のあいさつがあり、続いてさいたま市における教職員研修についての説明があった。最後に質疑応答の時間があり、訪問団からは、教育委員会の組織についての質問や教職員研修につ

いての質問があがり、一行はさいたま市の教育事情について理解を深めた。



さいたま市教育委員会表敬訪問  
(さいたま市立教育研究所)

### ◆ さいたま市新開小学校

同日午後、一行はさいたま市立新開小学校を訪問した。同校は「夢に向かってともに学び合う学校」を教育目標に掲げ、積極的に国際交流に取り組んでいる。2012年にユネスコスクールに加盟した。

一行が到着すると、はじめに2グループに分かれて授業参観があった。2年生の体育の授業では、体育服が半ズボンであることに驚く一方、教員が笛ではなく太鼓を使う理由が、笛の音が苦手な児童への配慮の側面があることが説明され、児童への細やかな配慮がなされていることに感心した。4年生の「新開ワールド」という総合的な学習の授業では、さいたま市が独自で行うゲームを通じた人間関係構築プログラムを見学し、同市の心の教育現場を見学した。

次に多目的室で全体会があり、校長の佐々木克己氏が同校の児童や教職員を紹介しながら訪問団を歓迎し、続いて韓国教員大学校附設月谷（ウォルゴク）小学校校長の韓基煥（ハン・ギファン）氏が今回の訪問を通して日韓教職員の相互理解とユネス

コスクールの繋がりが持続的なものとなることを願っている、とあいさつした。次に教頭の上原善一氏から学校概要説明があり、豊かな自然環境を学習教材として生かしていることや、各学年での具体的な取り組みについて説明があった。

休憩をはさみ、担任や特別支援担当、栄養士、事務職員などさまざまな教職員が参加する教職員の意見交換があった。はじめに全員が自己紹介をし、教職員それぞれの役割や授業参観で見学した人間関係構築プログラムについての質問などがあがり、大いに盛り上がった。

最後に記念撮影をし、多くの同校教職員に見送られながら同校を後にした。



授業見学をする訪問団員（さいたま市立新開小学校）

#### ◆ 歓迎交流会

同日午後 6 時より、ラフレさいたま 2 階レストラン「サルデー」にてさいたま市主催の歓迎交流会が行われ、同市教育委員会、訪問校校長、ホストファミリーなどが出席した。はじめに稲葉教育長に代わって、さいたま市教育委員会学校教育部指導 1 課参事兼課長の加藤明良氏があいさつし、以前韓国の先生をお迎えした時、英語の重要性を感じたこと、同市では来年度小学 1 年生から英語教育を始めることなどが紹介され

た。次に訪問団を代表してグループ長の金聖烈氏が、同市を訪問できた喜びを伝え、日本の教育や同市の施策について学びたいと述べた。続いて、本事業の実施団体を代表して、ACCU 人物交流部部長の進藤由美が、本事業の紹介とともに、同市に対して受入れの感謝を伝えた。その後訪問校の校長が紹介され、さいたま市立新開小学校校長の佐々木克己氏の音頭によって乾杯があった。

訪問校の校長やホストファミリーと対面した訪問団は、はじめは緊張した様子も見受けられたが徐々に打ち解け、時間の経過とともに大いに盛り上がった。途中、色とりどりの韓服に身を包んだ訪問団員からさいたま市への感謝を伝えるため、となりのトトロより「さんぽ」の合唱が披露されると、日本側からは手拍子が起こり、終盤には訪問団と日本側と一緒に歌う様子も見られた。教育長の稲葉康久氏が到着すると、直接的な国際交流が国際理解を深める上で重要であることは言うまでもない、韓国の先生方には是非同市の教育について多くを知って帰国して欲しいと述べ、あいさつした。最後にさいたま市立木崎中学校校長の大澤敬氏が締め音頭をとり、歓迎交流会は大盛り上がりのうちに幕を閉じた。



「さんぽ」の合唱を終えた訪問団員  
（さいたま市歓迎交流会）

◆ さいたま市立さくら草特別支援学校

2月19日(金)午前、Bグループ一行はさいたま市立さくら草特別支援学校を訪問した。同校は、さいたま市南東部在住の肢体不自由と知的障害を併せ有する児童生徒の、通学に要する負担を軽減するため、市内2校目の特別支援学校として、平成24年に開校した。小学1年から高校3年まで12学年の児童生徒43名が在籍している。

はじめに、校長の米山文雄氏よりあいさつがあった。米山氏は訪問団を心より歓迎する、同校は児童生徒が夢や希望を持ち、地域に根差した学校となるよう努力しているとあいさつした。続いて橋門(キョムン)中学校校長の金順禮(キム・スンレ)氏が、今日の出会いを有意義なものとしたいとあいさつし、記念品を贈呈した。

次に同校教頭の岡田健彦氏より学校概要説明があり、児童生徒数・教職員数の他施設や給食についての説明があった。中でも、同校の教育活動の柱である「交流および共同学習の積極的推進」に関する説明では、「居住地校との交流・学校間交流・地域交流」の同校の具体的な取り組みが紹介され、訪問団員は感心した様子で話しに聞き入っていた。訪問団からは、開校時地域住民の反対はなかったか、医療的緊急事態の対応についての質問があがった。

休憩をはさみ、2グループに分かれて授業参観と施設見学があった。校舎出入口近くに医療的ケア室や保健室が設置され、登校時は初めに体調の確認をしてから各教室に向かうこと、サウナが設置された屋内プールでは、体育の授業の他、災害時の地域住民の備えとしての機能があることが紹介された。

高等部では表現力を身に付ける授業や数学の授業を、小学部では卒業式に向けて歌を練習する音楽の授業などを見学し、同校の充実した設備と体制に感心する様子が見受けられた。最後に記念写真を撮り、訪問を終えた。



「指筆」の説明に聞き入る訪問団員  
(さいたま市立さくら草特別支援学校)

◆ さいたま市立木崎中学校

同日午後、さいたま市立木崎中学校を訪問した。同校は1947年5月2日に開校し、来年度70周年を迎える。生徒たちは、文武両道の精神で、学習やスポーツ・文化にいそしみ、校内は活気にあふれている。今年度行われた全国学力学習状況調査においては、全国的に好成績を収めており、保護者からの学習における期待も大きい。

到着後図書室に入ると、はじめに同校の給食を体験した。生徒と同じように、トレイを持って配膳の列に並び、各自給食を受け取った。栄養教諭の小田氏より当日のメニューやさいたま市は全校で自校給食を実施していること、メニューは学校毎に決めている事などが紹介され、教頭の鈴木純氏のピアノの生演奏を聴きながらとても美味しい給食を味わった。

休憩をはさみ、開会行事があった。はじ

めに校長の大澤敬氏のあいさつがあり、若者の教育に携わる我々がお互いをより一層理解し合うことが両国の友好関係には重要である、と述べた。次に訪問団を代表して咸徳（ハムドク）中学校校長の文字哲（ムン・ウチョル）氏が、受入れの感謝を述べ、これを契機に日本の教育や文化を学び、お互いにより一層理解を深める機会としたいと述べた。続いて行われた授業参観では、1年生と2年生の各8クラスを思いおもいに自由に見学した。次の学校概要説明では、校長の大澤氏より学校の概要、教育課程、部活動について説明があった。説明後の質疑応答では、韓国の中学は総時間数 1100 時間であるのに対して、日本は 1015 時間である。各学校の裁量で調整できるのか、といった質問があがった。

次に2グループに分かれて教職員交流会があった。日本側と韓国側が互いに質問し合う形式で行われた交流会では、韓国で中2病と呼ばれる思春期の生徒への対処、部活動時間の教職員の待遇について、活発な意見が交わされた。両者とも思いもよらないことについて質問があがり、日本と韓国の教育の違いを再確認する場面も見受けられた。

最後に大澤氏が、今回の交流で実際に会って交流することの大切さを身に染みて感じた。これから韓国のことを勉強したいと心から思った、と述べ、最後に記念写真を撮って同校の訪問を終えた。



教職員交流会の様子（さいたま市立木崎中学校）

#### ◆ さいたま市大宮盆栽美術館

2月20日（土）午前、Bグループ一行は、さいたま市大宮盆栽美術館を訪問した。同美術館ボランティアガイドの説明を聞きながら、盆栽の見方、樹種と形態、盆栽の技、盆栽村の歴史について学んだ。盆栽の価値は一般的に形・樹種・過去の保有者と考えられている、との説明には奥深い盆栽の世界に興味深く観察する様子が見受けられた。



説明を聞きながら見学する訪問団員  
（さいたま市大宮盆栽美術館）

#### ◆ 情報共有会・ホームビジット

同日午後、Bグループ一行は、さいたま市にある見沼グリーンセンターで、これまでのプログラムの成果を振り返る情報共有会を行った。翌日3グループ合同で行われ

る報告会の準備の時間でもある。情報共有会終了後、昼食をはさみ、ホームビジットの対面式が行われた。さいたま市教育委員会学校教育指導 1 課主任指導主事兼国際教育係長の田村浩司氏のあいさつの後、各ホストファミリーと訪問団員の名前が呼ばれ、全員がホストファミリーと対面を果たした。中には訪問団員の名前を書いたうちわなどを用意しているホストファミリーがあり、対面式は盛り上がりを見せた。対面式終了後、各ホストファミリーとともに会場を出て、思いおもいの時間を過ごした訪問団からは、「とても素晴らしい時間だった」「次は是非韓国で再会したい」などの感想が聞かれた。



ホストファミリーとの対面式の様子

## C グループ：長野県

清州（チョンジュ）外国語高等学校校長の金阮培（キム・ギョンベ）氏をグループ長とする C グループは、2月18日（木）から20日（土）までの3日間、長野県を訪問した。同県教育委員会の協力により、高等学校2校、養護学校1校、町立図書館の訪問に加え、温泉、地獄谷野猿公苑など観光大県としての魅力も満載の日程となった。

### ◆ 長野県中野西高等学校

プログラム第3日の2月18日（木）午後、一行は長野県中野西高等学校を訪問した。同校は今年創立32年目を迎える普通高等学校で、「創造・探求・友愛」を校訓としている。「地域に開かれた学校」をモットーに、全校生徒が清掃ボランティアをしながら地域を巡るCOL（クリーンオリエンテーリング）などの活動に取り組んでいる。こうした取り組みが認められ、2015年、長野県の高등학교で初めてユネスコスクールに認定された。

玄関前で集合写真を撮った後、音楽室にて吹奏楽部による「レ・ミゼラブル」のメドレー演奏で歓迎を受けた。続いて講義室に移動し、同校校長の宮崎清孝氏が韓国語と英語で自己紹介や中野市や同校についての紹介をした。訪問団からはソウル高等学校校長の呉錫奎（オ・ソッキュ）氏がグループを代表して返礼のあいさつをした。次に、生徒会長が生徒による韓国語通訳を通して「今日の授業を楽しみにしている」と歓迎のあいさつを述べた。グループ長の金阮培氏より宮崎氏に記念品が贈られた後、最後に3名の生徒代表より韓国語で学校紹介があり、訪問団からは大きな拍手が起こ

った。

歓迎セレモニーの後、1年生、2年生合計 12 クラスで訪問団員による授業が行われた。韓国文化を紹介する授業で、内容は食文化、高校生の生活、韓服、伝統仮面劇、伝統遊びなど多岐にわたった。実際に韓服や仮面を身に着けたり、クイズやゲームに挑戦したりして、どのクラスも大いに盛り上がった。

授業を終えた一行は、続いて同校教職員との意見交換会に臨んだ。6 グループに分かれ、日本の生徒に授業を行った感想や、韓国の生徒との比較、部活動について、ユネスコスクールとしての今後のビジョンなど、さまざまなテーマで質問や意見を出し合った。意見交換会も大変熱気を帯び、まだまだ話し足りない様子であったが、出発時刻となり、訪問を終了した。



韓国伝統仮面劇の授業（長野県中野西高等学校）

#### ◆ 日韓教職員交流夕食会

同日午後 6 時 30 分より、長野市内「やま茶屋」にて長野県教育委員会主催による日韓教職員交流夕食会が開催された。同教育委員会教学指導課指導主事の横内佳代氏が司会を務め、教育次長の菅沼尚氏が「今回の先生同士の交流が子どもたちの交流に

つながることを願っている」とあいさつを述べた。訪問団からは団長で鮮文（ソンムン）大学大学院長の朴興淳（パク・フンスン）氏が「長野県とのすばらしい縁を今後も大事にして交流していきたい」と返した。その後、記念品交換に続いて、同教育委員会教学指導課課長補佐兼企画幹の春原秋夫氏が乾杯の音頭を取った。自身を含め日本側出席者のうち 4 名が昨年韓国政府日本教職員招へいプログラムで韓国を訪問したことに触れ、感謝の意を改めて伝えるとともに、今後の相互交流の発展を祈念した。

歓談時には、同日訪問した中野西高等学校で授業をした訪問団員へのインタビューや、横内氏による長野県クイズも盛り込まれ、和やかな交流の時間となった。その後、訪問団が「世界に一つだけの花」を日本語で、「アリラン」を韓国語で披露し、それに対して長野県側より県歌である「信濃の国」が披露された。最後に、同教育委員会高校教育課参事兼課長の今井義明氏より挨拶があり、一本締めにて会を締めくくった。



「世界に一つだけの花」を披露する訪問団  
（日韓教職員交流夕食会）





記念品交換をする金坑培氏(左)と春原氏(右)  
(日韓教職員交流夕食会)

#### ◆ 長野県長野養護学校

プログラム第4日の2月19日(金)午前、一行は長野県長野養護学校を訪問した。同校は小学部・中学部・高等部から成り、知的障がいのある208名の児童生徒が学んでいる。教育目標は「がんばっていくよ げんきでいくよ むねはっていくよ」で、子どもが主体的に生活していくために、思いに寄り添った教育を展開している。特に高等部は、卒業後の社会生活や職業生活の基礎となる力を育てることを目指している。

はじめに、訪問団より木浦徳仁(モッポ・トギン) 高等学校校長の金恩美(キム・ウンミ)氏が「点をつなげば線になるように、今日まいた交流の種が数百年後まで続き、美しい未来が訪れることを願う」とあいさつをした。これを受けて、長野養護学校校長の竹前金三氏は「長野と韓国は1600年前から文化的なつながりがある。文化交流が今後数百年に渡って続けば嬉しい」とあいさつした。続いて、3名の生徒代表よりグループ長の金坑培氏へ記念品が手渡され、金坑培氏も竹前氏へ記念品を贈呈した。次に、教頭の小林智明氏より学校概要の説明があった。その後の質疑応答ではたくさんの質問が挙がり、特別支援教育への関心の

高さをうかがわせた。

校内参観は3グループに分かれて行った。小・中等部や寄宿舎などの見学のほか、高等部では手芸班、陶芸班、木工班などの作業学習を見学した。一行は生徒の作品の質の高さに驚き、実際に陶芸班の陶器や手芸班のアクセサリーなどをその場で買い求める団員もいたほどであった。参観中も多くの質問が出た。校内参観後は学校給食を体験し、ちらしずしなどの日本らしいメニューを味わった。また、同時にクッキー班の商品が販売されると、訪問団の多くがクッキーやケーキを買い求めた。給食後、同校の教職員らに見送られ、訪問を終了した。



生徒の作品を手取る訪問団員(長野県長野養護学校)

#### ◆ 長野県長野西高等学校

同日午後、一行は長野県長野西高等学校を訪問した。同校は全日制と通信制からなり、全日制は平成28年度に創立120周年を迎える歴史と伝統のある進学校である。普通科と国際教養科があり、国際教養科は学校にほど近い国宝善光寺の魅力について生徒たちが英語ガイドブックを作成し、授業の一環として外国人観光客への英語ガイドを実施している。

はじめに、教頭の石川裕之氏より歓迎の



あいさつがあり、続いて訪問団を代表して昌原（チャンウォン）科学高等学校の安秀栄（アン・スヨン）氏が「学校周辺のすばらしい景観もさることながら、歴史と伝統の名門校を訪問できて光栄に思う」とあいさつを述べた。長野西高等学校からは国際教養科の生徒が作成した英語ガイドブックや善光寺門前のお土産として有名な七味などが記念に贈られ、訪問団も返礼の品を手渡した。続いて、教諭の中平聖子氏が国際教養科の教育目標や具体的な取り組みなどを英語で説明した。

その後、国際教養科 1 年生の生徒が合流し、生徒 2 名に対して訪問団員 2 名程度のグループを組んで、徒歩で善光寺へ向かった。当日は天気も良く、絶好の散策日和となった。1 年生の生徒たちにとって初めてのガイド経験になるとのことで、最初は緊張した様子も見られたが、すぐに打ち解け、写真を撮ったり会話を楽しんだりしていた。境内に入ってから、寺の由来や建造物の特徴などを説明しながら案内し、訪問団も熱心に耳を傾けていた。最後に山門前に集合して全員で記念写真を撮り、現地にて生徒との交流を終了した。



善光寺でガイド役の生徒らと記念撮影  
(長野県長野西高等学校)

#### ◆ 長野県教育委員会表敬訪問

同日夕方、善光寺を出発した訪問団は長野県庁内にある長野県教育委員会を訪問した。長野県は人口減少社会の中、健康長寿県としての地位を築き、また歴史的に教育熱心な県としても有名である。

同教育委員会教学指導課指導主事の横内佳代氏より、資料に沿って長野県の教育の現状や課題、特色、重点施策などが紹介された。質疑応答では、韓国との交流実績や教員の質向上に対する具体的な取り組み、「教育県」となった理由、教育委員の選抜方法、学校外の塾などの私教育について、職業校の数、などさまざまな質問が上がり、担当部署の職員がそれぞれ詳しく回答した。

最後に、団長の朴興淳（パク・フンスン）氏が「直接出会わなければわからないことがたくさんあり、今回貴重な機会を得た。文部科学省による講義で日本の教育方針を聞いたが、長野県ではすでにそのような方針に沿って教育を進めていることに感銘を受けた」と感想を述べた。



長野県の教育概要を説明する横内氏（中央）と県帯同通訳の広瀬京子氏（右）（長野県教育委員会）

◆ 地獄谷野猿公苑

プログラム第5日の2月20日(土)午前、前日より山ノ内町の温泉旅館に宿泊していた訪問団は、同町にある地獄谷野猿公苑を見学した。古くからこの地にはニホンザルの群れが自然のままに暮らしており、1964年の開苑以来、ニホンザルの興味深い生態を間近で観察できる場所として、また温泉に入るサルとして、広く世界中の人びとに愛されている。

当日は心配されていた雪も少なく、駐車場から片道徒歩約40分の道のりを全員で歩いた。この時期としては気温が高く、温泉に入っているサルは少なかったものの、間近でサルを見られる貴重な体験に、一行は歓声を上げ、写真を撮って楽しんだ。



サルの親子と記念撮影(地獄谷野猿公苑)

◆ 小布施町立図書館「小布施まちとしょテラソ」

同日、地獄谷野猿公苑を後にした一行は、小布施町立図書館「小布施まちとしょテラソ」を訪問した。同館は、「学びの場」「子育ての場」「交流の場」「情報発信の場」という4つの柱による「交流と創造を楽しむ、文化の拠点」という理念のもとで建築された。皆に親しまれる集いの場になるように、

これまで親しまれた町の図書館であることと、待ち合わせの場という意味を込めた「まちとしょ」そして、「世の中を照らしだす場」「小布施から世界を照らそう」などの考えを加えて「まちとしょテラソ」という愛称がつけられた。

館内を自由に見学した後、館長の関良幸氏より同館の運営状況の説明や特色あるワークショップなどの活動についての紹介があった。訪問団からは韓国の本を寄贈したいとの申し出や、住民の図書館への関わりについての質問などが上がった。同館の個性ある取り組みに関心を寄せる訪問団の様子が見受けられた。



館内を見学する訪問団員  
(小布施町立図書館「小布施まちとしょテラソ」)

◆ 情報共有会・ホームビジット

情報共有会は、プログラム第3日目にも訪れた長野県中野西高等学校の会議室を借りて行われた。小布施町からほど近く、同校の教職員が後のホームビジットの受入れの一部を担当するため、利便性を考慮し、ご厚意で会場を提供していただいた。

昼食後、一行は情報共有会を行い、翌日の報告会のための発表資料の準備をした。昭和女子大学附属昭和中学校・高等学校の教職員との意見交換の際に分かれた4グル

ープで、テーマ別にこれまでの滞在で得た気づきや成果について話し合った。

情報共有会終了後、ホームビジットの受け入れ家庭である中野西高等学校の教職員が会議室に集合し、訪問団のうち 15 名と面会した。残る 22 名はバスで長野市へ移動し、生涯学習センター「TOiGO」の会議室にて長野市近郊在住の受け入れ家庭と対面し、順次それぞれの家庭に出発した。短い時間ではあったが、各家庭で食事をごちそうになったり、地元のスーパーへ買い物に行ったり、古民家を見学したりと温かいもてなしを受け、日本の文化に触れることができた。受け入れ家庭の多くが訪問校の教職員や教育委員会の職員で構成されており、教員同士の会話は共通点も多く、盛り上がった様子であった。



教育次長の菅沼氏（中央）宅でホームビジットを終えた団長の朴興淳氏（左）と KNCU の徐賢淑氏（右）

### 3.全体プログラム(千葉県成田市)

#### 1.報告会（第 6 日）

プログラム第 6 日の 2 月 21 日（日）、A、B、C、各グループは各地方から成田に集まった。成田エクセルホテル東急 B1 階「エクセル」にて、報告会が行われた。式には、訪問団の他、国際連合大学事務総括の横井彩氏、文部科学省大臣官房国際課企画調査係長／調査係長の久保田唯史氏、および 2015 年 8 月の韓国政府日本教職員招へいプログラムで訪韓した日本教職員数名が日本側の来賓として出席した。

ACCU シニアアドバイザー柴尾智子をファシリテーターとして迎え行われた報告会では、A、B、C グループが順番に成果の発表を行った。ファシリテーターの指示に従い、参加者は各グループの報告を聞きながら気付いたことを用紙にまとめ、報告会終了時に自分の所属グループを含め 3 つのグループについて、「学校のことについて」、「学校以外のことについて」気付いたことや感想などを付箋に書き出し、模造紙に張り出した。各グループの報告は以下の通りである。

##### －A グループ－

まず A グループを代表し、ソウル大学校師範大学附設中学校の副校長である崔勝旭（チェ・スンウク）氏より発表があった。千葉県立流山おおたかの森高等学校と東京都狛江市を訪問した A グループは各校の特色ある教育について発表した。

- 千葉県立流山おおたかの森高等学校  
魅力的な学校として3年連続受賞している歴史と気品のある学校だ。グローバル人材を養成する国際コミュニケーション科を運営するとともに、近隣の小中学校と連携をした教育を行っている。
- 狛江市教育委員会  
狛江市の教育の特徴では、地域住民と一緒にいう児童生徒主体の防災教育が印象的だった。また児童生徒を対象に満足度調査を行い、それを反映した児童生徒中心の教育を行っている。
- 狛江市立狛江第六小学校  
とても明るく心がきれいな子どもたちと短い時間ながらさまざまな国際理解教育授業を行った。また、近くを流れる多摩川を利用した環境学習について学べた良い機会となった。
- 狛江市ビン・缶リサイクルセンター  
地域住民の協力が得られており、NIMBY(“Not In My Back Yard”の略語で、「忌避施設」「迷惑施設」「嫌悪施設」のこと)となっていない。また、悪臭対策など地域住民に迷惑をかけない努力がされていた。
- 狛江市立古民家園  
日本の伝統文化を伝える場所である同施設では、保存されている古い家屋を見学したあと、狛江市立和泉小学校の児童と一緒に伝統的な遊びを体験した。このような活動にボランティアとして積極的に参加する地域住民がいることも印象的だった。
- 狛江市立和泉小学校  
細やかな給食指導に驚いた。児童が実際に農作物の栽培を行っていることやアレルギー対策がきちんとなされていることを学んだ。韓国の給食で使われるようなトレイではなく、家庭の温かみが感じられるような食器を使っていた。同校では、日本児童に韓国の給食を紹介する機会もあった。
- 狛江市立狛江第一中学校  
生徒主体のホームルームが印象的だった。また生徒会活動のひとつであるいじめ防止のためのホワイトリボン活動には大変感動をした。また最後に校長の樋口豊隆氏が韓国語で「美しい世界」を歌ってくださった。韓国の学校との生徒会交流も約束した。
- 狛江市立緑野小学校  
専門家が児童の心理や環境を考慮して作ったという校舎デザインを非常に羨ましく思った。図書館やコンピューター室、オープンスペースの教室が特徴的だった。またプラスバンドを通し、達成感を与え感性を育てる教育に力を注いでいた。
- 日韓教育交流会  
5つのテーマ(いじめと登校拒否、英語教育、教科横断型授業、健康教育、特別支援教育)で、日韓両国の教職員が討論会を行った。各テーマについて、意見交換をしたあと、一緒に解決策を模索し両国の教育の共通点や相違点について理解する非常に意味のある時間だった。
- その他  
泉龍寺見学や日本の伝統芸能であるおはやし鑑賞では日本文化に触れた。また、家庭訪問では日本の家庭教育を理解するのに大変役に立った。

最後に、狛江市主催の歓迎レセプションで日本教職員から学んだという三本締めで報告を締めくくった。



報告会 A グループ

#### ーB グループー

次に B グループを代表し、韓国教員大学校附設月谷（ウォルゴク）小学校校長の韓基煥（ハン・ギファン）氏が発表を行った。トキワ松学園中学校高等学校とさいたま市を訪問した B グループは、次のように発表した。

#### ● トキワ松学園中学校高等学校

防犯訓練に生徒たちがまじめに参加している姿が印象的だった。不審者をさすまたで確保する様子なども見学した。また英語の授業ではネイティブの先生がキリスト教について、体育の授業では PA でコーナー別に授業をおこなっていた。さらに同校は読書教育にとっても力を入れていた。訪問団員も民族衣装や折り紙など韓国文化について教えた。

#### ● さいたま市教育委員会

教育施策と各種教員研修について紹介され、さいたま市では児童生徒が自信を持てるような教育に重点をおいているこ

とがわかった。

#### ● さいたま市立新開小学校

同校は環境教育に重点を置き、学年別にその内容を変えていた。3年生は昆虫、4年生はサクラソウ、5年生は黒めだかと地域環境プロジェクト教育、6年生は関東タンポポ栽培教育などを実施していた。また体験した内容を後輩たちにも共有する機会を準備している点が印象的だった。

#### ● 歓迎交流会

一生懸命練習してきた映画「となりのトトロ」の「さんぽ」を発表した。日本語で堂々と歌い多くの拍手をもらった。また日本の方々から鮮やかな韓服に多くの関心を持ってもらえた。

#### ● さいたま市立さくら草特別支援学校

小学部 21 名、中等部 7 名、高等部 6 名を教職員 70 名が身体および知的障害のある児童生徒のケアをおこなっていた。先生たちの惜しめない笑顔と愛で子どもたちに接する姿は私たちの胸をぐっと熱くさせた。

#### ● さいたま市木崎中学校

給食体験や授業参観、教職員同士の意見交換会をした。電子オルガンで校長先生が韓国の歌を演奏してくれたのが印象的だった。

#### ● 盆栽美術館

さまざまな盆栽をみる良い機会だった。今年の 4 月に世界盆栽大会が開かれるということなので興味がある人は行かれてみるのを勧めたい。

最後に、今回のプログラムは日本の文化と日本の教育を理解するのに非常に意味の

ある時間だった、と発表を締めくくった。



報告会 B グループ

#### ーC グループー

世田谷区の昭和女子大学附属昭和中学校・高等学校および長野県を訪問した C グループは今回の研修を 1.訪日前準備、2.分科活動、3.学校訪問活動、4.日本文化体験および教師交流活動、5.印象深い場面の 5 つに分け発表を行った。発表者は、慶尚北道（キョンサンブクト）教育庁の鄭夏景（チヨン・ハギョン）氏であった。

#### ● 訪日前準備

訪日前の準備ではまず代表や総務をはじめとし、連絡ツールとなるウェブページの開設や記念品購入、出し物や授業、報告書準備などの役割分担をした。出し物は、「世界にひとつだけの花」を準備した。予想以上に難しく準備過程で苦労をした。

#### ● 分科活動

「教科、カリキュラム」「いじめ、暴力」「進路」「ユネスコスクール」の 4 つのテーマに分け、テーマ別に調査活動をした。

##### 1. 「教科、カリキュラム」のテーマと

して最近の日本の人格形成の強化とそれによる教育課程の特徴を調査。部活動、教養活動、学習理解度評価の活用、活動中心授業など。

2. 「いじめ、暴力」のテーマでは、日本の校内暴力の現状、校内暴力への対処や解決方法など。

3. 「進路」のテーマでは、進路体験、自分探し、時間の拡大、家庭と学校が連携した進路教育指導、中小企業と連携した地域人材養成など。

4. 「ユネスコスクール」のテーマでは、昭和女子大学附属昭和中学校・高等学校の運営状況を調査したが、環境保存、国際理解、他者尊重を基本にした教科指導と全教職員がユネスコの理念に共感し授業で実践しようと努力する姿をみて感動した。

#### ● 学校訪問活動

1. 昭和女子大学附属昭和中学校・高等学校は、2014年にスーパーグローバルハイスクールに選定された学校。授業参観、茶道体験、生徒たちの学校案内、両国教職員意見交流会を行った。

2. 長野県中野西高等学校では、歓迎の演奏から始まり、12クラスで訪問団員が韓国の文化授業を実施した。授業後には先生方と意義深い意見交換会ができた。

3. 長野県長野養護学校は、特別支援学校である長野養護学校で知的障がいのある子どもの教育現場を見ることができた。学校の教育目標である「がんばっていくよ げんきでいくよ むねはっていくよ」がとても印象的だった。子どもたちの主体性、独立

性を培うことができるよう教育がなされている点に大変感動した。子どもたちが作成したビーズ工芸、陶磁器、クッキーなどを購入した。

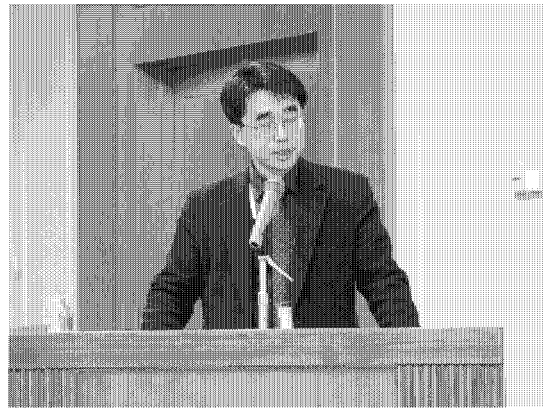
4. 長野県長野西高等学校では、国際教養科の生徒が作成した英語のガイドブックをプレゼントされ、学校近隣の国宝善光寺の魅力を我々に英語で説明してくれた。
5. 長野県教育委員会では、教育関係者と話す中で日本の教育制度を理解し、長野県の教育の特徴と戦略的ビジョンを知ることができた。また両国共通の教育問題がわかり協力の必要性を感じた。

● 日本文化体験および教師交流活動

長野県の教育関係者との日韓教職員交流夕食会で韓国側からの出し物として、「世界にひとつだけの花」と「アリラン」を歌い、日本側からもお礼に歌が贈られた。その後、長野県の文化にまつわるクイズやインタビューなどで親睦を深めた。

また、地獄谷野猿公苑を訪問した際には、韓国では見ることのできない露天風呂に集団で浸かるニホンザルを見ながら異国情緒にひたり、楽しい時間を過ごすことができた。

最後に、「長野県を訪問してわかったことは、高校生も国際交流の意識が高いということだ。プログラムを終え帰国するにあたって、今後も日韓の交流について考えていきたいと改めて感じた」と締めくくった。



報告会 C グループ

全グループの報告終了後、文部科学省大臣官房国際課企画調査係長／調査係長の久保田唯史氏が「どのグループも素晴らしい発表だった。今後も両国がお互いに良いところを学びあうことができればと思う」との感想が述べられた。また、この日、2015年8月に韓国政府日本教職員招へいプログラムに参加した多摩市立愛和小学校教諭の槇田雅江氏は感想とともに、「未来を背負う子どもたちに伝えるのは私たちの使命。私たちが、両国の懸け橋になろう」と呼びかけた。



グループごとに報告を聞いて気付いたことを書いた付箋

## 2.ミニ講演

「国連 ESD の 10 年 日本の学校の成果」  
ユネスコ・アジア文化センター (ACCU)  
シニアアドバイザー 柴尾智子

続いて、同会場にて、「国連 ESD の 10 年 日本の学校の成果」と題して、ACCU シニアアドバイザー柴尾智子によるミニ講演が行われた。講演内容は以下の通りであった。

- I) ユネスコスクール、ESD とは
- II) ESD の定義
- III) ESD の基本的な 8 つの定義
- IV) 学校教育における成果
- V) ESD 推進のためのユネスコスクール岡山宣言

質疑応答では、「ESD とユネスコとの関係」、「ユネスコスクールの今後の活動」などについて質問があがった。

## 3.閉会式・歓送レセプション

同会場にて午後 6 時より、閉会式および歓送レセプションが行われた。最初に文部科学省大臣官房国際課課長の豊岡宏規氏が、「韓国で日本に関心をもつ子どもが増えること、日韓の交流が増えることを期待している」と述べた。続いて、訪問団の団長である朴興淳(パク・フンスン)氏が、「帰国後、教育現場においてプログラムで得たことを生かしたいと思う。両国の未来を担う子どもたちのために私たちは努力を惜しまない」と、述べた。



団長の朴興淳氏 (閉会式)

続いて、豊岡氏と韓国教育部国際協力課主務官の朴銀淑(パク・ウンスク)氏、ACCU 理事長の田村哲夫と KNCU 教育チーム長の徐賢淑(ソ・ヒョンスク)氏がそれぞれ記念品の交換を行った。また、団長および各グループ長 3 名に記念品の贈呈が行われた。

次に、ACCU 理事長の田村哲夫が、「次世代の人材を育てる教員同士が、お互いに交流を深め、情報を交換し、啓発しあうことは、今後の日本と韓国双方の教育発展にとって極めて大きな意義がある」と述べたうえで、乾杯の音頭をとった。歓談の時間には、2015 年 8 月の韓国政府日本教職員招へいプログラムに参加した日本教職員と当時の韓国側の受入れ校の教職員が感動の再会を果たす場面もあった。また、B グループ一同が、本プログラムのために練習した「さんぽ」の合唱を披露する場面もあった。最後には、全員が手をつなぎ輪になって「アリラン」を合唱し、歓送レセプションを締めくくった。





## 第II章

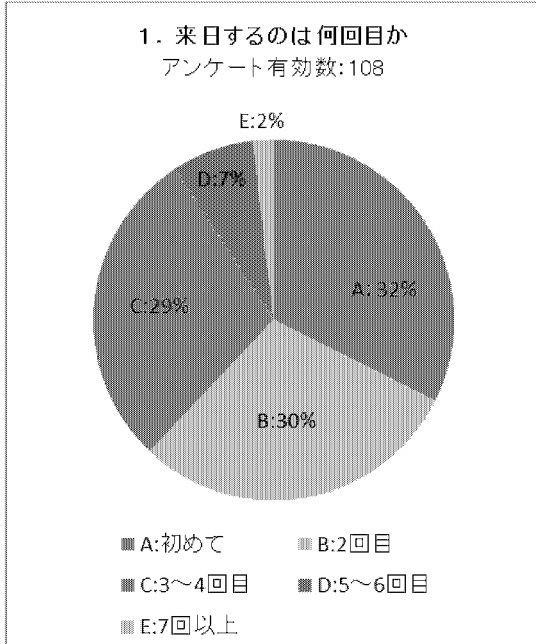
# コメントと提案

1. 韓国教職員
2. 受入れ教育委員会
3. 受入れ校
4. 日韓夕食交流会 参加日本教職員

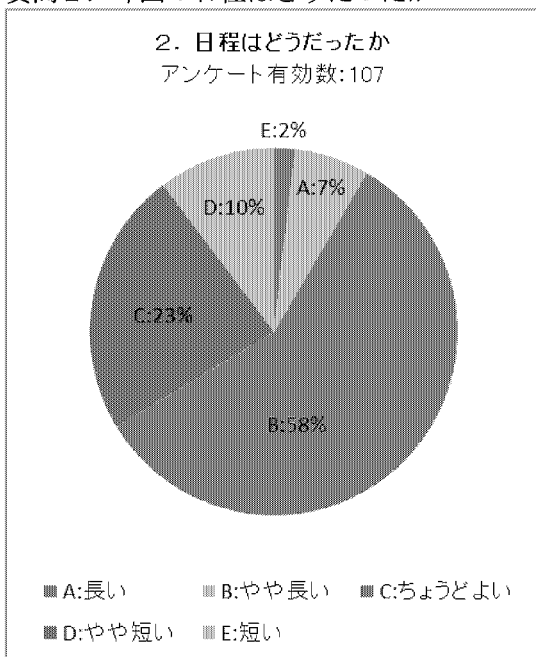


## 1. 韓国教職員

### 質問1. 来日するのは何回目か



### 質問2. 今回の日程はどうだったか



【主な意見】\*原文は韓国語

#### A-6 ハム・ジェウ (やや短い)

例年に比べて日程が短くなり、スケジュールがよりタイトになった気がする。日本の教育施設や授業を見るのも大事だが、日本の文化の根源にある自然環境や文化財を理解するのも大事だと思う。

#### A-8 ホ・スンヘン (長い)

少し長いと思ったが、盛りだくさんの内容を消化するには時間が足りないと思った。

#### A-11 キム・ドンシク (ちょうどよい)

公務なので、これより長いと学校の運営に空白ができてしまう。

#### B-1 ペ・ホヨン (ちょうどよい)

毎年日程が短くなり物足りなさを感じる。より多くの地域を訪問しもう少し文化や自然に触れる時間があればよかった。

#### B-9 ジン・ユソン (短い)

訪韓団を受け入れた経験から、1つの学校に1日すべてを費やすと、見学する側も受け入れる学校側もどちらも疲れるので、半日の訪問は適切だと思った。

#### B-21 キム・ソンヨル (やや短い)

1日2校訪問の日は、日本教職員との会話できる時間が短かった。

#### C-1 パク・フンスン (ちょうどよい)

全体的に満足し、興味深く有意義だった。期間もちょうど良く活動内容も多様で多くのことを学んだ。日韓教職員交流と研修目的は趣旨にとっても沿っていたと思う。

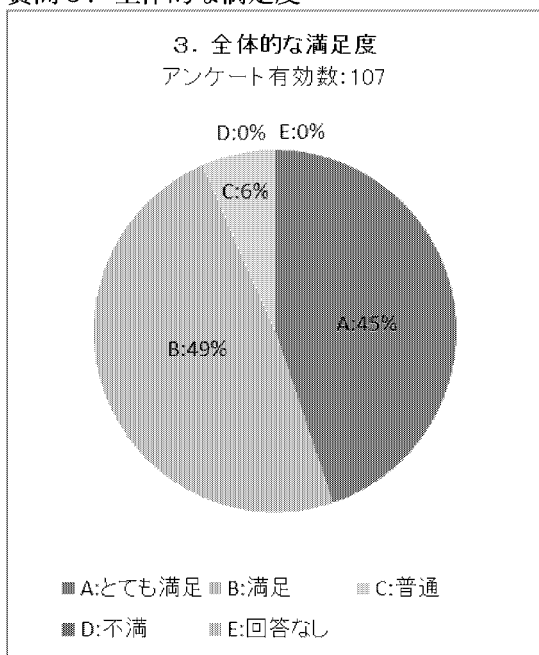
#### C-8 チョン・ヘヒョン (やや短い)

学校訪問の日程が少しタイトだった。バス移動の際に周辺についての説明もあればよかった。

#### C-12 チョン・ワンチェ (やや短い)

学校訪問のスケジュールが少しタイトだった。バス移動のとき周辺についての説明もあればよかった。

質問3. 全体的な満足度



【主な意見】\*原文は韓国語

**A-1 アン・スンヨル (とても満足)**

事前によく準備されており予定通りにプログラムが進行した。日本の教育現場視察には適切だった。

**A-6 ハム・ジェウ (満足)**

大体満足だったが、時間的に余裕が欲しい。自然や文化に触れる機会も、半日か1日くらい欲しい。

**A-8 ホ・スンヘン (満足)**

満足しているが、学校訪問での小・中・高の配分が少し残念。小学校への訪問が多い一方で中学、高等学校が少なかった。

**A-11 キム・ドンシク (とても満足)**

ACCU や訪問機関の関係者の方々は皆優しく、よく練られた企画や運営にはとても満足した。

**A-30 パク・ヒャンチュン (とても満足)**

日程的にきついと思っていたが、プログラムの趣旨にあっており、全てのスケジュールについて親切なアナウンスがあり、しっかりと運営されていたと思う。特に狛江市立緑野小学校での日韓教育交流会が非常に良かった。日本の教育現場の具体的な活動内容を近くで見ることができた。

**B-1 ペ・ホヨン (とても満足)**

通常では訪問することが難しい日本の学校やクラスを訪問できたことにととても満足している。

**B-9 ジン・ユソン (満足)**

学校を訪問し、授業をみて日本の教育を理解するのに役に立った。

**B-17 キム・ジョンウン (満足)**

小・中・高、特別支援学校までさまざまな校種を訪問できるスケジュールが良かった。学校によって授業参観、学校概要説明など非常に多くの準備をしていただき感動した。ACCU 関係者および各学校関係者の温かさや思いやりに感謝する。日本の児童生徒、教職員にもとても感動した。

**B-21 キム・ソンヨル (とても満足)**

充実した企画をしてくれたこと、また予定通りにスケジュールを消化できるよう配慮していただいた関係者の方々に感謝している。

**B-24 クォン・ファジャ (とても満足)**

日本の教育現場で教職員の態度、児童生徒の態度などから、教職員の献身的な指導姿勢の中に、児童生徒を満足させる前向きなマインドがあると感じた。

**C-5 チェ・ジョンスン (満足)**

全体的なプログラム構成がよく、特に日本の学校を直接訪問し児童生徒や教職員らと交流できて非常に良かった。

**C-7 チョン・サンギ (満足)**

学校現場および教育文化施設訪問を通して日本の教育制度と現状を理解し日本をさらに理解することができる機会になった。

**C-8 チョン・ヘヒョン (とても満足)**

ホテル、食事、通訳など全ての面でとても満足しており親切な点に感謝している。

**C-12 チョン・ワンチュ (とても満足)**

限られた時間の中で多くのことを体験し、新しい情報を得ることができた。日本教職員とは言葉が通じないのにもかかわらず、十分に理解し合うことができ有意義な時間を過ごせてとても良かった。

## 質問4. 参加目的は何か

【主な意見】\*原文は韓国語

**A-1 アン・スンヨル**

教育現場の日韓比較および現場体験。両国の教育が目指すところや ESD の推進状況の把握。

**A-6 ハム・ジェウ**

日本の教育や文化を理解したかった。

**A-8 ホ・スンヘン**

日本の教育と学校教育の現状を比較し、これから改善すべき教育ビジョンを把握するため。

**A-11 キム・ドンシク**

日本の教育の現状を理解し、韓国の教育にないものを取り入れること。日本と日本人を理解し、それをもとに両国の友好を深めることに寄与すること。

**A-19 イ・ジミョン**

ユネスコの理念に沿った国際教育交流事業について理解し、また ESD の推進状況や実践例を知ること、世界市民教育含む平和教育についての事業企画および構想を練ること。

**A-21 イ・ホナム**

日本の小・中・高等学校などの様子や教授法をみること。また、教職員の教育への思いなどを直接聞いてみたかった。ESD が教育現場でどのように実践されているか知りたかった。

**A-30 パク・ヒャンチュン**

日本の教育の現状を見ること。また、教育現場のさまざまな声を直接聞きたかった。環境教育、ESD をどのように授業に取り入れているかをみること。

**B-1 ペ・ホヨン**

日本の小・中学校についての幅広い理解と見学。

**B-9 ジン・ユソン**

日本文化を理解し、日韓両国の学校を比較し、教職員同士の交流につなげること。

**B-17 キム・ジョンウン**

日本の学校の学年別教育課程および教育現状の理解。勤務校と交流が可能な学校を探すこ

と。日本のユネスコスクールの ESD 実践事例調査。

**B-21 キム・ソンヨル**

勤務校では、ユネスコスクールとして ESD について 2 年間研究学校として運営してきたが、日本の学校で実践している ESD をさらに知りたく参加した。

**B-24 クォン・ファジャ**

日本の教室の中で児童生徒と教員の関係性、学習、生活指導の方法などを韓国と比較すること。

**B-33 パク・ギョンジェ**

日本で行われているユネスコの理念に沿ったプログラムのベンチマーキングと交流協力。

**C-1 パク・フンスン**

団長として、この国際教育交流プログラム全体が目的に沿った安全で有意義かつ興味深いものとし、大きな成果を得られるよう管理すること。また、日本の教育現場を直接見ること。

**C-5 チェ・ジョンスン**

ユネスコスクールを訪問し、日本の学校の教育課程を直接体験するため。また、日本について知るため。

**C-7 チョン・サンギ**

日本の教育現場や日本文化を理解するため。ユネスコの教育理念を実践し、広げていくため。

**C-8 チョン・ヘヒョン**

日本の教育制度および ESD について学ぶため。

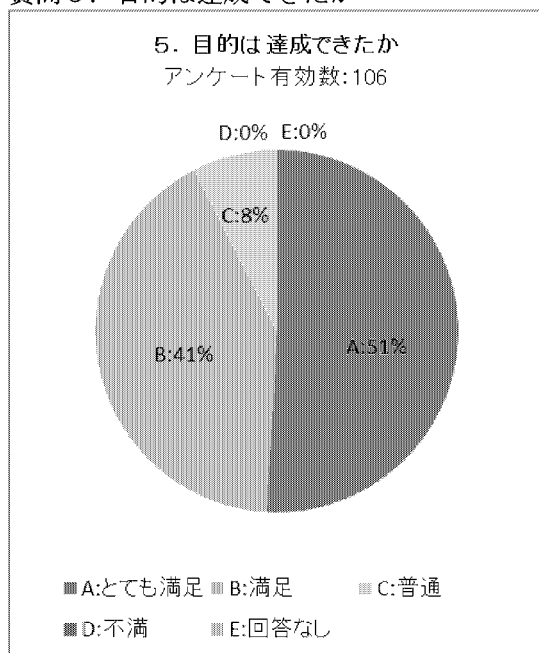
**C-12 チョン・ワンチュ**

近くて遠い国である日本との関係を発展させ、お互い新しい面を発見し、相互理解の基盤を作りたかった。また今回のプログラムでは教職員間の日韓交流から生徒間の交流につなげるために参加した。

**C-19 キム・ギョンベ**

日本の教育制度を理解し、韓国で生かすため。

質問 5. 目的は達成できたか



【主な意見】\*原文は韓国語

**A-1 アン・スンヨル (とても満足)**

小・中・高等学校訪問で日本の教育現場の方向性を理解し、さまざまな教育活動を見ることができた。

**A-6 ハム・ジェウ (とても満足)**

日本の教職員や教育関係者、児童生徒と直接会って話すことができたから。

**A-11 キム・ドンシク (とても満足)**

さまざまな訪問機関が心のこもった準備をしてくださったおかげで、当初期待していた以上の成果を得ることができた。

**A-30 パク・ヒャンチュン (とても満足)**

授業以外でも日本の道を歩きながら学校において環境教育、特に実践中心教育が浸透していることを確認することができた。私たちも見習わなくてはならない点だと思った。

**A-36 ソン・グァンヨン (満足)**

現場に密着した体験が良かった。

**B-1 ペ・ホヨン (とても満足)**

単なる視察ではなく日本教職員とたくさんの交流時間を持ち、互いの教育問題について幅広く話すことができた。

**B-9 ジン・ユソン (満足)**

さまざまな学校を訪問し、授業参観や交流を通して日本の基礎教育、基本教育を理解した。

**B-17 キム・ジョンウン (満足)**

何より、両国の教育課程の類似点が多いため理解しやすかった。基本的な習慣や、規則を強調してこれを守っていく教職員や児童生徒の姿が印象的で、これを我が校でも校則および学校活動に反映したい。環境教育と環境美化活動関連の **ESD** が印象的で、これを我が校のユネスコクラブなどにも取り入れ持続的に実施したい。

**B-21 キム・ソンヨル (とても満足)**

家庭訪問を通して、学校だけでなく、家庭でも環境教育に努めていることがわかった。

**C-1 パク・フンスン (とても満足)**

全体的な内容、進行、準備など、予定通りに進み、大きなミスや事故などもなかった。特に日本側できめ細やかな準備がされていた。

**C-5 チェ・ジョンスン (とても満足)**

さまざまな校種を訪問し、直接体験することができた。日本人、日本の風習について非常に多くのことを知ることができ、これからはさらに多くのことを学ぼうと決心した。

**C-7 チョン・サンギ (満足)**

日本文化および教育をよく理解することができた。

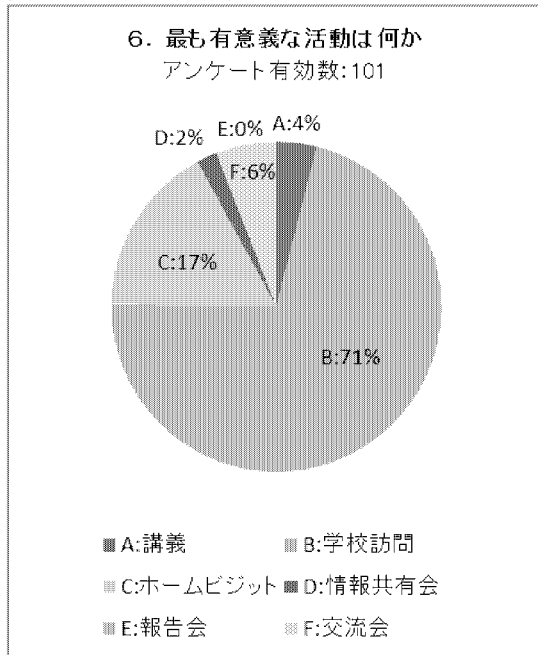
**C-8 チョン・ヘヒョン (とても満足)**

ユネスコスクール運営の基本精神である世界市民教育、**ESD** などが日本でどのように行われているのかがわかり、韓国でも取り入れることのできる方法やアイデアを得ることができた。

**C-12 チョン・ワンチュエ (とても満足)**

日本の児童生徒をみて、相互理解の可能性と希望を感じた。以前は日本の児童生徒は問題行動が多いイメージを持っていたが、直接触れ合ったことで考えが **180度** 変わったから。

質問6. 最も有意義な活動は何か



【主な意見】\*原文は韓国語

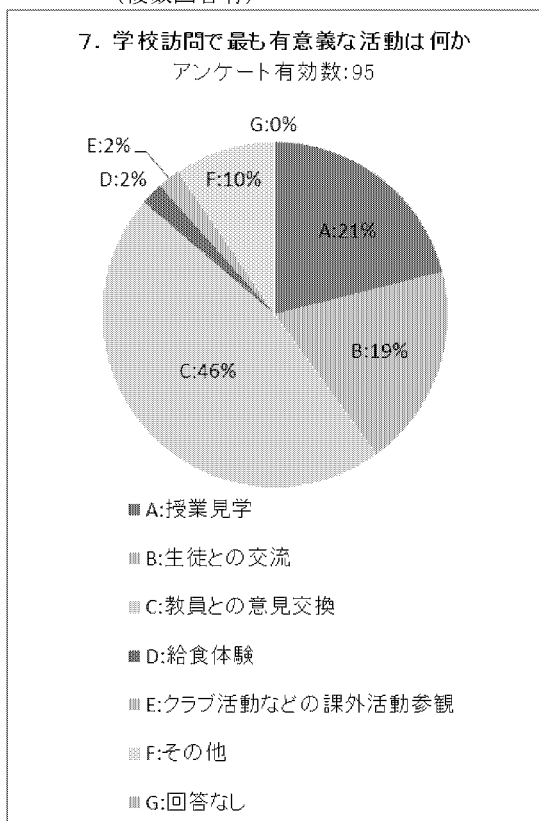
- A-1 アン・スンヨル (学校訪問)**  
各校を訪問することで、両国の教育現状が比較でき相互理解のためのよい機会となった。
- A-6 ハム・ジェウ (ホームビジット)**  
ホームビジットを通じて日本人の生活に直接触れ、理解が深まった。全ての人間・民族が尊重されなければならない存在だと改めて思った。
- A-8 ホ・スンヘン (交流会)**  
日韓の教育政策と学校での具体的実践内容を比較、参考にすることができた。
- A-11 キム・ドンシク (学校訪問・ホームビジット)**  
学校訪問では全ての機関が親切で、最善を尽くししっかりした日程を組んでくれたことにより本来の目的達成に向けて大きく役立った。4時間の家庭訪問では、これ以上ないおもてなしや誠意ある準備で、短い時間ではあったが日本の一般家庭の文化と韓国に対する日本人の認識を十分に理解できた。
- A-36 ソン・グァンヨン (学校訪問)**  
教育環境、子どもたちの学習態度、日常生活をよく理解することができた。

- B-1 ペ・ホヨン (学校訪問)**  
授業や学校の細かな部分まで見て感じる事ができた。
- B-9 ジン・ユソン (学校訪問)**  
日本の学校を直接訪問し、韓国の学校のシステムとの比較ができたこと。また教職員との意見交換がとても役に立った。
- B-17 キム・ジョンウン (学校訪問)**  
さまざまな学校を訪問し、教職員や児童生徒と交流することができた点。
- B-21 キム・ソンヨル (ホームビジット)**  
ソウル日本人学校で3年間勤務した経験があり、英語教員をしている方のお宅を訪問したが、コミュニケーションがスムーズにできたことにより文化交流(学校、社会について)、意見交換などができてとても良い機会だった。韓国訪問時にはお互い連絡をしようと約束した。

- C-1 パク・フンスン (講義)**  
現状の把握と政策などの問題点についての理解に役立った。文部科学省担当者の講義、教育委員会との歓談会も有意義だった。
- C-5 チェ・ジョンスン (学校訪問)**  
児童生徒と直接触れ合うことができた。韓国について教える機会になったため。
- C-7 チョン・サンギ (学校訪問)**  
学校訪問を通し日本の教育制度および現状をさらに理解することができた。
- C-8 チョン・ヘヒョン (学校訪問)**  
日本の教育環境、教育課程、ユネスコスクール運営方法についての情報や知識を得ることができた。他の研修では主に観光地や文化スポットの見学が多いが、実際学校を見学し児童生徒と交流するのは ACCU のプログラムの強みだと思う。
- C-12 チョン・ワンチェ (学校訪問)**  
日本に対する漠然としたイメージや考えがなくなり、日本の教職員や児童生徒と直接交流したことにより色々なことを知れた。



質問7. 学校訪問で最も有意義な活動は何か  
(複数回答有)



【主な意見】 \*原文は韓国語

**A-6** ハム・ジェウ

(生徒との交流・教員との意見交換)

日韓両国の教育の現状や問題点・課題・解決方法などが似ているということが分かり、「同じ悩みを同じ方法で解決しており、より良い解決のために一緒に取り組むと良い結果になる」ということが分かった。児童生徒たちと直接交流したことで、「日本」さらには「日本人」「日本児童生徒」についての先入観がなくなった。ACCUのプログラムならでの経験だったと思う。

**A-11** キム・ドンシク (教員との意見交換)

各学校の教育現状を詳しく見て各状況について背景や試行過程、結果、問題点などについて具体的な探求および意見交換ができた。

**A-30** パク・ヒヤンチュン (教員との意見交換)

生徒会活動が活発に行われていることに感動し、また教職員間の意見交換を通し日本

の学校と教職員の長所・短所を理解することができる良い機会だった。

**A-36** ソン・グァンヨン (授業見学)

日本の児童を対象に授業をした際、言葉が通じなかったが子どもたちがまじめに一生懸命聞いてくれたため目標を達成することができ、また教育のグローバル化が可能だということを感じ協力、交流の必要性を感じた。

**B-1** ペ・ホヨン (教員との意見交換)

教育についての率直な考えを互いに確認できたから。

**B-9** ジン・ユソン (教員との意見交換)

意見交換によって、お互いの気になる点が解消された。日韓両国の相違点を理解するのに役に立った。

**B-17** キム・ジョンウン (生徒との交流)

児童生徒たちのすばらしい歓迎と思いやり、礼儀正しさにとっても感動した。

**B-21** キム・ソンヨル (教員との意見交換)

児童生徒の成長に貢献したいという共通の目標を持っている教員として、より多くの時間を一緒に過ごすことができたならよかったと思った。

**C-1** パク・フンスン (教員との意見交換)

教育現場の状況と問題について相互理解と教訓を得られ、またひとりの人間として共感し合い、教職員として、日韓関係が今以上に親密になる機会になった。

**C-5** チェ・ジョンスン (生徒との交流)

児童生徒がどのような活動をしているか、それが児童生徒たちの生活にどのような影響を与えているかわかり、韓国文化についても伝えることができた。また、Eメールの交換を通し、これから日韓の生徒が直接交流を行うための準備ができた。

**C-19** キム・ギョンベ (授業見学)

日本の生徒を対象にした授業を通し、韓国文化を伝えられた。

質問8. 他にどのようなプログラムがあったらよいか

【主な意見】\*原文は韓国語

**A-1 アン・スンヨル**

担当教科の教職員同士、管理職同士、同じ学年を担当する担任教職員同士で交流し同じ悩みや問題を共有する機会。

**A-3 チェ・スンエ**

校長同士が交流する時間を設けることが必要であると考え。姉妹校締結を希望する学校は事前連絡をとり対面する機会があれば良い。

**A-6 ハム・ジェウ**

教育だけに限定しないで、幅広い文化や環境について一緒に触れ合う機会があればいいと思う。

**A-8 ホ・スンヘン**

長期休みを利用して、若手の教職員による交流と拡大を図ればよいと思う。日本の生徒指導を見習う価値がある。

**A-18 コ・ウンジュ**

日本教職員と一緒にレジャー活動や文化体験などを行う機会があれば良い。

**A-20 ク・ソンヨン**

訪問地域にある韓国と関連の深い場所を訪れる機会があればよかった。

**A-30 パク・ヒャンチュン**

教職員と一緒に過ごせる時間がもう少し長ければよかった。日韓の教職員が顔を合わせて現状について自由に話す時間がもう少しあればよかった。

**B-1 ペ・ホヨン**

現在の日韓交流はお互いに理解する段階だが、新しいプログラムよりは多くの人たちにこのような機会を与えることが重要だと思う。

**B-2 チェ・ジェウン**

日本教職員と訪日前に質問を送りあい、訪日前に回答を準備してくるという形式の情報交換会があればと思う。

**B-9 ジン・ユソン**

日本のユネスコ文化遺産および自然遺産など

を体験する機会があればもう少し日本について理解できると思う。

**B-17 キム・ジョンウン**

Skype を活用した持続的な教育および ESD 関連の意見交換。

**B-24 クォン・ファジャ**

3~5 人程度の小グループで日韓教職員懇談会を行い、両国の問題について話し合い、ESD のためノウハウを共有できればと思う。

**B-33 パク・ギョンジェ**

日本の教職員とのコラボレーション授業。

**C-1 パク・フンスン**

訪問地域の歴史、文化、産業などの現状について基本的な紹介時間をプログラムの初めに設け資料提供をして欲しい。該当地域の博物館、遺跡などの訪問。

**C-12 チョン・ワンチェ**

学校訪問でレベル別に学校を訪問することができる機会があれば良いと思う。学校訪問の時間も、朝から放課後までを見学することができる機会があればさらに良いと思う。

**C-17 キム・ジンヒ**

日韓両国の学校がそれぞれ事前交流を行ってから、このプログラムに参加すれば、担当者同士が対面し、直接会って今後の交流計画を立てることができるため、そのような機会を設けてほしい。

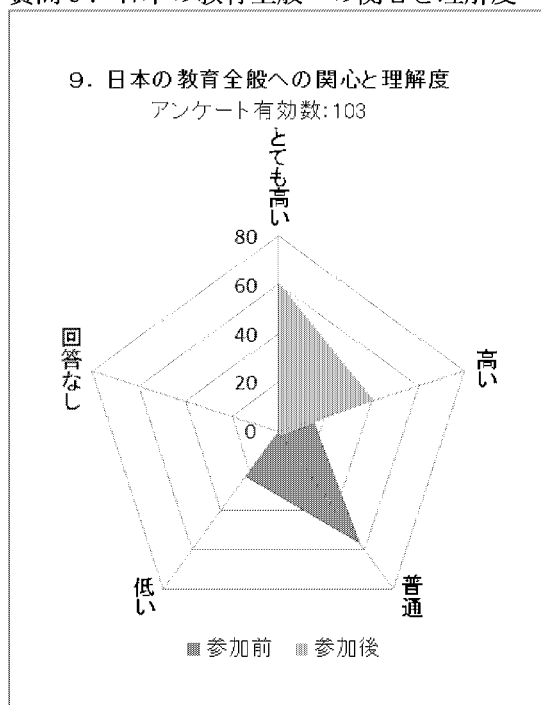
**C-19 キム・ギョンベ**

両国が互いに深い内容の話をし、意思疎通ができるよう通訳をもっと増やすべきだ。

**C-22 キム・テソク**

教職員が話し合いをする時間がもっとあればよかった。たとえば、ホームビジットをする際に、教職員のお宅を訪問するということにしてくれれば、他のプログラムより充実したものとなるように思う。

## 質問 9. 日本の教育全般への関心と理解度



【主な意見】\*原文は韓国語

**A-1 アン・スンヨル (とても高い→とても高い)**  
経験に勝る先生はないと思う。出会いを通じ相互理解と交流が可能になった。

**A-6 ハム・ジェウ (普通→とても高い)**  
漠然としたイメージしかなく、また、あまり関心がなかったが、「生き生きした体験と直接的な触れ合い」を通じて、関心も深まり、尊敬するようになった。日本の道徳教育などについて好印象を持った。

**A-8 ホ・スンヘン (普通→とても高い)**  
教育現場をみたことで日本に対する偏見が少しなくなり、小学校からの規律正しさ、思いやりに関する教育が実践されていることがわかった。

**A-30 パク・ヒャンチュン (普通→高い)**  
日本の教職員、特に校長は驚くほどの熱意に溢れ、教職員としても権威より児童生徒を思う気持ちを感じることができた。日本の教職員も韓国の教職員のように問題が多いということ、また生徒のことを大切に思っているということもわかった。

**B-1 ペ・ホヨン (普通→とても高い)**  
以前、全羅南道教育庁に佐賀県の教育委員会の方が訪問され、日本の教育について理解する機会が少しあったが、今回の訪問を機に日本の教育のより細かい部分、日本の教職員の考えも理解することができ日本の教育についてとても関心が高まった。

**B-9 ジン・ユソン (低い→とても高い)**  
授業などを通じ日本を理解できる良い機会だった。授業見学で出会った児童生徒の純粋な姿がすばらしかった。学ぼうとする姿勢が強く、質問をよく理解する姿が印象的だった。

**B-17 キム・ジョンウン (普通→とても高い)**  
韓国より一歩先行く日本の教育を学び観察したことにより、今後の韓国の教育の参考になると思う。

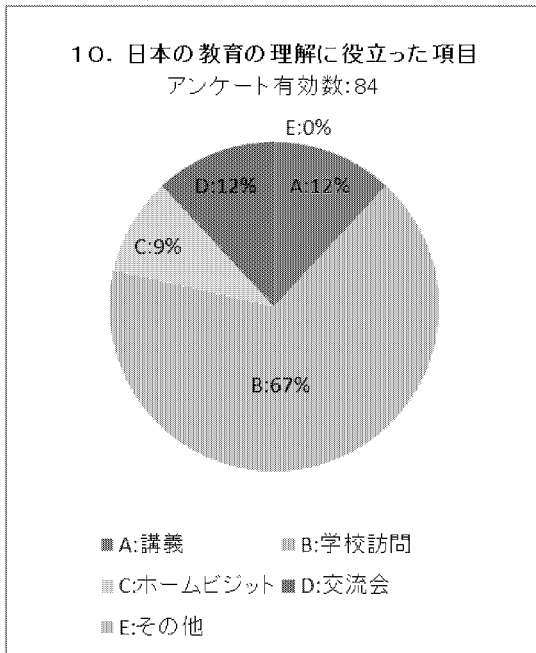
**B-21 キム・ソンヨル (高い→とても高い)**  
普段から日本の教育に関心があったが、今回の交流を通しさらに関心を持つようになり、幅広い交流のために日本語などの勉強もしなくてはならないと思った。

**C-1 パク・フンスン (高い→とても高い)**  
日本の専門家グループ、大学教授との交流および学術会議に参加し交流したのとは異なり、直接教育現場の担当者と交流しさらに具体的、実質的な情報と現状を理解することができた。特に、全般的に日本教育の優秀な点と政策、教育、内容、問題点を理解するのに役立ち、韓国教育に大きな示唆点を与えた。

**C-5 チェ・ジョンスン (低い→とても高い)**  
日本に来る前は、日本という国自体にあまり関心がなかったが、日本に来て児童生徒や教職員、教育委員会関係者と交流したことで、日本についてさらに知りたくなった。

**C-7 チョン・サンギ (普通→とても高い)**  
学びの共同体など、児童生徒中心の教育が活発だと聞いていたが、高等学校では教職員中心の授業が行われており、一部の生徒の授業への集中力が落ちているような気がした。

質問 10. 日本の教育の理解に役立った項目  
(複数回答有)



【主な意見】\*原文は韓国語

**A-1** アン・スンヨル (学校訪問)

現場を体験したことで表面しか見えていなかった日本の教育の真の姿を共有することができ、日韓の教育の発展方法に対し真摯に考える機会になった。

**A-6** ハム・ジェウ (学校訪問)

学校説明を聞き、児童生徒たちと直接交流ができたことは特別な経験になった。この過程で、日韓両国の教育目標の方向性が同じだということが分かった。

**A-11** キム・ドンシク

(学校訪問・ホームビジット)

学校訪問を通し日本の教育現状と文化を理解し、家庭訪問を通しそれを確認できた。

**B-1** ペ・ホヨン (学校訪問)

訪問校で実際に見て確認することにより、日韓の教育の違いや、日本の教育に対しての理解度が増した。

**B-9** ジン・ユソン (学校訪問)

直接訪問をしたことで両国を理解することができた。

**B-17** キム・ジョンウン (学校訪問)

学校現場の生きた体験を通し日本の学校、学校生活、教職員との意見交換が大きく役にたった。

**B-24** クオン・ファジャ (学校訪問)

教室内での授業の姿、日本の教育の明るい未来が見えた。

**B-33** パク・ギョンジェ (学校訪問)

教職員の勤務実態、教育施設環境、教材、授業方法を理解することができた。

**C-1** パク・フンスン (講義・学校訪問・交流会)

全般的な日本教育の紹介、そして各学年の現場訪問で教育の実態を直接知ることができた。また、日本の教職員と直接交流し、相互の共通の話題について討論をすることにより、生きた知識をより多く得ることができた。

**C-7** チョン・サンギ (学校訪問)

学校訪問で児童生徒や教職員との出会い、施設、授業参観を通じ日本の教育に関する理解をさらに深めることができた。

**C-8** チョン・ヘヒョン (ホームビジット)

高校美術教職員のお宅に訪問し、初等教育や家庭教育について理解を深めることができた。

**C-12** チョン・ワンチェ (学校訪問)

日本の学校制度、教育政策、児童生徒たちの現在の姿を直接確認し感じられた点がとても良かった。

**C-19** キム・ギョンベ (学校訪問)

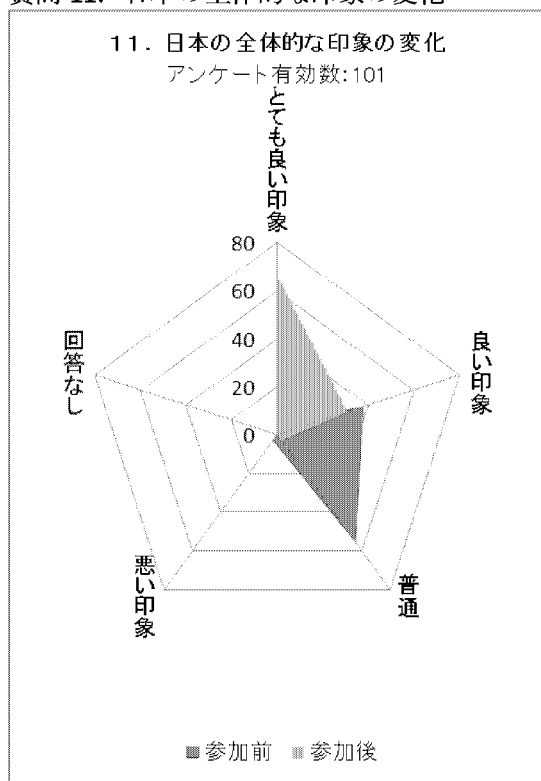
日本の児童生徒の学校生活についての理解。

**C-22** キム・テソク

(講義・学校訪問・ホームビジット)

グローバルマインドを持った文部科学省や教育委員会の政策について知ることができ、学校訪問やホームビジットにおいてその効果を感じることができた。

## 質問 11. 日本の全体的な印象の変化



【主な意見】 \*原文は韓国語

## A-1 アン・スンヨル (普通→良い印象)

文化は優越感や比較対象ではなく、どのように選択、共有するかによって方法を選ぶものだ。漠然としたイメージがより具体的になり、今回の体験は友好と相互理解を深め多くの助けとなった。

## A-6 ハム・ジェウ (普通→とても良い印象)

訪日前は、日本は「世界平和・共存」の精神に反する姿を見せていると思っていた。ニュースではネガティブな話題が多いからかもしれない。しかし、直接接した日本の教育、日本人の考え方や精神は素晴らしく、尊敬に値する。

## A-8 ホ・スンヘン (普通→とても良い印象)

相手に対する思いやり、親切さ、規律正しさ、理性的、合理的考えは学ばないといけない点だと思った。日本の底力を今一度感じた。

## A-11 キム・ドンシク

(良い印象→とても良い印象)

普段感じていた誠実さや親切さ、繊細さなど

を実際多くの場面で目の当たりにした。

## B-1 ペ・ホヨン (普通→とても良い印象)

規律正しさや思いやり、清潔な環境、日本人の親切なところをみて日本に対する良い印象がさらに良くなった。

## B-9 ジン・ユソン (普通→とても良い印象)

親切で素朴な姿に感動した。お互いを思いやる姿から学ぶ点が多かった。

## B-21 キム・ソンヨル

(普通→とても良い印象)

日本の方々は親切で、他の人に対する思いやりの教育、すなわち他人を尊重する気持ちがとても印象深かった。

## B-24 クォン・ファジャ

(良い印象→良い印象)

規律正しい言動、清潔な生活習慣、他人に対する思いやりなどは我々が見習わなくてはならない。

## C-1 パク・フンスン

(良い印象→とても良い印象)

日本が先進国として文化、教養、生活などで素晴らしい伝統と環境を持っているのを今一度学んだ。

## C-5 チェ・ジョンスン

(普通→とても良い印象)

各学校、児童生徒と教職員と教育委員会の関係者たち全てが、訪問団員に親切にしてくれ、困っていると助けてくれたことに感動した。

## C-8 チョン・ヘヒョン

(良い印象→とても良い印象)

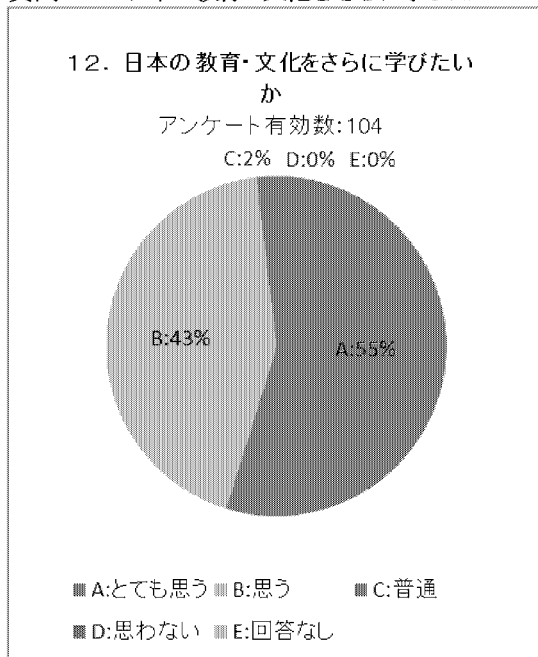
日本の児童生徒は想像していたよりもとても純粋で、学習についての熱意も高かった。また韓国についてのイメージはよく、見習いたいと思われている点などがあることを知り、日本の若者からの韓国への印象が良くなったとわかった。

## C-12 チョン・ワンチュ

(良い印象→無回答)

内面的な面は正確にはわからなかったが、規律正しさ、些細なこともしつかり準備し整頓する姿勢、食生活の面でも慎ましい姿を見ることができたことで日本のイメージが変わった。

質問 12. 日本の教育・文化をさらに学びたいか



【主な意見】 \*原文は韓国語

**A-1** アン・スンヨル (思う)

近くて遠い国、似て非なる日常だったが、東アジアの繁栄と相互理解のためにもう少し深く、さまざまな交流と体験の機会が必要だ。このような経験、積極的交流と理解が未来の世代に対し必要だ。

**A-6** ハム・ジェウ (とても思う)

日本は最も近い国である。この変わらない現実の中で平和と共存の領域で協力しなければいけないからだ。余談だが、島国である日本ならではの独特な文化と生存精神にはとても驚かされたし、効率的だと思った。日本は、思ったよりもっと平和を望む民族だということが分かった。

**A-8** ホ・スンヘン (とても思う)

いい点が多く、良い点を韓国の教育にも導入したい。

**A-30** パク・ヒャンチュン (思う)

日本を深く理解するために多くの時間と努力が必要だと思う。先進国として韓国が見習わなくてはならない点が多くあると思う。特に教育分野では未来社会を引っ張っていく児童生徒への教育の重要性、方法について。

**A-36** ソン・グァンヨン (思う)

実用的で、表面的だけでなく内面的かつ質素な生活についてももう少し習いよい点を見習いたいと思った。

**B-1** ペ・ホヨン (とても思う)

教育庁から任された業務を効果的に実行するため、日本の教育、文化や言語をもっと学びたい。

**B-17** キム・ジョンウン (とても思う)

日本の教育を通し韓国の教育がよりよくなる方法を学びたいから。

**B-24** クォン・ファジャ (とても思う)

児童生徒中心の授業展開や学力向上のための児童生徒を中心とした教育課程の運営に関心が高まった。

**B-33** パク・ギョンジェ (とても思う)

知性、人格、感性が豊かになるための教育、児童生徒中心の教育、進路教育についてももう少し理解したい。

**C-1** パク・フンスン (とても思う)

機会があれば、日本の大学教育の現場をはじめとし各種学校教育についてもっと理解したい。教育面での文化理解は日本を理解するとともに、日韓関係の改善と親善の基本的土台になるだろう。

**C-5** チェ・ジョンスン (とても思う)

今回のプログラムを通じ、日本についてさらに学びたくなったから。

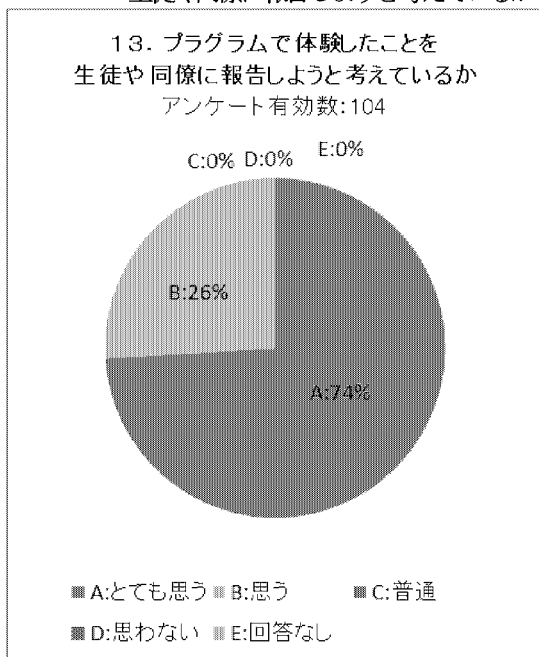
**C-7** チョン・サンギ (とても思う)

次世代には反日感情を超えた相互繁栄の道を歩めるように日本の文化をさらにより深く理解できるように努力が必要だ。

**C-22** キム・テソク (とても思う)

道徳教育など人を中心とした教育であり、家庭は、平和な雰囲気だった。これらのことについて、さらに多くの体験をすることで学びたい。

質問 13. プログラムで体験したことを  
生徒や同僚に報告しようと考えているか



【主な意見】 \*原文は韓国語

**A-1** アン・スンヨル (とても思う)

交流と体験を通し得られた、日本に対する理解を我が校の教職員と児童生徒に共有しようと思う。

**A-3** チェ・スンエ (とても思う)

日韓両国の類似点や相違点について報告し、特にいじめ撲滅の「ホワイトリボン運動」、学校給食、食事マナー、リサイクルに関する教育について報告したい。

**A-6** ハム・ジェウ (とても思う)

私が勤めている学校はユネスコスクールである。私は児童会委員を担当している。そのため児童会委員たちに、このユネスコ精神に基づいた交流活動の成果を発表するつもりだ。特に狛江市立狛江第一中学校での「ホワイトリボン運動」など日本の中学校での活動は自分の学校とも関連性がある。

**A-8** ホ・スンヘン (とても思う)

日本での色々な経験について、教職員研修で必ず共有したい。

**A-30** パク・ヒャンチュン (とても思う)

教育が児童生徒を変化させ、地域社会と国家

を変化させることができる。教育の重要性が大きいため、必ず必要な過程だと思う。

**B-1** ペ・ホヨン (とても思う)

韓国は今の日本の教育についてあまりに知らない。日本を正しく知らないまま、日本というだけでむやみやたらと非難や批判をすることは正しくない。

**B-9** ジン・ユソン (とても思う)

日本の生活の中にある日本教育について伝え、いい点を広め、お互いの文化を理解する良い教材になった。

**B-17** キム・ジョンウン (とても思う)

日本のユネスコスクールの事例を紹介し、環境保護、地域と連携した教育、校則をきちんと守る児童生徒の様子を紹介したい。

**B-24** クォン・ファジャ (とても思う)

我々が知るべき本当の日本、そして文化について伝え、先進国としてもう一歩前進するため韓国の文化改善のためにも努力しようと思う。

**C-1** パク・フンスン (とても思う)

機会があれば講演やプログラムを通し紹介をしたい。

**C-8** チョン・ヘヒョン (とても思う)

日本の児童生徒を対象に行われた韓国文化授業を、韓国の児童生徒にも行いユネスコ活動を校内に広める機会となるよう努力したい。

**C-12** チョン・ワンチェ (とても思う)

日本訪問を通し、学び感じた点、得た情報を我が校の生徒だけではなく同僚の教職員にも情報共有しよりよい教育政策を立て実行したいと思う。

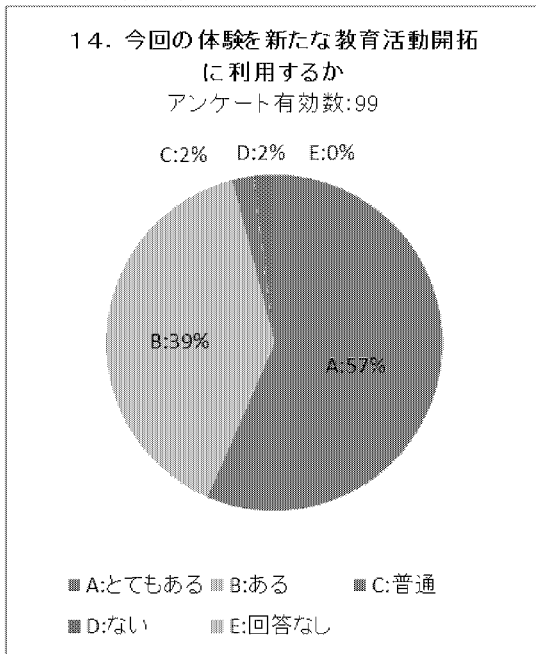
**C-19** キム・ギョンベ (思う)

児童生徒の教育のため。

**C-22** キム・テソク (とても思う)

過去にとられるのではなく、現在と未来のための協力が必要だと思う。教育関係者の努力する姿を見てそのようなことを感じた。

質問 14. 今回の体験を新たな教育活動開拓に利用するか



【主な意見】\*原文は韓国語

**A-1 アン・スンヨル** (とてもある)

国際理解、創意的体験時間の活用。教職員研修時の国際交流活動案内。保護者研修時の本プログラム活用および日本文化理解の時間の共有。ユネスコ国際理解活動の共有過程編成時の連携指導。部活動を通じた相互理解を深める活動展開。

**A-3 チェ・スンエ** (とてもある)

狛江市立狛江第一中学校で説明を受けた「ホワイトリボン運動」を自分の学校でも実施する予定だ。また、本校と狛江市立狛江第一中学校の生徒会交流を推進し、いずれは相互訪問に発展させたい。

**A-6 ハム・ジェウ** (とてもある)

狛江市立狛江第一中学校の「ホワイトリボン」精神は、韓国の多くの学校が掲げる「いじめのない平和な学校・幸せな学校」と同一の理念である。私の学校の生徒会で「ホワイトリボン」について説明をし、一日活動を通じて国際的な交流活動を実施し、その結果をメールで送ることで交流したいと思っている。

**A-8 ホ・スンヘン** (とてもある)

校長として、児童生徒はもちろん、全教職員に日本の良い点を必ず伝えたい。

**A-11 キム・ドンシク** (とてもある)

両国の学校関係者、児童生徒からも情報や意見を得て実践方法などを考えていきたい。

**A-30 パク・ヒャンチュン** (ある)

具体的ではないが教育課程上、必要な部分で活動の要素を選び教育をするつもりだ。

**B-1 ペ・ホヨン** (とてもある)

日本の教職員が毎年全羅南道を訪問するが、その際、日本の教育をより多く広められる時間をもてるようにプログラムを企画したいと思う。また、プログラム準備時にも日本の文化と慣習を最大限配慮し進めていきたい。

**B-9 ジン・ユソン** (とてもある)

給食文化、規律正しさ、防犯教育、環境教育、図書館、部活動などが印象的だった。この部分を比較し伝えたい。

**C-1 パク・フンスン** (とてもある)

大学の講義時間や各種特別講義などの機会に内容とともに、写真などの資料を使い、活動内容を紹介する予定である。

**C-5 チェ・ジョンスン** (とてもある)

昭和女子大学附属昭和中学校・高等学校で見た環境保護のための活動を我が校でも全校生徒対象に実践させたい。

**C-8 チョン・ヘヒョン** (とてもある)

韓国伝統文化の紹介授業開発および韓国のユネスコ教育を紹介する資料収集やユネスコカフェの活性化を図りたい。

**C-12 チョン・ワンチェ** (とてもある)

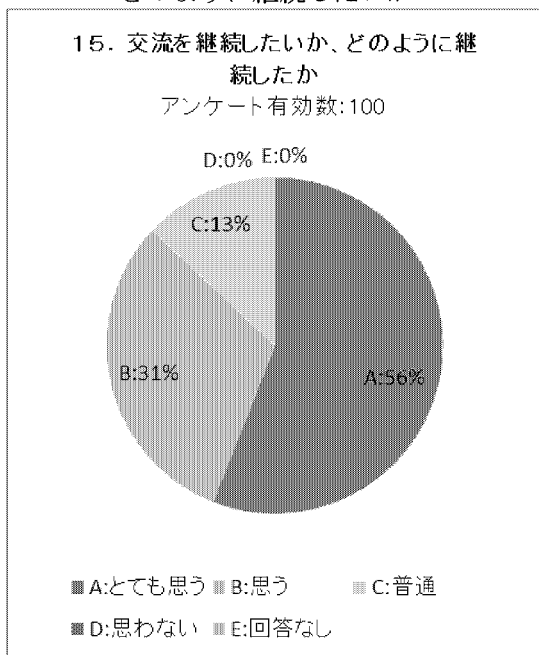
教頭なので授業を通し伝えるのは難しいが、学校教育政策の方向性を決め、その政策を実行する過程で我が校の児童生徒にも伝え伝えていきたい。

**C-22 キム・テソク** (とてもある)

ESD が追求しているものを日常生活の中にある文化、地域社会との連携などを取り入れた児童生徒のためのプログラムをつくりたい。



質問 15. 交流を継続したいか、  
どのように継続したいか



【主な意見】\*原文は韓国語

**A-1** アン・スンヨル (とても思う)

交流および、相互理解の重要性を教職員と共有し、その方法と計画について話し合う。

**A-6** ハム・ジェウ (普通)

日本の教職員との交流はしたいが、同時に韓国とは異なる部分もあるため負担に感じることもある。学校の訪問の際、児童生徒全員による歓迎式や授業を中断して行われた行事などには申し訳なく感じた。なので、児童生徒会単位の交流を考えている。個人的に日本教職員のホームビジットには積極的に協力するつもりだ。

**A-8** ホ・スンヘン (とても思う)

韓国の児童生徒が、日本の規律正しさ、相手への思いやり、親切さなどを直接体験し感じられるように、数多くの児童生徒間交流が必要だと思う。

**A-30** パク・ヒャンチュン (普通)

個人規模での交流は難しく、教育庁や市庁を中心に交流計画を立て、進めていくことが良いと思う。学校では交流業務(書類上は簡単だが)は大きな負担になる。特に授業や業務が多い時期に全ての計画をたてその通りに行うことはそれ専門の部署がない状況では難しい。

**A-36** ソン・グァンヨン (普通)

まだ具体的に考えてはいないが、ユネスコスクール活動を通し、持続的に研修と交流をしたいと考えている。

**B-1** ペ・ホヨン (とても思う)

日本が興味をもっている韓国の ICT 教育と英語教育見学プログラムをさらに強化し、また、日本について学びたいという児童生徒のために日本の道徳や環境教育などを紹介する予定。

**B-9** ジン・ユソン (とても思う)

2015 年の「韓国政府日本教職員招へいプログラム」で訪問を受け入れたが、それをきっかけに狛江市立狛江第六小学校と、友情の手紙、絵手紙交換、本の交換などで交流をしている。良い機会だと思う。

**B-17** キム・ジョンウン (とても思う)

Skype、E メールを使った意見交換。

**B-24** クォン・ファジャ (思う)

小学校の教育についてお互いの情報を共有しようと思う。

**C-1** パク・フンスン (とても思う)

日本の関係者などが訪韓する際に、日本との交流に関心がある韓国の機関や団体を紹介し、受入れをする予定だ。長野県を始めとする各教育委員会や各学校などが韓国と活発に交流できるよう橋渡しをしようと思う。

**C-5** チェ・ジョンスン (とても思う)

テレビ電話や E メールでの交換。

**C-7** チョン・サンギ (とても思う)

日韓両国の学校による、姉妹校交流。

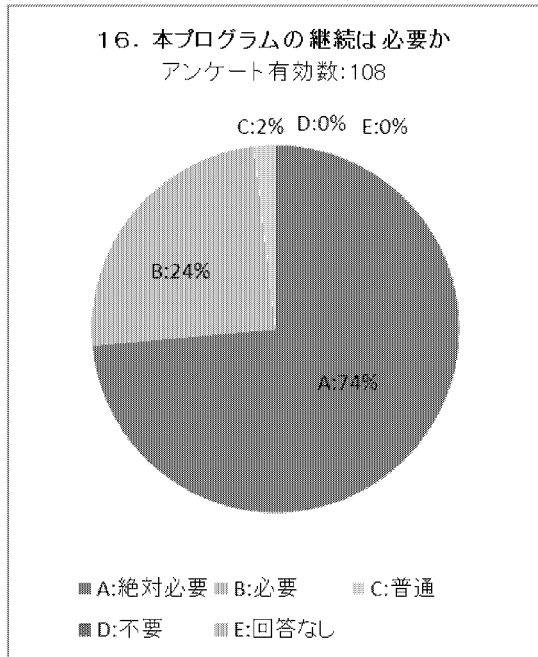
**C-8** チョン・ヘヒョン (とても思う)

現在のように ACCU と KNCU が主体となって、韓国全国から集められたユネスコスクール担当者および教職員の訪日プログラムが継続されることを期待したい。

**C-19** キム・ギョンベ (とても思う)

日韓両国の教育を相互理解し、お互いの発展を図る。

質問 16. 本プログラムの継続は必要か



【主な意見】\*原文は韓国語

- A-1 アン・スンヨル (絶対必要)**  
相互理解および、教育方法、疑問点および現地体験を通じた理解を深める。
- A-3 チェ・スンエ (絶対必要)**  
学校訪問やホームビジットといったプログラムは積極的に推進されなくてはならないと思う。
- A-6 ハム・ジェウ (絶対必要)**  
教職員同士で直接会うことで実感する精神的な面がある。これは説明では分からないものである。
- A-8 ホ・スンヘン (絶対必要)**  
良いプログラムだと思うし、持続的に拡大実施されると良いと思う。
- A-20 ク・ソンヨン (必要)**  
本プログラムでの経験を帰国後、教育現場に取り入れることができると思うため。
- A-30 パク・ヒャンチュン (絶対必要)**  
日本の教育の現状について詳しくわかった。
- A-36 ソン・グァンヨン (絶対必要)**  
韓国教職員が日本の教育と日本文化を理解するのにとても有意義で意味のあるプログラム

であるため、継続は必要である。

- B-1 ペ・ホヨン (絶対必要)**  
お互いが理解するため、分かり合うため、そして発展するためには絶対に必要。
- B-24 クォン・ファジャ (絶対必要)**  
参加人数は少数ではあるが、プログラムの持続が韓国の教育発展に役立つと思う。
- B-33 パク・ギョンジェ (絶対必要)**  
同じ文化圏同士、児童生徒の問題点を共有することで各国に合う改善方法を模索することができるのではないかと思います。
- C-5 チェ・ジョンスン (絶対必要)**  
さらに多くの人とこのような研修内容を共有したい。
- C-7 チョン・サンギ (絶対必要)**  
日韓両国間の理解を深めることができ、また両国の教職員間のネットワーク構築および児童生徒の交流、グローバル教育のため必要である。
- C-8 チョン・ヘヒョン (絶対必要)**  
ユネスコスクールの担当者だけではなく、ユネスコスクールについての知識があまりない教職員も一緒に参加できるようにすることも必要である。
- C-12 チョン・ワンチュエ (絶対必要)**  
相互理解だけでなく相互発展を図れる機会になると思うから。
- C-17 キム・ジンヒ (絶対必要)**  
日韓両国は相互理解を深めるべきであり、東アジアの平和や発展において両国がともに重要な役割を果たすべきだと思う。そのために本プログラムが必要である。
- C-19 キム・ギョンベ (絶対必要)**  
日韓の文化や授業方法の相違点を知ることができるし、このプログラムでの交流を通じ、自国の教育の質を上げたいと思う。

## 2. 受入れ教育委員会

### Aグループ

狛江市教育委員会

指導主事 坂本 尚毅

#### プログラムの全体的印象

- 日韓教育交流会では短時間で成果物をまとめることもでき、各グループのテーマに基づいた教育交流が充実した。

#### プログラム成果

- 狛江市の教職員が、積極的に国際交流を行う意識を高めるための素地ができたこと。
- 狛江市の教職員が、自校の取り組みを訪問団員に発信することにより、自校の取り組みを見つめ直し、より一層特色ある教育活動を推進することにつながったこと。
- 訪問団員と関わった児童・生徒および保護者等が、普段の生活ではなかなか得られない経験をすることができたこと。

#### 苦勞した点

- 効果的な配布資料とするために、早い段階から資料作成を行う必要があったこと。
- 関係機関からの協力を得るために、本事業について具体的に説明できるようにすること。
- 大きな事業であるので報道機関等への情報提供を効果的に行うこと。

#### 加えるとよいと思われる活動

- 1単位時間で完結するテーマで、同じ学年の児童・生徒に対して日韓の教職員が授業を行い、参観者が協議をするなど、同様のテーマを設定した授業研究会の実施。

#### プログラムの改善に向けた助言

- 歓迎レセプションには、日本側からより多くの教職員が参加できるようにしたいので、これに関わる配当

予算を増額できると良い。

### Bグループ

さいたま市教育委員会

指導主事 衛藤 伸介

#### プログラムの全体的印象

- 教育委員会もそうだったが、各学校で歓迎する気持ちが全面的に出ていたのが素晴らしかった。おもてなしの心を示せたのではないかと思う。
- 訪問団員が、日本に対して、友好的な気持ちを持ってくれたとしたら、大変うれしい。

#### プログラム成果

- 日韓の教職員が、同じ職業をもつものとして、通じ合えたことがよかったと思う。日本教職員からも質問することにより、韓国の教育施策を知り、参考になる点が多くあったと思われる。また、一般の方がホームビジットに協力してくれることにより、両国の国際交流の輪が広がったと思う。

#### 苦勞した点

- 他の業務との兼ね合いの中で、十分な準備の時間がとれなかったこと。

#### 加えるとよいと思われる活動

- 韓国には、なかなか行けないので、日本側からも学べる機会があると良いと思う。例えば、韓国側からもプレゼンテーションをしたり、文化交流の授業を学校でもらえると、より深まりが出ると思う。

#### プログラムの改善に向けた助言

- 十分な対応ができたかは、分からないが、関係したすべての人が有意義な時間をもてたと思う。貴重な体験をさせていただいたことに感謝したい。

## C グループ

長野県教育委員会

指導主事 横内 佳代

## プログラムの全体的印象

- 韓国との交流について、本県なりに先方の性格や流儀などを把握していた面もあり、形式的ではなく、本当に教職員同士が交流できるプログラムが理想だったので、それを実現するべく準備をしてきた。実感としては、もっと教職員同士がじっくりと話せる機会を設定すべきであったと思われる。質疑応答をメインにしたが、それでも時間が足りない印象であった。
- 我々としては、韓国の過度な受験競争を課題としてとらえている。したがって、日本では課外活動やキャリア教育を重点的に視察してもらうのが良いのではないかと考える。一方、日本は ICT 教育や、グローバル化への対応といった面で韓国に学ぶ点も多い。双方の課題をもっと明確にしたプログラムにしたほうが良いのでは。韓国教職員が課題にした「暴力・いじめ」等の研修など十分にはできなかったのではと推察する。先方の狙いもお知らせいただくとプログラムの内容も検討できる。今回の研修で、果たして韓国教職員がどれくらい中身を充実させられたか、心配も残っている。全体的には、受け入れはやってよかったという感想。特に韓国教職員による生徒への授業がとてもよかった。

## プログラム成果

- 海外からすれば、日本といっても広く、全体でとらえられがちで、トータルで見れば日本全国教育制度は同じではあるものの、実際には各自自治体の教育委員会ごといろいろな特色はある。
- 「観光大県・長野県」という県の方向性が、教育とは無関係ではなく、国際観光学科の設置や、長野西高等学校の外国人ボランティアガイド

などの活動にもつながっている。そういった長野の特色を見ていただくと同時に、今回の訪問では、県国際課や長野市観光コンベンションビューローなどのご協力もいただき、長野県の観光面も PR できたことはよかった。

## 苦勞した点

- 見学先の選定にはさほど困らなかったが、個々のやり取りは小さい教育委員会にとっては負担である。
- 資料翻訳のために事前提出が求められたが、締め切りが早いのも大変だった。

## プログラムの改善に向けた助言

- 通訳の業務範囲について再考されたほうが良いかもしれません。通訳は、言葉を訳す以外にもプラスαの能力が求められると思います。

### 3. 受入れ校

#### Aグループ

##### ●千葉県立流山おおたかの森高等学校 教諭 海老原 正昭

###### プログラムの全体的印象

- 3年生が家庭学習に入ってしまう全学年が揃っていない状態での授業参観だったが、学校の雰囲気は伝えられたと思う。
- 学校評価・PTA について・生徒指導について等の質疑応答や意見交換の場での、訪問団員の熱心な姿勢に感銘を受けた。

###### プログラム成果

- 両国の教職員が意見交換をすることで、情報を共有することができた。
- 韓国語を選択している生徒が参加することにより、また、韓国教職員に日本の高校生と触れ合っただくことができ、双方にとって大変良い経験となった。

###### 苦勞した点

- 芸術の授業、特に書道の授業は外国の先生方の評判が良いので、日本の文化を知っていただくためにもお見せしたかったが、見ていただくことができなかった。
- 会場が人数に対して小さいため、生徒たちが行いたがっていたプログラムを行うことができなかった。
- 千葉県では学力試験が 2 回あり、その時期と重なっていたため、本プログラムに集中できなかった。

###### 加えるとよいと思われる活動

- 通訳の方が同行されているので、韓国語を理解できない生徒とも交流を行うほうが双方にとって得るものが多いと思える。ただし、学校によっては生徒指導の負担が増えてしまうことが考えられる。

##### ●狛江市立狛江第六小学校 副校長 鷺見 真太郎

###### プログラムの全体的印象

- 授業形態や任用形態、体育の服装についてなど、訪問団員の興味は多岐にわたっていた。また、1年生の教科書が欲しいという方(自身で日本語の勉強がしたいとのこと)もいた。

###### プログラム成果

- 言葉は通じなくても友好的かつ建設的なやり取りができたことは、我々にとっても有意義な経験であったと感じた。民間レベルでのこうした交流により友好関係を深めることは、とても意味があることだと改めて実感した。
- 子どもたちの反応もたいへん良く、短い時間しか関われなかったことをたいへん残念がっていた。

###### 苦勞した点

- ボランティア通訳の語学力に個人差があり、授業とのマッチングが難しかった。
- 訪問団員の授業でパワーポイントを使う方が多く、機器の調整等がやや煩雑だった。

###### 加えるとよいと思われる活動

- 内容は今回のままでよいと思うが、意見交換等、ざっくりばらんな話ができる時間がもう少し取れると、より有意義な交流活動になると思う。

###### プログラムの改善に向けた助言

- やはり言葉の壁が一番大きい。可能であればもう少し通訳の人数を増やすことができれば、さらに密度の濃い交流ができると思う。

##### ●狛江市立和泉小学校 副校長 鈴木 聡

###### プログラムの全体的印象

- 全校児童とともに、給食を食べる活

動を通し、訪問団員と密接な関係を築くことができた。3年生が日本の昔遊びをともに取り組むことを通して、外国の方に日本の文化を伝えるだけでなく、自国の文化を見直す良い機会となった。

#### プログラム成果

- 簡単な韓国語の習得(主に挨拶に関する言葉)
- 「日本の代表」として、外国の方をお迎えする態度
- 日本と異なるコミュニケーションの必要な方との交流による、かけがえのない経験

#### 苦勞した点

- 韓国語に精通している者が少なく、歓迎のメッセージの表記を確かめるのに苦勞した。

#### 加えるとよいと思われる活動

- 訪問団員による本校児童への授業。

#### プログラムの改善に向けた助言

- 児童がいきいきとプログラムに取り組む様子が見られ、訪問団員とも暖かな雰囲気での交流することができた。歌の交流など、児童のよい思い出になり、たいへん感謝している。

### ●狛江市立狛江第一中学校

校長 樋口 豊隆

#### プログラムの全体的印象

- いじめを防止する生徒会活動「ホワイトリボン運動」に30名が署名参加してくださった。
- 本校の生徒会活動を高く評価してくださった。

#### プログラム成果

- 本校は生徒の自尊感情を高める教育を進めている。今回は生徒会を主人公にした取り組みとして行ったため、外国(韓国)の方々へ自分たちの取り組みを紹介することについて自信がいった。

#### 苦勞した点

- 本校教職員の名札を ACCU で用意していただけるとよかった。

#### プログラムの改善に向けた助言

- 本校では国際理解協会の協力ののもと、韓国の留学生を講師に招き、事前学習を行った。「人と出会う」このような事前の学習は生徒にとってよい効果だった。

### ●狛江市立緑野小学校

校長 大場 一輝

#### プログラムの全体的印象

- 本市教職員にとって貴重な機会を与えていただいた。
- 国は違えど教職員が抱える課題に共通点が多いことを改めて感じた。

#### プログラム成果

- 韓国の教育事情を直接伺うことにより、互いの教育課題を明確に理解することができた。

#### 苦勞した点

- さまざまに工夫をしていただいたことにより、楽しく準備をさせていただいた。

#### 加えるとよいと思われる活動

- 事前課題によるプレゼンテーションがあるとさらに内容の濃いものになる。

### Bグループ

### ●トキワ松学園中学校高等学校

教諭 岩谷 奈美

#### プログラムの全体的印象

- 他国の方をお迎えし、本校のことを知っていただいたこと、生徒・教職員が参加された先生方と交流を持てたことは本当に良い機会だったと思う。特に、他国の教職員と交流する機会は決して多くないので、本校の教職員にとっても貴重な経験

だった。

- 見学していただいた **Global Studies** の授業ではキリスト教について学んでいたが、訪問団員が学校で宗教を教えることに驚いたことに驚いた。また、韓国の自由学期制は日本の総合学習に似ているようにも感じたが、日本にはないシステムで今年から全面導入との説明だったので、その成果などに関心がある。

#### プログラム成果

- 訪問団員に実際の授業をしていたおかげで、韓国の文化や学校生活への理解が深まり、関心が高まった。昼休みに交流をしたコーラス部、マンドリンギター部にとっても、音楽が文化や言語を越えると言うことを体感し、今後の活動への励みとなったようだ。政府間ではさまざまな問題を抱える日韓両国だが、生徒たちが実際に韓国の方と接し、感じた率直な思いが生徒たちの今後の成長や韓国への印象へ好影響を与えることを考えると、長期的な成果もあったと考える。
- 本校教職員にとっても、訪問団員の質問を受けたり話を聞くことで、国は違えど教職員として抱えている課題が似ているなどの新しい発見があった。韓国の学校の様子が少しわかり勉強になった。また、学校案内の発表準備をする上で、普段の教育内容を振り返る良い機会ともなった。

#### 苦勞した点

- 訪問団員が小・中・高とさまざまな学校の先生方なので、どこに焦点をあてればよいのか少々迷った。また、韓国の教育事情に明るくないため、何に関心を持っていただけそうか分からず 6 時間分の授業＋昼休みのプログラム内容を確定するのに少し時間がかかった。
- また、本当は一番見ていただきたいかった授業などが時間割の関係で見学していただくことができず残念。

6 学年全クラスの時間割が連動しているため、時間割を変更することが難しかった。

#### プログラムの改善に向けた助言

- 通訳の数や、訪問団員の校種・教科にもよるが、教科別の意見交換会などがあるとそれぞれのニーズにより合うと思う。

#### ●さいたま市立新開小学校

教頭 上原 善一

#### プログラムの全体的印象

- 訪問団員が進んで学ぶ姿勢が素晴らしいと思う。特に全体会での質疑応答では、自国との違いや共通点について述べられ、我々も参考になった。

#### プログラム成果

- 児童が韓国について学び、お互いの文化を理解し合えるよい機会になった。
- 教職員同士、抱える悩みは同じであることを知り、教育の世界の難しさを知ることができた。

#### 苦勞した点

- 通訳がないと言葉を理解することができないので、時間がかかった。もっと話し合う時間がほしかった。

#### 加えるとよいと思われる活動

- ぜひ本校からも韓国の学校を訪問し、お互いへの理解を深められる機会があればよいと思う。顔を合わせることが重要なことだと思う。

#### ●さいたま市立さくら草特別支援学校

教頭 岡田 健彦

#### プログラムの全体的印象

- 学校現場においては、貴重な教職員の国際交流の機会を設けていただ

き、日韓双方の教育事情について協議することができ有意義な時間となった。

- ▶ 障がい者差別解消についての質問が出されたが、日本においても4月から障がい者差別解消法の施行となり、適時の話題として協議することができた。
- ▶ 特別支援教育の場における危機管理については、日韓双方ともに課題として共有することができた。

#### プログラム成果

- ▶ 特別支援教育の諸課題について国際的な視野をもちながら協議することができた。
- ▶ 両国の国内事情に合わせた教育内容が行われていることがわかり、お互いの良さを理解し合える貴重な機会となった。

#### 苦勞した点

- ▶ 受入れにあたっての国際儀礼についての資料が少なく、国旗の掲示の仕方や出迎え方、あいさつ文等、失礼のない配慮に苦慮した。
- ▶ 最新の日本のトイレの使用方法や衛生管理について、事前に説明をしておくべきだった。

#### 加えるとよいと思われる活動

- ▶ 児童生徒の実態にもよるが、直接かわられる集会活動や交流ができると良かったと思う。

#### プログラムの改善に向けた助言

- ▶ 交流するうえで国際関係が話題にならないか心配だった。訪問団の質問に備え、想定問答を作成したうえで交流したが、国家間の問題が話題に出された場合の回答については、助言をいただくとありがたいと感じた。

### ●さいたま市立木崎中学校

校長 大澤 敬

#### プログラムの全体的印象

- ▶ 韓国とは微妙な問題が存在し、どんな感情を持って来日するのか、どんな質問が来るのか等、さまざまな不安要素を持ちながら受け入れを行ったというのが正直な感想である。しかしそれらのことは杞憂に終わり、友好的な雰囲気での交流ができたと感じる。全体的に非常に友好的な雰囲気の中で交流することができ、有意義であったと同時に大変楽しい訪問になった。
- ▶ 日本が「ゆとり」から「学力重視」へと再度舵を切ったのに対し、韓国では「学力重視」から「ゆとり」への方向転換が議論されているとのこと興味深かった。韓国の年間授業時数が日本よりずっと多いことも印象的である。
- ▶ 部活動の指導への日本の教職員への関わりが、ほぼボランティアであることに驚かれたようだ。しかし、部活動の目指すものが勝利至上ではなく、人間教育なので教職員が関わらざるを得ないという説明をしたところ、ある程度納得していたようだ。
- ▶ 韓国では「中二病」というものがあるそうで、これは日本の「中一ギャップ」と同様なものかと思ったが、質問から判断するに「校内暴力」を伴うものらしいことがわかった。日本では現在、校内暴力よりも不登校やいじめが社会問題化しているのと異なり興味深い。
- ▶ 道徳を教える専門の教職員がいることに、日本の教職員からは驚きの声が上がった。
- ▶ 生徒が規律正しく授業を受けていることに驚いたようだが、規律を乱す生徒へはどのような処置をするのか、そのような生徒に対応する法律はあるかとの質問から、韓国では授業規律への課題があるのかと推察された。



### プログラム成果

- 「百聞は一見にしかず」で、実際に教職員同士が交流することで友好関係は深まるものであると実感できた。職業柄、同じ悩みも多いことが想像されるのでもっと時間をとって意見交換ができればよかった。

### 加えるとよいと思われる活動

- 教職員との意見交換の時間が少ないので、半日の訪問ではなく 1 日とし、生徒にも韓国の生徒の様子や教育制度の説明ができるといい。教職員の交流だけでなく、せっかくなので生徒にもこの機会を活用したいと思った。具体的には生徒のクラスに 1~2 名ずつ韓国の先生が訪問して授業をしたり、質問をうけるなど。生徒ももっと韓国を身近に感じることができるはずだ。

### プログラムの改善に向けた助言

- 予め学校概要等の当日説明資料を翻訳していただいたのはありがたかった。
- レセプションはいい企画だと思うが、通訳が少し少なかったため、さらに増員されると会話がスムーズに行く。
- 当日の通訳は優秀であったと思う。教育関係に造詣が深くないとなかなか通訳しても意味が通じないことが懸念されるが、今回は大丈夫だった。専門知識がある通訳を今後もお願いしたい。

### C グループ

- 昭和女子大学附属昭和中学校・高等学校  
教務主任 及川 道子

### プログラムの全体的印象

- 熱心にご見学いただき、校舎の設備(フックや掲示板、下駄箱など)にも関心を寄せていただき、私共が自校の特徴を再認識する良い機会になった。
- お土産にいただいた鐘のレプリカは、本校の戦後の発展に尽くした

故・人見理事長の趣味と合致していて、受付の呼び鈴として大切に使用させていただいている。

### プログラム成果

- 韓国との交流は初めての経験で、これを機会に交流が発展していくとありがたい。
- 生徒に昼休みのフリートークを呼びかけたところ、思った以上に話しにくる者がおり、訪問団員が丁寧に対応していただき、生徒にとって通じる喜びを得られるとても貴重な経験になった。
- 高校 3 年生 24 名に交流の機会をもたせていただき、これもまた大変貴重な経験になった。
- 教職員との交流において、学校として抱えている問題・課題は、国が違っても同じようなことで、よい交流になった。

### 苦勞した点

- 教職員との交流を 4 グループに分かれて行いたいという希望だったが、通訳の方は 2 名だったので、本校に韓国語の教職員や比較的韓国語に通じている者がいたとはいえ、十分なコミュニケーションがとれない場面があった。
- 参加者全員が英語で話し合うことができるわけではなかったので、通訳の方をあと 2 名増やしていただけると、もっとスムーズに進められたと思う。

### 加えるとよいと思われる活動

- 9 時半~15 時半の 1 日の交流としては、今回のプログラムで精一杯だと思う。

### プログラムの改善に向けた助言

- 訪問団員の人数が 10~20 人くらいだと、教職員との交流をもう少し緊密にできると思う。

●長野県中野西高等学校  
教諭 室井 明

プログラムの全体的印象

- ▶ 半日という短い時間だったが、今回は1年生と2年生全クラスで授業を行っていただいたり、教職員との交流の時間をとれたので、学校全体として大変刺激的な時間になった。多くの生徒から「楽しかった」という声を聞き、また、教職員からも「韓国教職員と直接話をするのができて、とてもよかった」との声が寄せられた。

プログラム成果

- ▶ 「韓国」という国は知識として知ってはいても、実際に韓国の人と出会う機会は少ない中、同じ学校関係者と会って交流をすることができたことで、いままでとは違う感覚で韓国を感じるようになるのではないかと思う。
- ▶ 教職員の中には韓国語の勉強を始めた者もあり、訪問までの1ヶ月あまりはちょっとした韓国ブームになった。
- ▶ 生徒の中に韓国や韓国語に関心のある者が多くいることもわかり、実際に独学で勉強している生徒もいて、今回の訪問がこれからの進路にも大きな影響を与える機会になったのではないかと感じている。

苦勞した点

- ▶ 半日という時間は少し短かったと思うが、中身としてはとても充実したものになったと思う。

加えるとよいと思われる活動

- ▶ 日本では、韓国語を学校設定科目にしているところが少ないので、生徒たちが韓国語に触れられるような機会があるといい。具体的には、簡単な韓国語の授業のようなものである。

●長野県長野養護学校  
教頭 堀内寛子・小林智明

プログラムの全体的印象

- ▶ 学校概要説明後の質疑応答では率直な質問をたくさんいただき、関心の高さを知ることができた。休憩時間など、英語や日本語で話しかけてくださる先生が多く、交流に向けた意識の高さを感じた。

プログラム成果

- ▶ わずかな時間しか確保できなかったが、直接児童生徒に関わっていただくことができ、有意義な機会となった。
- ▶ 校内参観の際にも、本校生徒の製品をお買いあげいただき、彼らが自分たちの良いところを自覚する機会となり、大変ありがたかった。
- ▶ 韓国の高等学校教員の方がほとんどだったが、日本の特別支援教育制度の一端をご理解いただくことができた。訪問団代表のあいさつ、本校校長のあいさつを通して、日韓の交流の歴史を改めて確認させていただく機会となった。

苦勞した点

- ▶ インフルエンザ等感染症の流行期のため、感染拡大防止等の措置を取らせていただいた。感染した場合には重症化する可能性がある児童生徒が本校には多数在籍している。気候のよい時期に訪問していただくと、さらに交流が深められたかもしれない。
- ▶ すでに他の行事が重なって入っている日であったため、十分な対応ができず申し訳なかったが、訪問団の皆様にご理解いただけてありがたかった。

プログラムの改善に向けた助言

- ▶ 韓国の特別支援教育に携わっている先生方との交流が行えるとありがたい。特別支援学校の特性から、児童生徒の登校日に教職員が交流

することが難しいのが現状である。教職員同士の意見交換等を行うためには、長期休業中の来校なども考えられるのではないかと思う。

●長野県長野西高等学校  
教頭 石川 裕之

プログラムの全体的印象

- 訪問された先生方が積極的に生徒と関わってくださり、また、高い関心により日本文化を知ろうとされていた点が印象に残った。歩く道すがら、次々と発せられる質問に、先生方の知的好奇心の高さを感じた。
- 初めて出会った方々に英語で地域を案内するという経験を、良い環境で実施することができ、生徒にとっては幸せな時間だった。

プログラム成果

- 今後、自分たちのリサーチした内容を、広くグローバルに発信することを積極的に行っていくにあたり、とても良いスタートとなった。

苦勞した点

- 当日は暖かく晴天に恵まれたが、天候に左右されるであろうことが企画のうえで心配された。
- こちらのスケジュールの都合で、善光寺案内以外の交流に広げることができず、残念だった。

加えるとよいと思われる活動

- 生徒の音楽発表会や美術展・書道展などへの参加。

## 4. 日韓夕食交流会 参加日本教職員

●英語グループ  
(日本教職員 4名、韓国教職員 4名)

感想

- 英語グループだったので、教育を中心に両国の文化全般について、話し合った。さまざまな内容の話ができ、また韓国教職員とのこのような交流は自分にとって初めてだったので、とても有意義な会だったと思う。韓国ではいわゆる数え年を使っていることに驚いた。はじめは生徒の学年と年齢が日本と異なり、入学の年が1年遅いと勘違いしてしまった。(小中一貫校 主幹教諭)
- 私たちのグループでは、日本と韓国が抱える教育問題や、人間教育に必要なことについて話し合った。教育に絡んだ政治の話などもでき、それぞれの国が抱える問題や教職員が抱えている願いは似ているなど感じた。他のグループがどうだったのか分からないが、テーマがあったから話が盛り上がったというよりは、言葉の壁がなかったから深い話ができたと感じる。私たちのグループは英語のグループだったので、英語を共通語として話げできた (小学校 教諭)
- 教育に対する思い、家族・社会に対する思いや現状など個人としてさまざまな会話できたことがよかった。仕事と家庭の両立の仕方や双方の受験戦争の話などをした。(中等教育学校 主幹教諭)

プログラムの改善に向けた助言

- 希望人数が多いと場所を探すのが大変なグループが出てくる。そういう意味では、事前に個室を予約しておいてもらったので大変助かった。テーマを決めずに食事内容で分ける方式もあるが、英語圏ではない国の場合は、言葉の問題もあるので、今回の形の方がよかったと思う。(小中一貫校 主幹教諭)
- テーマはもう少し具体的な方がよい。

ただし、共通の興味・関心を持つ人が集まるということであれば、今回のような企画もよいと思う。また、日本の先生同士のネットワーク作りにも役立つと思う。(中等教育学校 主幹教諭)

#### ●日韓交流グループ

(日本教職員 4名、韓国教職員 3名)

##### 感想

- 同じグループではない先生と事前のメールのやりとりを通じて親しくなり、プログラム中も関わることができた。メールでのやりとりがなければ、踏み込んだ話(特別支援教育の話)にも発展しなかったと思うし、関われなかったと思う。また、参加していた先生方に学校間交流の実践紹介ができ、韓国教職員に、素晴らしい交流だと評価してもらえた。(小学校 主任教諭)
- 今回の日韓夕食交流会に参加させていただいた最大の理由は、韓国の方々に少しでも恩返しをしたかったからだ。2015年8月の韓国政府日本教職員招へいプログラムで多くの方にお世話になった。今回は短い時間だったが、教育を中心に、お互いの絆を深めることができた。(中高一貫校 教諭)
- 参加するにあたり、言語など不安な面があったが、今は参加して本当によかったという気持ちだ。韓国教職員とも、初めて会った日本の先生方とも学校の話はもちろん、いろいろな話をする事ができて楽しかった。私も韓国語の勉強を本格的に始めて数か月のところだったので、自分自身の刺激になった。(小学校 主幹教諭)

##### プログラムの改善に向けた助言

- コミュニケーション手段に関係なく、教科、校種、職種別の交流の場があると、さらに話題が絞れて、今後の交流につながるのではないかと思った。また、韓国教職員と同様に日本の先生にも首から下げる名札などがあると、お名前が分かりやすかったかもしれない。(小学校 主任教諭)

- テーマでグループが分かれていたため、お互いの興味・関心が一致しており、話がスムーズに進んだ。グループの人数を限定したり、メンバーの動きが流動的になれば、さらに素敵な時間になると思う。(中高一貫校 教諭)
- 夕食会のお店を事前に決めておいていただけたのはよかった。周りに飲食店がたくさんあるとはいえ、どこにするか決めるのは大変なので助かった。(小学校 主幹教諭)

#### ●ESD・ユネスコスクールグループ

(日本教職員 5名、韓国教職員 5名)

##### 感想

- ユネスコスクールの先生方や教育庁の方が多いうグループだったため、各校や各教育庁の実践の様子を紹介しあえたことが良かった。韓国でもさまざまなESDの取り組みがあることが分かった。また、参加した日本の先生方とESDに関する情報交換をすることができた。韓国教職員は勉強熱心でヨーロッパの実践事例などの話もあり勉強になった。(小学校 教諭)
- 韓国でのESDの取り組みについて、行政側のお話と現場の学校の具体的な取り組み内容についての両面を聞くことができて、大変興味深かった。国の枠を超えて教育の問題について対話をする事ができる場合は、なかなか得られるものではないので、大変刺激的な時間だった。また、カジュアルな席での夕食交流だったので、日韓の文化など日常的な問題についても意見交換をすることができ、貴重な時間だったと思う。今後もこのような企画があればぜひ参加したい。(高等学校 教諭)

##### プログラムの改善に向けた助言

- 開催日を金曜日にしてほしい。(小学校 教諭)
- 私自身、語学が得意ではないので、できれば通訳の方に複数入っていただくとスムーズに交流ができたのではないかと思う。(高等学校 教諭)



# 付録

1. 実施要項
2. プログラム日程
3. 参加者リスト
4. 関係機関リスト
5. 文部科学省講義資料
6. 過去のプログラム実績

## ◆付録 1. 実施要項

## 韓国教職員招へいプログラム

(2016 年 2 月 16 日～22 日：東京都、東京都狛江市、埼玉県さいたま市、長野県、千葉県成田市)

## 実施要項

## 1. 背景

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター(ACCU)では、我が国と韓国の教職員間の交流を深め、両国民の相互理解と友好の促進に資するため、国際連合大学の委託を受け、国際教育交流事業として韓国から初等中等教育教職員を招へいするプログラムを実施しております。

また、2003 年からは同プログラムと対をなすものとして、日本の初等中等教育教職員が韓国を訪問するプログラムを実施しております。2015 年 9 月までに韓国から招へいた教職員数は延べ 1,766 名にのぼり、日本から訪韓した 519 名と合わせ、日韓間の相互理解促進、学校間交流に大きく貢献してきました。

第 16 回となる今回も、文部科学省、韓国ユネスコ国内委員会、韓国教育部および各教育委員会のご協力のもと、2016 年 2 月 16 日(火)から 2 月 22 日(月)までの 7 日間にわたり、韓国から初等中等教育教職員約 115 名を日本に招へいします。

## 2. 目的

- (1) 日本の教育制度、学校教育の現状や特色ある取り組みを韓国教職員に紹介するとともに、持続可能な開発のための教育(ESD)について地域の好事例を紹介する。
- (2) 学校等での意見交換を通じて、日韓の教育の質を高める。
- (3) 日本の文化および社会全般に対する理解を深める。
- (4) 訪問する学校や施設などでの交流を通じて、日韓教職員の持続的なネットワークの構築、強化に寄与する。
- (5) 日韓の学校間での交流授業および交流プロジェクトのきっかけをつくる。
- (6) 日韓両国の相互理解と友好を促進する。

## 3. 日程

本プログラムは、東京、日本各地の受入れ県・市において、下記の日程で実施される予定です。

日付	日程	訪問先	活動
2 月 16 日(火)	第 1 日	東京	日本到着 オリエンテーション、開会式、文部科学省講義
2 月 17 日(水)	第 2 日	東京	学校訪問(授業見学、教員、児童生徒との交流)
2 月 18 日(木)～ 20 日(土)	第 3～5 日	受入れ自治体へ移動。3 グループ にわかれ、各グループが指定の 自治体を訪問	教育長表敬・訪問地教育事情概要説明、 学校訪問(授業見学、教員、児童生徒との交流) 教育文化施設視察 日韓教育交流会 ホームビジット グループ別情報共有会
2 月 21 日(日)	第 6 日	受入れ自治体から成田へ移動	報告会・閉会式、歓送レセプション
2 月 22 日(月)	第 7 日		日本出発

\* 第 3-5 日目の間、参加者は 3 グループに分かれ、指定された自治体を訪問する。

\* A グループは 39 名、B・C グループは各 38 名とし、以下の自治体を訪問する。

A グループ(おもに小中学校教職員): 狛江市教育委員会(東京都)

B グループ(おもに小中学校教職員): さいたま市教育委員会(埼玉県)

C グループ(おもに高等学校教職員): 長野県教育委員会

\* 各グループの代表者は、各自自治体での活動について、第 6 日に成田での報告会で報告する。

4. 参加者数  
約 115 名

5. 参加資格

- (1) 大韓民国の国民であること
- (2) 所属する学校等からの推薦を受けた、韓国初等中等教育の教職員であること(教育行政官及び教育専門家を含む)
- (3) 日本の教職員との、主に教育分野における交流に高い関心を持つもの
- (4) プログラムの全日程に参加が可能であること

なお、参加者は、①45歳以下で教員経験3年以上のもの、②日本の教員、児童生徒、学校との交流を希望しているもの、③持続可能な開発のための教育(ESD)の分野において積極的な活動を行っているもの、④英語または日本語の会話能力のあるものが望ましい。

6. 評価と報告

日本出発前(第6日)

- (a) 各参加者は ACCU の用意する評価票に記入する。
- (b) 各グループの代表は、報告会において発表を行う。

帰国後

各個人およびグループで、報告書を作成し、韓国ユネスコ国内委員会に提出する。

7. 渡航費等

ACCU は下記の経費を負担する。

- (1) 往復航空運賃  
韓国国内の指定された国際空港と、日本国内の指定された国際空港との間のエコノミークラス航空券。
- (2) 宿泊と食事  
プログラム期間中の宿泊(朝食含)、およびプログラム期間中の食事。  
食事が提供されない場合については食費を支給する。
- (3) 日本国内の移動旅費  
プログラム期間中の、自由行動日以外の国内移動旅費。

※上記以外の経費については参加者が負担することとする。

8. 海外旅行傷害保険

各参加者は、プログラム期間中に起こりうる傷害、疾病等の緊急時に備えて、各自の責任において、必ず海外旅行傷害保険に加入すること。

9. 通訳

ACCU はプログラム期間中、通訳者(日-韓)を必要に応じて手配する。なお、各県・市への訪問時には、専門の通訳が随行する。

10. 申請・推薦手続

韓国ユネスコ国内委員会は、参加者を選定し、プログラム開始約2ヶ月前(12月16日)までに参加者リストおよび参加者のデータシート、パスポート控えを揃えて、ACCU へ推薦することとする。

11. このプログラムに関する照会先

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター 人物交流部 担当: 齋藤  
〒162-8484 東京都新宿区袋町6番地 日本出版会館  
TEL: 03-3269-4498  
FAX: 03-3269-4510  
E-MAIL: accu-exchange\_ml@accu.or.jp



## ◆付録 2. プログラム日程

### (1) 全体プログラム (東京都・千葉県)

제1일(第1日)	2월16일(화)	2月16日(火)
09:05	서울(인천공항) 출발(KR701)	ソウル(仁川空港)発(KR701)
11:35	도쿄(나리타공항) 도착	東京(成田空港)着
13:15-14:00	점심식사(나리타시내)	昼食(成田市内)
15:30	호텔 체크인	ホテルチェックイン
16:00-16:45	오리엔테이션(선샤인 시티 5층 회의실 "Room 15")	オリエンテーション(サンシャインシティ5階コンファレンスルーム「Room 15」)
17:00-17:45	개회식(선샤인 시티 5층 회의실 "Room 15")	開会式(サンシャインシティ5階コンファレンスルーム「Room 15」)
18:00-19:00	강의 "일본의 초등 중등 교육의 개요"	講義「日本の初等中等教育の概要」
	저녁식사(각자)	夕食(各自)
	복장: 세미정장	※日の服装: ビジネスカジュアル
	숙박: 선샤인 시티 프린스 호텔	※日の宿泊: サンシャインシティプリンスホテル
제2일(第2日)	2월17일(수)	2月17日(水)
	<Group A>	<Group A>
09:30	호텔 출발	ホテル発
10:30-15:00	지바현립 나가레야마 오타카노모리고등학교 방문(도시락)	千葉県立流山おおたかの森高等学校訪問(弁当)
16:00	호텔 도착, 저녁식사(각자)	ホテル着, 夕食(各自)
	<Group B>	<Group B>
07:45	호텔 출발	ホテル発
8:30-15:30	도키와마쓰하원 중학교·고등학교 방문(도시락)	トキワ松学園中学校高等学校訪問(弁当)
16:15	호텔 도착, 저녁식사(각자)	ホテル着, 夕食(各自)
	<Group C>	<Group C>
08:45	호텔 출발	ホテル発
09:40-15:30	쇼와여자대학교부속 쇼와중학교·고등학교(도시락)	昭和女子大学附属昭和中学校・高等学校訪問(弁当)
16:30	호텔 도착, 저녁식사(각자)	ホテル着, 夕食(各自)
	<사전 신청자>	<事前申請者のみ>
18:30-20:30	한일저녁교류회(호텔로비 집합)	日韓夕食交流会(ホテルロビー集合)
	복장: 세미정장	※日の服装: ビジネスカジュアル
	숙박: 선샤인 시티 프린스 호텔	※日の宿泊: サンシャインシティプリンスホテル

### (2-1) 그룹 프로그램

#### [A 그룹: 東京都狛江市]

제3일(第3日)	2월18일(목)	2月18日(木)
8:30	호텔 출발(체크아웃), 버스로 이동	ホテル発(チェックアウト)、バスにて移動
10:00-12:00	고마에시 교육장 예방	教育長表敬訪問
12:10-13:00	점심식사(잭팟 고마에)	昼食(ジャックポット狛江)
13:15-16:15	고마에시립 고마에제6초등학교 방문	狛江市立狛江第六小学校訪問
16:40-17:15	중앙도서관 견학	中央図書館見学
18:00-20:00	환영만찬회	歓迎レセプション(エコルマ6階展示・多目的室)
20:45	호텔 도착	ホテル到着
	복장: 정장	※日の服装: ビジネス
	숙박: 호텔 가지가야 플라자	※日の宿泊: ホテル梶ヶ谷プラザ
제4일(第4日)	2월19일(금)	2月19日(金)
08:30	호텔 출발	ホテル発
9:15-10:15	고마에시 병, 켄 재활용 센터	狛江市ビン・缶リサイクルセンター見学
10:30-11:15	고마에시립 고민가원 견학	狛江市立古民家園見学
11:30-13:15	고마에시립 이즈미초등학교 방문(급식교류)	狛江市立和泉小学校訪問(給食)
13:30-16:50	고마에시립 고마에제1중학교 방문	狛江市立狛江第一中学校訪問
17:30	호텔 도착, 저녁식사(각자)	ホテル着, 夕食(各自)
	복장: 세미정장	※日の服装: ビジネスカジュアル
	숙박: 호텔 가지가야 플라자	※日の宿泊: 호텔梶ヶ谷プラザ
제5일(第5日)	2월20일(토)	2月20日(土)
08:15	호텔 출발	ホテル発
9:00-9:50	고마에시립 미도리노 초등학교 방문	狛江市立緑野小学校訪問
10:00-12:00	한일교육교류회(고마에시립 미도리노초등학교)	日韓教育交流会(狛江市立緑野小学校)
12:00-13:00	점심식사(고마에시립 미도리노초등학교)	昼食(狛江市立緑野小学校)
13:30-14:30	센류지 견학	泉龍寺見学
14:45-15:00	오하야시(전통음악) 감상(중앙공민관)	お雛子鑑賞(中央公民館)
15:00-16:00	평가회(발표준비)	情報共有会(中央公民館)
16:00	가정방문 대면식(중앙공민관)	ホームビジット対面式(中央公民館)
20:00	가정방문 종료(시민광장 집합)	ホームビジット終了(市民広場集合)
20:45	호텔 도착	ホテル着
	복장: 세미정장	※日の服装: ビジネスカジュアル
	숙박: 호텔 가지가야 플라자	※日の宿泊: 호텔梶ヶ谷プラザ

(2-2) グループプログラム  
【B グループ：埼玉県さいたま市】

제3일(第3日)	2월18일(목)	2月18日(木)
08:30	호텔 출발(체크아웃)	ホテル発
09:15	사이타마시립 교육연구소 도착	さいたま市立教育研究所到着
9:30-10:00	사이타마시 교육위원회 예방 (사이타마시립 교육연구소 제5연수실)	さいたま市教育委員会表敬訪問 (さいたま市立教育研究所第5研修室)
10:10-11:40	사이타마시 교육개요설명	さいたま市教育概要オリエンテーション
12:00	출발	出発
12:15-13:00	점심식사(이치겐 무사시우라와점)	昼食(いちげん武蔵浦和店)
13:30-16:30	사이타마시립 시비라키초등학교 방문	さいたま市立新開小学校
17:00	호텔 도착, 체크인	ホテル着, チェックイン
18:00-20:00	환영교류회(라프레 사이타마 2층 레스토랑 "SALUTE") 복장: 정장 숙박: 라프레 사이타마	歓迎交流会(ラフレさいたま 2階 レストラン「サルウテ」) 当日の服装: ビジネス 当日の宿泊: ラフレさいたま
제4일(第4日)	2월19일(금)	2月19日(金)
09:15	호텔 출발	ホテル発
9:45-12:15	사이타마시립 사쿠라소특수학교 방문	さいたま市立さくら草特別支援学校訪問
12:45-16:30	사이타마시립 기차기중학교 방문(급식체험)	さいたま市立木崎中学校(給食体験)
17:00	호텔 도착, 저녁식사(각자)	ホテル着, 夕食(各自)
	복장: 세미정장 숙박: 라프레 사이타마	当日の服装: ビジネスカジュアル 当日の宿泊: ラフレさいたま
제5일(第5日)	2월20일(토)	2月20日(土)
09:00	호텔 출발	ホテル発
09:30-11:00	분개 미술관 방문	盆裁美術館訪問・見学
11:30-12:30	평가회(발표준비)	情報共有会(見沼グリーンセンター 会議室)
12:30-13:30	점심식사(도시락)	昼食(弁当)
13:30-14:00	가정방문 대면식	ホームビジット対面式
14:00-20:00	가정방문(저녁식사)	ホームビジット(夕食含む)
20:00	호텔 도착 복장: 캐주얼 숙박: 라프레 사이타마	ホテル着 当日の服装: カジュアル 当日の宿泊: ラフレさいたま

(2-3) 그룹프로그램  
【C 그룹：長野県】

제3일(第3日)	2월18일(목)	2月18日(木)
08:00	호텔 출발	ホテル発
12:30-13:15	점심 식사(신슈 프루랜드 신슈 나카노 인터점)	昼食(信州フルーツランド信州中野インター店)
13:30-17:00	나가노현 나가노니시고등학교 방문	長野県中野西高等学校訪問
18:30-20:30	한일교직원 만남회(나가노시내 연회장 "야마자야")	日韓教職員交流夕食会(長野市内宴会場 やま茶屋)
20:45	호텔 도착 복장: 정장 숙박: 치산그랜드 나가노	ホテル着 当日の服装: ビジネス 当日の宿泊: チサングランド長野
제4일(第4日)	2월19일(금)	2月19日(金)
08:30	호텔 출발	ホテル発
09:30-12:40	나가노현 나가노양호학교 방문(급식체험)	長野県長野養護学校訪問(給食)
14:00-15:40	나가노현 나가노니시고등학교 방문(켄코지 학생가이드 포함)	長野県長野西高等学校訪問(生徒による善光寺ガイド含む)
16:00-17:30	나가노현 교육위원회 예방	長野県教育委員会表敬訪問
19:00	온천 호텔 도착 복장: 정장 숙박: 요로즈야 어벡스유라쿠안	温泉旅館着 当日の服装: ビジネス 当日の宿泊: よろづやアベックス湯楽庵
제5일(第5日)	2월20일(토)	2月20日(土)
08:00	호텔 출발	ホテル発
08:30-10:30	지코쿠다니 야생 원숭이 공원 견학 ※날씨가 안 좋을 때: 세계의 민속 인형박물관 견학	地獄谷野猿公園見学 ※天候不良の場合: 世界の民俗 人形博物館見学(雛人形)
11:30-13:00	오부세동립 도서관 "마치도시 테라스" 방문	小布施町立図書館「小布施まちとよテラス」訪問
13:15-14:00	점심 식사(미치노에키 오아시스 오부세)	昼食(道の駅オアシスおぶせ)
15:00-16:00	평가회(발표준비)	情報共有会(TOIGO 学習室)
16:00-20:30	가정방문 대면식, 가정방문 호텔 도착 복장: 캐주얼 숙박: 치산그랜드 나가노	対面式, ホームビジット ホテル着 当日の服装: カジュアル 当日の宿泊: チサングランド長野

(3) 全体プログラム (千葉県成田市)

제6일 (第6日)	2월21일 (월)	2月21日 (日)
	<Group A>	<Group A>
10:30	호텔 출발(체크아웃)	호텔출발(체크아웃)
10:30-12:30	고마에 시에서 나리타시로 이동	狹江市から成田市へ移動
	<Group B>	<Group B>
10:30	호텔 출발(체크아웃)	호텔출발(체크아웃)
10:30-12:30	사이타마시에서 나리타시로 이동	さいたま市から成田市へ移動
	<Group C>	<Group C>
8:00	호텔 출발(체크아웃)	호텔출발(체크아웃)
8:00-12:30	나가노현에서 나리타시로 이동	長野から成田市へ移動
	<전체>	<全体>
12:30-13:30	점심 식사 (스타미나 타로 나리타점)	昼食(すたみな太郎成田店)
14:00	호텔 체크인	호텔체크인
14:30-17:00	보고회 (나리타 엑셀 호텔 도큐 지하1층 "엑셀")	報告会(成田エクセルホテル東急 地下1階「エクセル」)
18:00-20:00	폐회식, 환송 리셉션 (나리타 엑셀 호텔 도큐 지하1층 "엑셀")	閉会式・歓送レセプション(同会場)
	복장 : 정장	当日の服装: ビジネス
	숙박 : 나리타 엑셀호텔 도큐	当日の宿泊: 成田エクセルホテル東急
제7일 (第7日)	2월22일 (월)	2月22日 (月)
	<전체>	<全体>
10:00	호텔 출발 (체크아웃)	호텔출발(체크아웃)
10:15	나리타 공항 도착, 체크인	成田空港着, 체크인
	<부산>	<Busan>
12:45	나리타 공항 출발 (KE716)	成田発(KI716)
15:10	김해공항 도착	釜山(金海空港)着
	<서울>	<Seoul>
12:50	나리타 공항 출발 (KE702)	成田発(KI702)
15:30	인천공항 도착	ソウル(仁川空港)着
	복장 : 캐주얼	当日の服装: カジュアル

◆付録 3. 参加者リスト  
 【Aグループ：東京都狛江市】 39名  
 Group Leader: A-11 Mr. KIM DONG SIK

No	Name(Kor)	Name(JP)	Name(Last)	Name(First)	Sex (M/F)	School/Org name(Kor)	Title	Subjects	City / Province
A-1	안승열	アン・スンヨル	AN	SEUNG YEOUL	M	동산초등학교 Dongsak Elementary School	Principal		Gyeonggi Province
A-2	차재원	チャ・ジェウ원	CHA	JA E WON	M	석봉초등학교 Sukbong Elementary School	Principal		Gyeongsangnam Province
A-3	최승애	츠크・スン애	CHOI	SEUNG AI	F	목일중학교 Mokil Middle school	Principal	Home Economics	Seoul City
A-4	최승욱	츠크・スン욱	CHOI	SEUNG UK	M	서울대학교사범대학부설중학교 Seoul National University Middle School	Vice Principal	Earth Science	Seoul City
A-5	장인구	カン・인구	GANG	IN GU	M	순천왕지초등학교 Suncheon Wangji Elementary School	Teacher		Jeollanam Province
A-6	함재우	함・재우	HAM	JA E WOO	M	경기자동차과학고등학교 Gyeonggi High School of Automotive Science	Teacher	Korean	Gyeonggi Province
A-7	한봉희	한・봉희	HAN	BONG HEE	M	용강중학교 Yonggang Middle School	Principal		Seoul City
A-8	허승형	허・승형	HUH	SOON HAENG	M	순천팔마고등학교 Sunchoen Palma High School	Principal	English	Jeollanam Province
A-9	임흥빈	임・흥빈	IM	HEUNG BIN	M	상당고등학교 Sangdang High School	Vice Principal		Chungcheongbuk Province
A-10	김봉수	김・봉수	KIM	BONG SU	M	귀둔초등학교 Gudun Elementary School	Teacher		Gangwon Province
A-11	김동식	김・동식	KIM	DONG SIK	M	반포고등학교 Banpo High School	Principal		Seoul City
A-12	김덕보	김・덕보	KIM	DUK BO	M	조천중학교 Jochon Middle School	Principal		Jeju Special Self-Governing Province
A-13	김재환	김・재환	KIM	JA E HWAN	M	서울특별시교육청 Seoul Metropolitan Office of Education	Director		Seoul City
A-14	김명동	김・명동	KIM	MYOUNG DONG	M	봉일천고등학교 Bongilcheon High School	Principal	Physics	Gyeonggi Province
A-15	김성민	김・성민	KIM	SUNG MIN	M	어방초등학교 O-bang Elementary School	Teacher		Gyeongsangnam Province
A-16	김용철	김・용철	KIM	YONG CHEOL	M	월촌중학교 Wolchon Middle School	Principal		Seoul City
A-17	고득환	고・득환	KO	DUK HWAN	M	영선중학교 Yeong-Seon Middle School	Teacher	Mathematics	Jeollabuk Province
A-18	고은주	고・은주	KO	EUNJU	F	진건중학교 Jingeon middle school	Teacher	Social Studies	Gyeonggi Province
A-19	고경희	고・경희	KO	KYUNGHEE	F	송화초등학교 Songhwa Elementary School	Teacher/Head Teacher		Gangwon Province
A-20	구선영	구・선영	KOO	SUN YOUNG	F	보성여자중학교 Bosung Girls' Middle School	Vice Principal		Seoul City
A-21	권오우	권・오우	KWON	OH WOO	M	강원도교육청 Gangwon Provincial Office of Education	Supervisor		Gangwon Province
A-22	이병희	이・병희	LEE	BYONG HEE	M	경기도교육청 Gyeonggi Provincial Office of Education	Supervisor		Gyeonggi Province
A-23	이동재	이・동재	LEE	DONGJAE	M	신용산초등학교 Seoul Shin-yongsan Elementary school	Principal		Seoul City
A-24	이혜경	이・혜경	LEE	HYE KYOUNG	F	신일여자중학교 Sunil Girls' Middle School	Teacher	Music	Seoul City
A-25	이중복	이・중복	LEE	JONG BOK	M	문성중학교 Mun Seong Middle School	Principal		Gyeongsangbuk Province
A-26	이중미	이・중미	LEE	JONG MI	F	별말초등학교 Beomal Elementary School	Principal		Gyeonggi Province
A-27	이수정	이・수정	LEE	SU JEONG	F	서울대학교사범대학부설여자중학교 Seoul National University Girls' Middle School	Teacher	Science	Seoul City
A-28	이미화	이・미화	LEE	MI HWA	F	부산국제중학교 Busan International Middle School	Teacher	Moral	Busan City
A-29	오동식	오・동식	OH	DONG SUCK	M	충청남도교육청 Chuncheongnam-do Provincial Office of Education	Supervisor		Chuncheongnam Province
A-30	박향준	박・향준	PARK	HYANG CHON	F	서귀중앙여자중학교 Seogwi Jung-ang Girls Middle school	Teacher	Social Studies	Jeju Special Self-Governing Province
A-31	박석현	박・석현	PARK	SEOK HYUN	M	안현초등학교 Anhyeon Elementary School	Teacher		Gyeonggi Province
A-32	박승호	박・승호	PARK	SEUNG HO	M	명도초등학교 Myungdo Elementary School	Teacher	Science	Gyeongsangnam Province
A-33	박소연	박・소연	PARK	SOYEON	F	박달초등학교 Bakdal Elementary School	Teacher	All	Gyeonggi Province
A-34	류동윤	류・동윤	RYU	DONGYUN	M	충남고등학교 Chungnam High School	Teacher	English	Daejeon City
A-35	송건숙	송・건숙	SONG	JIN SOOK	F	부산광역시서부교육지원청 Busan Seobu Office of Education	Supervisor		Busan City
A-36	송편영	송・편영	SONG	KWAN YEOUNG	M	양산초등학교 Yangsan Elementary School	Principal		Chuncheongbuk Province
A-37	윤원정	윤・원정	YOON	HYUN JUNG	F	웅천초등학교 Ungcheon Elementary school	Teacher		Jeollanam Province
A-38	박은숙	박・은숙	PARK	EUNSOOK	F	교육부 Ministry of Education	Officer		Sejong Special Self-Governing City
A-39	홍보강	홍・보강	HONG	BOGANG	F	유네스코한국위원회 Korean National Commission for UNESCO	Senior Programme Officer		Seoul City

通訳：徐 清香、曹 常美  
 ACCU 随員：齋藤 盛午

A グループ参加者（狛江市教育委員会表敬訪問）



日韓教育交流会（狛江市立緑野小学校）



日本児童と紙ずもう（狛江市立古民家園）

◆付録 3. 参加者リスト

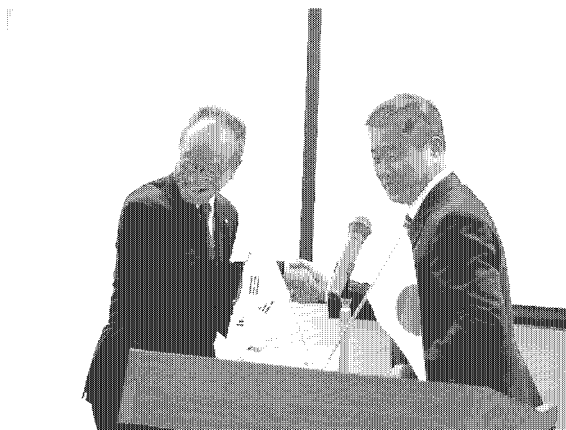
【Bグループ：埼玉県さいたま市】35名

Group Leader: B-21 Mr. KIM SUNG YOUEL

No	Name(Kor)	Name(JP)	Name(Last)	Name(First)	Sex (M/F)	School/Org name(Kor)	Title	Subjects	City / Province
B-1	배호영	ベ・ホヨン	BAE	HO YOUNG	M	전라남도교육청 Jellanam-do Office of Education	Administration officer		Jeollanam Province
B-2	최재은	チョ・ジェウン	CHOE	JEA EUN	F	광주교육대학교광주부설초등학교 The Attached Elementary School of Gwangju National University of Education	Teacher	Music, English	Gwangju City
B-3	최세라	チョ・セラ	CHOI	SERA	F	봉인천중학교 Bongincheon Middle School	Head Teacher	English	Gyeonggi Province
B-4	정재기	チョン・재기	CHUNG	CHAI KI	M	분산수영중학교 Munsan Sueok Middle School	Principal	Math	Gyeonggi Province
B-5	한기환	ハン・ギファン	HAN	GIHWAN	M	한국교원대부설원곡초등학교 The Wallgok Elementary School Affiliated with Korea National University of Education	Principal		Chungcheongbuk Province
B-6	한상영	ハン・ハンヨン	HAN	SANG YOUNG	M	해미중학교 Haemi Middle School	Vice Principal		Chungcheongnam Province
B-7	장수미	チャン・スミ	JANG	SUMI	F	울산광역시교육청 Ulsan Metropolitan Office of Education	Manager		Ulsan City
B-8	정용주	チョン・ヨン주	JEONG	YONG JU	M	염정초등학교 Yeomkyoung Elementary School	Teacher	Home room teacher	Seoul City
B-9	전유신	ジン・ユジン	JIN	YOO SURN	F	안원초등학교 Anhyeon Elementary School	Teacher		Gyeonggi Province
B-10	조성남	チョ・ソングナム	JO	SUNG NAM	M	단양중학교 Danyang Middle School	Principal		Chungcheongbuk Province
B-11	박영문	パク・ヨン문	KACK	YOUNG MUN	M	청주신항고등학교 Cheongju Shinhaeng High School	Principal		Chungcheongbuk Province
B-12	강문석	カン・ムンソク	KANG	MOON SEOK	M	신송중학교 Shinsong Middle School	Teacher	Ethics	Incheon City
B-13	강영미	カン・ヨン미	KANG	YOUNG MI	F	서울대학교사범대학부설여자중학교 Seoul National University Girls' Middle School	Teacher	Korean	Seoul City
B-14	김보현	キム・ボヒョン	KIM	BO HYUN	M	양강초등학교 Yangkang Elementary School	Vice Principal		Chungcheongbuk Province
B-15	김익준	キム・イク준	KIM	IK JUN	M	서귀포중학교 Seogyupo Middle School	Teacher	Science	Jeju Special Self-Governing Province
B-16	김일환	キム・イルファン	KIM	IL WHOAN	M	대덕고등학교 Daedeok High School	Vice Principal	History	Daejeon City
B-17	김정운	キム・ジンウン	KIM	JUNG EUN	F	인천국제고등학교 Incheon International High School	Teacher	Chinese language&culture	Incheon City
B-18	김경순	キム・ギョンスン	KIM	KYUNG SUN	F	탄현중학교 Tanhyun Middle School	Teacher	Korean	Gyeonggi Province
B-19	김미선	キム・ミソン	KIM	MI SEON	F	수촌초등학교 Suchon Elementary School	Teacher		Chungcheongnam Province
B-20	김순례	キム・スン례	KIM	SUN LYE	F	교문중학교 Gyomun Middle School	Principal	Art	Gyeonggi Province
☆B-21	김성렬	キム・ソンヨル	KIM	SUNG YOUEL	M	순천왕지초등학교 Suncheon Wangji Elementary School	Principal		Jeollanam Province
B-22									
B-23	곽태현	クワク・テヒョン	KWAK	TAE HYEON	M	충청북도교육청 Chungcheongbuk-do Office of Education	Administrator		Chungcheongbuk Province
B-24	권화자	クワン・ファジャ	KWON	HWA CHA	F	마송중앙초등학교 Masong Joongang Elementary School	Principal		Gyeonggi Province
B-25	이은혜	イ・ウンヘ	LEE	BUN HYE	F	양성초등학교 Yangseong Elementary School	Teacher		Gyeonggi Province
B-26	이정희	イ・ジンヒ	LEE	JEONG HEE	F	숙명여자고등학교 Sookmyung Girl's High School	Teacher	Home Economy	Seoul City
B-27	이진숙	イ・ジン숙	LEE	JINSOOK	F	백사초등학교 Baeksa Elementary School	Vice Principal		Gyeonggi Province
B-28	이명신	イ・ミンシン	LEE	MYUNG SIN	F	한솔중학교 Hansol Middle School	Principal		Sejong Special Self-Governing City
B-29	민용기	ミン・ウン기	MIN	WOONG KI	M	아산성심학교 Asan Sungsim school (Special Education School)	Teacher	Special Education	Chungcheongnam Province
B-30	문우철	ムン・ウチョル	MOON	WOO CHUL	M	함덕중학교 Hamdeok Middle School	Principal		Jeju Special Self-Governing Province
B-31	나미경	ナ・ミギョン	NA	MIGYEONG	F	도원초등학교 Do-won Elementary School	Vice Principal		Jeollanam Province
B-32	오장환	オ・ジャンファン	OH	JANG HAWN	M	시흥은행중학교 Siheung Eunhaeng Middle School	Vice Principal	Chemistry	Gyeonggi Province
B-33	박경재	パク・ギョング재	PARK	KYOUNG JAE	M	고삼초등학교 Cosam Elementary School	Teacher		Gyeonggi Province
B-34									
B-35	송경미	ソン・ギョಂಗ미	SONG	GYEONGMI	F	공주교육대학교부설초등학교 Gongju National University of Education Affiliated School	Teacher		Daejeon City
B-36	육상숙	ユック・サン숙	YOOK	SANG SOOK	F	대전광역시교육청 Daejeon Metropolitan Office of Education	Officer		Daejeon City
B-37									
B-38	이지은	イ・ジウン	LEE	JI EUN	F	유네스코한국위원회 Korean National Commission for UNESCO	Programme Officer		Seoul City

通訳：全 今姫、裴 秀正  
ACCU 随員：有 蘭 佳子

B グループ参加者（閉会式・歓送レセプション）



教育長の稲葉康久（左）氏と握手を交わす  
グループ長の金聖烈氏（右）



学校訪問を終え、別れを惜しむ様子（さいたま市立木崎中学校）

◆付録 3. 参加者リスト

【Cグループ：長野県】37名

★Head of Delegation : C-1 Mr. PARK HEUNG-SOON

Group Leader: C-19 Mr. KIM KYUNG BAE

No	Name(Kor)	Name(JP)	Name(Last)	Name(First)	Sex (M/F)	School/Org name(Kor)	Title	Subjects	City / Province
★C-1	박흥순	パク・フンスン	PARK	HEUNG-SOON	M	선문대학교 Sunmoon University, Graduate School	Dean	UN Studies & Int'l Relations	Chungcheongnam Province
C-2	안수영	アン・スヨン	AHN	SOO YOUNG	M	장원과학고등학교 Changwon Science High School	Principal		Gyeongnam Province
C-3	안준표	アン・ジュンピョ	AN	JUNE PYO	M	진경여자고등학교 Jingyeong Girls' High School	Teacher	Chinese	Jeollabuk Province
C-4	조준호	チョ・ジュンホ	CHO	JOON HO	M	수원외국어고등학교 Suwon Academy of Foreign Languages	Teacher	English	Gyeonggi Province
C-5	최경순	チュ・ジョンスン	CHOI	JUNG SOON	F	송현여자고등학교 Songhyun Girls' High School	Teacher	English	Daegu City
C-6	최태중	チュ・テジュン	CHOI	TAEJUNG	M	흥덕고등학교 Heungdeok High School	Teacher	English	Chungcheongbuk Province
C-7	전상기	チョン・サンギ	CHON	SANG KI	M	전북외국어고등학교 Jeonbuk Foreign Language High School	Principal		Jeollabuk Province
C-8	전혜현	チョン・ヘヒョン	CHUN	HYE HYUN	F	경기자동차과학고등학교 Gyeonggi High School of Automotive Science	Teacher	English	Gyeonggi Province
C-9	황지화	フワン・ジフワ	HWANG	JI HWA	F	인천광역시교육청 Incheon Metropolitan City Office of Education	Supervisor		Incheon City
C-10	장옥진	チャン・オクジン	JANG	OKJIN	F	보령고등학교 Boeong High School	Teacher	History	Gyeonggi Province
C-11	정하경	チョン・ハギョン	JEONG	HA GYEONG	M	경상북도교육청 Gyeongsangbuk-do Office of Education	Supervisor		Gyeongsangbuk Province
C-12	정완재	チョン・ワン재	JEONG	WAN CHA	M	대전북수고등학교 Daejeon Boksu High School	Vice Principal	Geography & Social Studies	Daejeon City
C-13	지경림	ジ・ギョン림	JI	KYUNG LIM	M	경일고등학교 Gyeongil High School	Teacher	Mathematics	Gyeongsangbuk Province
C-14	정윤자	ジョン・ユンジャ	JUNG	YOON JA	F	원화여자고등학교 Wonhwa Girls' High School	Teacher	Chinese Letter	Daegu City
C-15	김대환	キム・デフワン	KIM	DAEHWAN	M	부산국제고등학교 Busan International High School	Teacher	History	Busan City
C-16	김은미	キム・ウンミ	KIM	EUN MI	F	독포덕인고등학교 Deogin High School	Principal	History	Jeollanam Province
C-17	김진희	キム・ジン희	KIM	JIN HEE	F	문산수석고등학교 Munsan Sueok High School	Teacher	English	Gyeonggi Province
C-18	김기현	キム・ギヒョン	KIM	KI HYUN	M	안동영명학교 Andong Young Myung School (Special Education School)	Teacher	High School Youth Group	Gyeongsangbuk Province
☆C-19	김경배	キム・ギョン배	KIM	KYUNG BAE	M	청주외국어고등학교 Cheongju Foreign Language High School	Principal	English	Chungcheongbuk Province
C-20	김석순	キム・ソクスン	KIM	SUK SOON	M	제주중앙고등학교 Jeju Jungang High School	Cheif of administration		Jeju Special Self-Governing Province
C-21	김태분	キム・テブン	KIM	TAE BOON	F	미추홀외국어고등학교 Michuhol Foreign Language High School	Vice Principal		Incheon City
C-22	김태석	キム・テソク	KIM	TAE SEOG	M	충남외국어고등학교 Chungnam Foreign Language High School	Vice Principal		Chungcheongnam Province
C-23	김수빈	キム・스빈	KIM	SU BIN	F	해강고등학교 Haegang High School	Teacher	English	Busan City
C-24	고병대	コ・ビョンデ	KO	BYEONG DAE	M	순천팔마고등학교 Sunchoen Palma High School	Teacher	Biology	Jeollanam Province
C-25	고소영	ク・ソヨン	KOO	SO HYUNG	F	대전외국어고등학교 Daejeon Foreign Language High School	Teacher		Daejeon City
C-26	이병만	イ・ビョンマン	LEE	BYUNG MAN	M	상명고등학교 Sangmyung High School	Teacher	Mathematics	Seoul City
C-27	이정일	イ・ジョンイム	LEE	CHONGNIM	F	세종특별자치시교육청 Sejong City Office of Education	Supervisor	English	Sejong Special Self-Governing City
C-28	이지혜	イ・ジヘ	LEE	JI HEA	F	하남고등학교 Hanam High School	Teacher	Social Studies	Seoul City
C-29	이태영	イ・テヨン	LEE	TAE YOUNG	M	광주광역시교육청 Gwangju Metropolitan Office of Education	Supervisor		Gwangju City
C-30	이용우	イ・ヨンウ	LEE	YONG WOO	M	전남외국어고등학교 Jeonnam Foreign Language High School	Principal		Jeollanam Province
C-31	나종욱	ナ・ジョンウク	NA	JONG UK	M	민족사관고등학교 Korean Minjok Leadership Academy	Deputy Headmaster	Biology	Gangwon Province
C-32	오석규	オ・ソクギョ	OH	SEOK KYU	M	서울고등학교 Seoul High School	Principal		Seoul City
C-33									
C-34	신혜경	シン・ヘジョン	SHIN	HYE JUNG	F	동국대학교사범대학부속여자고등학교 Girls' High School Attached to College of Education, Dongguk University	Teacher	English	Seoul City
C-35	심예원	シム・イェウォン	SIM	YAEWON	F	성포고등학교 Seongpo High School	Teacher	English	Gyeonggi Province
C-36	배선연	ベ・ソンヨン	BAE	SUN YOUN	F	교육부 Ministry of Education	Secretary		Sejong Special Self-Governing City
C-37	이선경	イ・ソンギョン	LEE	SUNK YUNG	F	유네스코한국위원회 Korean National Commission for UNESCO	Special Assistant to the Secretary-General		Seoul City
C-38	서현숙	ソ・ヒョン숙	SEO	HYUN SOOK	F	유네스코한국위원회 Korean National Commission for UNESCO	Director		Seoul City

通訳：尹 錦実、岩村 紀子  
ACCU 随員：藤本 早恵子



C グループ参加者（長野県中野西高等学校）



温泉旅館の夕食にて乾杯する訪問団



日程を終え、車中で歌を披露するグループ長の金阡培氏

## ◆付録 4. 関係機関リスト

## (1) 全体プログラム

**United Nations University (UNU) / 国際連合大学**

5-53-70 Jingumae Shibuya-ku, Tokyo 150-8925

〒150-8925 東京都渋谷区神宮前 5-53-70

TEL: +81-3-5467-1212 Fax: +81-3-3499-2828 URL: <http://unu.edu/>**Mr. TAKEMOTO Kazuhiko****Director, UNU-Institute for the Advanced Study of Sustainability (UNU-IAS)**

竹本 和彦

国際連合大学 サステナビリティ高等研究所 所長

**Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT) / 文部科学省**

3-2-2 Kasumigaseki, Chiyoda-ku, Tokyo 100-8959

〒100-8959 東京都千代田区霞が関 3 丁目 2 番 2 号

TEL: +81-3-5253-4111 URL: <http://www.mext.go.jp>**Mr. YAMAWAKI Yoshio****Director-General for International Affairs**

山脇 良雄

国際統括官

Lecture / 講義 :

**Mr. TOKIEDA Masakazu****Unit Chief, Elementary and Secondary Education Planning Division,****Elementary and Secondary Education Bureau**

時枝 正和

初等中等教育局 初等中等教育企画課 企画係長

**Embassy of the Republic of Korea / 駐日本国大韓民国大使館**

1-2-5 Minami-Azabu, Minato-ku, Tokyo 106-8577

〒106-8577 東京都港区南麻布 1 丁目 2 番 5 号

TEL: +81-3-3452-7611/9 Fax: +81-3-5476-3299 URL: <http://www.japanem.or.kr>**Mr. CHOI Seongyu****Counsellor, Embassy of the Republic of Korea to Japan**

崔 成有

駐日本国大韓民国大使館 参事官

(2) グループプログラム

**Board of Education (Group Programme)**

受入れ教育委員会でご協力いただいた方々

**Group A. Komae City Board of Education** / 狛江市教育委員会

Superintendent: Mr. ARIMA Moriichi

Programme Coordinator: Mr. SAKAMOTO Naoki

教育長：有馬 守一

担当者：坂本 尚毅

1-1-5 Honcho Izumi Komae-City, Tokyo 201-8585

〒201-8585 東京都狛江市和泉本町1丁目1番5号

TEL: +81-3-3430-1111 URL: <https://www.city.komae.tokyo.jp/index.cfm/48.html>

**Group B. Saitama City Board of Education** / さいたま市教育委員会

Superintendent: Mr. INABA Yasuhisa

Programme Coordinator: Mr. NAKATA Kiyohito, ETO Shinsuke

教育長：稲葉 康久

担当者：中田 清人、衛藤 伸介

6-4-4 Tokiwa Urawa-ku Saitama-City, Saitama 330-9588

〒330-9588 さいたま市浦和区常盤6丁目4番4号

TEL: +81-48-829-1662 URL: <http://www.city.saitama.jp/003/002/008/index.html>

**Group C. Nagano Prefecture Board of Education** / 長野県教育委員会

Superintendent: Mr. ITO Gakuji

Programme Coordinator: Ms. YOKOUCHI Kayo

教育長：伊藤 学司

担当者：横内 佳代

692-2 Minaminagano Habashita Nagano-City, Nagano 380-8570

〒380-8570 長野県長野市南長野幅下 692-2

TEL: +81-26-235-7435 URL: <http://www.pref.nagano.lg.jp/kyoiku/kyoiku/>

## **Alumini of Invitation Programme for Japanese Teachers to Korea**

ご協力いただいた過去の派遣プログラム参加者

### **School Visit Hosts**

学校訪問でご協力いただいた方々

**Group A. Mr. HIGUCHI Toyotaka, Komae 1st Junior High School (2015 B Group)**

樋口 豊隆 狛江市立狛江第一中学校

**Mr. KAWASAKI Takashi, Komae Dairoku Elementary School (2015 B Group)**

川崎 貴志 狛江市立狛江第六小学校

**Mr. HOSOYA Shuntaro, Komae-city Broad of Education (2015 A Group)**

細谷 俊太郎 狛江市教育委員会

**Mr. SOSOGI Shinichiro, Izumi Elementary School(2015 A Group)**

淋 慎一郎 狛江市立和泉小学校

**Group C. Mr. SUNOHARA Akio, Nagano Prefecture Broad of Education (2015 A Group)**

春原 秋夫 長野県教育委員会

**Mr. MIZUNO Tetsuya, Nakano Nishi High School (2015 A Group)**

水野 徹也 長野県中野西高等学校

**Mr. MUROI Akira, Nakano Nishi High School (2015 B Group)**

室井 明 長野県中野西高等学校

### **Debriefing Session, Closing Ceremony, Farewell Reception**

報告会、閉会式、歓送レセプションにご出席いただいた方々

**Ms. OHIRA Yoshie, Nakayama Elementary School (2015 B Group)**

大平 淑恵 市川市立中山小学校

**Ms. MAKITA Masae, Aiwa Elementary School (2015 B Group)**

槇田 雅江 多摩市立愛和小学校

**Ms. MACHIDA Naomi, Takinogawa Elementary School (2015 B Group)**

町田 直美 北区立滝野川小学校

**Asia-Pacific Cultural Centre for UNESCO (ACCU) / 公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター**  
Japan Publishers Building, 6 Fukuromachi, Shinjuku-ku, Tokyo 162-8484  
〒162-8484 東京都新宿区袋町6 日本出版会館  
TEL: +81-3-3269-4498 FAX: +81-3-3269-4510  
Email: [accu-exchange\\_ml@accu.or.jp](mailto:accu-exchange_ml@accu.or.jp) URL: <http://www.accu.or.jp>

**Mr. TAMURA Tetsuo**  
Director-General  
田村 哲夫  
理事長

**Mr. KISO Isao**  
Executive Director  
木曾 功  
業務執行理事

**Mr. NINOMIYA Masakazu**  
Deputy Director-General  
Director, General Affairs Department  
二ノ宮 正和  
事務局長代理 総務部長

**Ms. SHINDO Yumi**  
Director, International Exchange Department  
進藤 由美  
人物交流部 部長

**Ms. ARIZONO Yoshiko (Group B)**  
Programme Specialist, International Exchange Department  
有菌 佳子  
人物交流部 事務専門員


**Mr. SAITO Seigo (Group A)**  
Programme Specialist, International Exchange Department  
齋藤 盛午  
人物交流部 事務専門員

**Ms. FUJIMOTO Saeko (Group C)**  
Programme Specialist, International Exchange Department  
藤本 早恵子  
人物交流部 事務専門員

◆付録 5. 文部科学省講義資料

## 日本の初等中等教育の概要

文部科学省 初等中等教育局  
時枝 正和  
平成28年2月16日

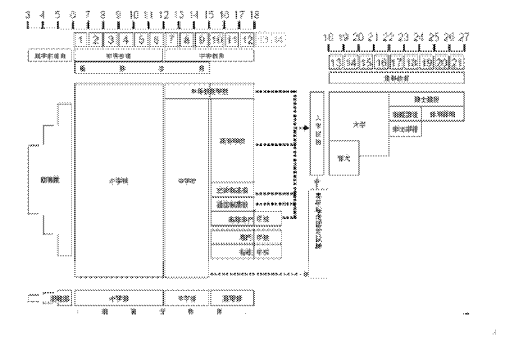


## 講演の構成

I. 日本の初等中等教育制度……………3  
II. 日本の教育政策の一部の紹介……………14

## I. 日本の基本的な初等中等教育制度

### 学校体系



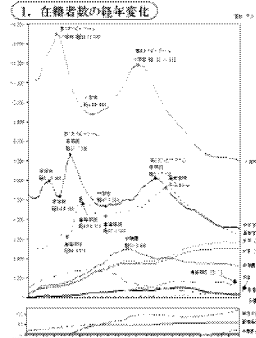
### 学校数、生徒、教員数

	学校数	生徒数	教員数	
幼稚園	13,000	160万人	11万人	
小学校	6年	21,000	660万人	42万人
中学校	3年	11,000	350万人	25万人
高等学校	3年	5,000	330万人	24万人
中等教育学校	6年	50	3万人	2,400
特別支援学校	1,100	14万人	8万人	

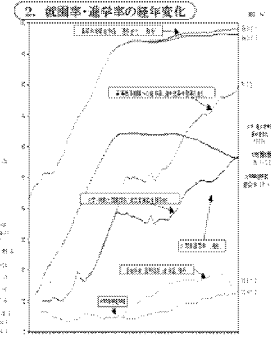
出典 平成26年度 学校基本調査

### 在籍者数、就園率・就学率の経年変化

#### 1. 在籍者数の経年変化



#### 2. 就園率・就学率の経年変化



### 義務教育制度の概要

**憲法**

**第26条** すべて国民は、法律の定めるところにより、その能力に応じて、ひとしく教育を受ける権利を有する。

すべて国民は、法律の定めるところにより、その保護する子女に普通教育を受けさせる義務を負ふ。義務教育は、これを無償とする。

**教育基本法**

**第5条** 国民は、その保護する子に、別に法律で定めるところにより、普通教育を受けさせる義務を負う。

2 義務教育として行われる普通教育は、各個人の有する能力を伸ばしつつ社会において自立的に生きる基礎を培い、また、国家及び社会の形成者として必要とされる基本的な資質を養うことを目的として行われるものとする。

3 国及び地方公共団体は、義務教育の機会を保障し、その水準を確保するため、適切な役割分担及び相互の協力の下、その実施に責任を負う。

4 国又は地方公共団体の設置する学校における義務教育については、授業料を徴収しない。

### 義務教育費国庫負担制度の概要

- 憲法の要請に基づき、義務教育の根幹(機会均等、水準確保、無償制)を国が責任をもって支える制度。
- 市町村が小中学校を設置・運営。
- 都道府県が教職員を任命し、給与を負担。
- 国は教職員給与費の1/3を負担。

公立義務教育諸学校の教職員の給与等(総額約4.5兆円)  
(国庫負担1兆円、都道府県負担2兆4千億円、市町村負担1兆5千億円)

**【教員の給与】**

●人材確保法は、教員に優れた人材を確保し、もって義務教育水準の維持向上を図ることを目的として、教員の給与を一般の公務員より優遇することを定めている。

### 教科書無償給与制度

国(文部科学省)

↓ (購入契約を締結)

教科書発行者・教科書供給業者

↓

国立学校      公立学校      私立学校

↓ 無償給与      ↓ 無償給与      ↓ 無償給与

義務教育諸学校の全ての児童生徒  
教科書は児童生徒の所有物 書き込みをしたり、自宅に持ち帰って学習

### 教員養成・免許制度の概要

**【免許主義】**

教員は、教育職員免許法により授与される各担当の免許状を有する者でなければなりません。

**【教員養成・採用・研修等の各段階を通じた教員の資質向上】**

**養成**

- 大学における養成が原則
- 教職課程の認定を受けた学科等において、教科に関する科目、教職に関する科目などを修得することにより、採用当初から専任や教員を担任し、教科指導、生徒指導等を実施するために必要な基礎的な資質能力を養成

**採用**

- 都道府県・指定都市教育委員会において採用選考試験を実施
- 多面的な人物評価の一環の導入  
面接試験・実技試験の活用  
・様々な社会体験等の評価

**適切な人事管理**

- 指導が不適切な教員に対する人事管理システムの運用の徹底
- 教員評価システム    ●優秀教員会

**研修**

- 都道府県教育委員会等に採行する研修  
・新任者研修・自治体教員研修等
- 国・都道府県研修センターにおける研修  
・各地域において中心的な役割を担う教職員に対する  
学校運営研修  
・職務の重要課題に関する研修

**免許更新制**

- 教員が定期的に最新の知識技能を身につけることで教員が自信と誇りを持って教壇に立ち、社会の尊敬と信頼を得ることが目的
- 免許更新10年の有効期間を定める

### 教育行政制度の概要(国・都道府県・市町村の役割)

**国**

- ・制度の枠組みの制定
- ・全国的標準の制定
- ・教育条件整備のための財源保障等

**都道府県**

都道府県教育委員会

- ・高等学校、特別支援学校の設置、運営
- ・小・中学校の教職員の任命、給与負担、人事

都道府県立学校

教育の実施

**市町村**

市町村教育委員会

- ・小・中学校の設置、運営
- ・小・中学校の教職員の職務監督

市町村立学校

教育の実施

### 学習指導要領とは

全国どの地域でも教育を受けて、一定の水準の教育を受けられるようにするため、文部科学省では、学校教育法に基づき、各学校で教育課程(カリキュラム)を編成する際の基準を定めています。これを「学習指導要領」といいます。

〔学習指導要領〕では、小学校・中学校・高等学校等ごとに、その科目(教科等)を目標や大まかな教育内容を定めています。また、これと別に、学校教育法施行規則(省令)は、小・中学校の教科等(年間)の標準授業時数等が定められています。各学校では、この〔学習指導要領〕や年間標準授業時数等を踏まえ、地域や学校の実態に応じて、教育課程(カリキュラム)を編成しています。

「生きる力」

徳・知識・技能  
態度・規範

「生きる力」

基礎的学力  
総合的学力  
創造的学力

⇒ **現行学習指導要領においては、これまでの理念を継承し、教育基本法改正等を踏まえ、「生きる力」を育成**

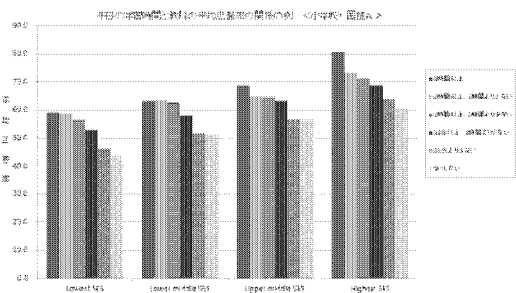






不利な環境を克服している児童生徒の特徴 (平成25年度委託研究)

- 家庭の社会経済的背景 (SES) と子供の学力との間には強い相関があるが、家庭の社会経済的背景 (SES) が低いからといって、必ずしも全ての子供の学力が低いわけではない。
- 子供の学習時間は、全ての家庭の社会経済的背景 (SES) や学力との関係が低く、学習時間は不利な環境を克服する児童の一つの特徴である。



25

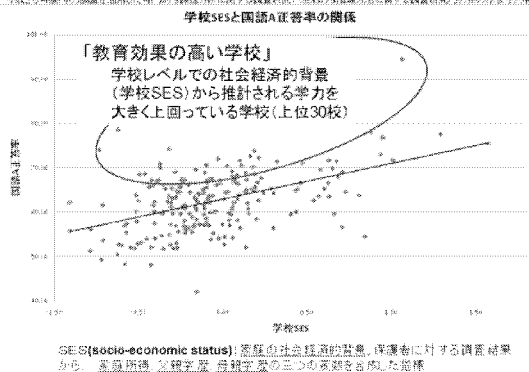
不利な環境を克服している児童生徒の特徴 (平成25年度委託研究)

- 「Low SES」家庭で学力が高い(克服)児童生徒は、以下の特徴がある。
- 朝会等の生活習慣
    - ・朝会を毎日行っている
    - ・毎日同じく同じ内容で練習している
    - ・新しい学習内容と時間やルールを守る時間がない
  - 読書や読み聞かせ
    - ・保護者が子供に本や新聞を読かせる習慣が確立している
    - ・本を読むことが楽しみになっている
    - ・子供と一緒に読書している
  - 勉強や成績に関する会話・学習期待・学校外教育投資
    - ・保護者が子供に勉強や成績のことについて話をしている
    - ・保護者の学習意欲が高い
    - ・学校の教育投資が高い
  - 保護者自身の行動
    - ・授業を教や運動会などの学校行事への参加
  - 児童生徒の学習習慣と学校規則への態度
    - ・家で自分の計画を立てて勉強している
    - ・学校の宿題をしている
    - ・学校の規則を守っている
  - 学校での学習指導
    - ・自分の考えを表現する機会が与えられている
    - ・勉強や学習の進捗について教職員が積極的に関与している

26

教育効果の高い学校 (平成25年度委託研究)

学校による児童生徒の学力向上に有効な実践方法に関する調査研究(効果的な実践方法に関する調査研究)の調査結果を示す。学校SESと国語A正答率の関係を示す。



27

教育効果の高い学校 (平成25年度委託研究)

学校による児童生徒の学力向上に有効な実践方法に関する調査研究(効果的な実践方法に関する調査研究)の調査結果を示す。効果的な実践方法に関する調査結果を示す。

- ① 表現力・課題探究力の向上
  - 例: 児童が自分で調べたことや考えたことをわかりやすく文章に書かせる指導
- ② 授業スタイル
  - 例: 授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れた
- ③ 家庭学習の指導
  - 例: 算数の指導として、家庭学習の課題の与え方について、教職員で共通理解を図ったか
- ④ 学力調査の活用
  - 例: 全国学力・学習状況調査等の結果を学校全体で教育活動を改善するために活用したか
- ⑤ 少人数・IT・補充学習
  - 例: 算数の授業において、習熟度別の少人数指導を行うに当たって、学習集団をどう編制したか
- ⑥ 学校外リソースの活用
  - 例: 地域の人材を外部講師として招聘した授業を行ったか
- ⑦ 実践的研修・研修成果の活用
  - 例: 教職員が校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させているか

28

## ◆付録 6. 過去のプログラム実績

実施期間	開催地	訪問人数
2001年2月5日～24日	東京都、広島県、佐賀県、鹿児島県、京都府、奈良県	50名
2002年1月24日～2月5日	東京都、三重県、兵庫県、京都府、奈良県	50名
2003年1月15日～28日	東京都、山口県、鳥取県、香川県、宮崎県、大阪府、京都府、奈良県	98名
2004年1月29日～2月10日	東京都、北海道、静岡県、大分県、愛媛県、京都府、奈良県	100名
2005年1月19日～2月1日	東京都、北海道、福島県、兵庫県、鳥取県、大阪府、京都府、奈良県	99名
2006年1月11日～24日	東京都、北海道、滋賀県、鳥取県、熊本県、大阪府、京都府	98名
2007年1月23日～2月5日	東京都、北海道、兵庫県宝塚市、埼玉県さいたま市、鹿児島県、 大阪府、奈良県	159名
2008年1月22日～2月4日	東京都、群馬県、宮城県気仙沼市、兵庫県宝塚市、 埼玉県さいたま市、秋田県、大阪府、京都府	158名
2009年2月3日～16日	東京都、福島県西郷村、埼玉県さいたま市、奈良県奈良市、高知県、 熊本県、大阪府、京都府	148名
2010年1月12日～25日	東京都、宮城県気仙沼市、石川県金沢市、和歌山県、大阪府、 大阪府豊中市、京都府	149名
2011年1月11日～24日	東京都、千葉県八千代市、京都府与謝野町、埼玉県さいたま市、 千葉県、奈良県奈良市、大阪府	149名
2012年1月11日～22日	東京都、埼玉県さいたま市、京都府与謝野町、宮城県気仙沼市、 岡山県岡山市、福岡県、大阪府	148名
2013年1月16日～27日	東京都、千葉県八千代市、和歌山県橋本市、石川県小松市、千葉県、 福岡県、大阪府	144名
2014年1月19日～27日	東京都、奈良県奈良市、東京都稲城市、和歌山県橋本市、 石川県小松市、大阪府	118名
2015年1月18日～26日	東京都、千葉県八千代市、千葉県、和歌山県、大阪府	98名
2016年2月16日～22日	東京都、千葉県、東京都狛江市、埼玉県さいたま市、長野県、 千葉県成田市	111名

計 1,877 名

●国際連合大学 2015-2016 年国際教育交流事業●

韓国教職員招へいプログラム

実施報告書

2016 年 3 月

編集・発行

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター (ACCU)

〒162-8484

東京都新宿区袋町 6 番地 日本出版会館

電話 (03) 3269-4498

Email [accu-exchange\\_ml@accu.or.jp](mailto:accu-exchange_ml@accu.or.jp)

URL <http://www.accu.or.jp>

Printed in Japan by WACO Inc. [150]

©2016Asia-Pacific Cultural Centre for UNESCO (ACCU)